NECパーソナルコンピュータ
PC-9800シリーズ

Software Library

MS-DOS® 3.3D
日本語入力ガイド

Software Library

MS-DOS® 3.3D

日本語入力ガイド

ご注意

(1) 本書の内容の一部または全部を、無断で他に転載することは禁止されています。

(2) 本書の内容は、将来予告なしに変更することがあります。

(3) 本書の内容は、万全を期して作成しております。万一、ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきの点がありましたら、ご連絡ください。

(4) 運用した結果の影響については、(3)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

MS-DOS は米国マイクロソフト社の登録商標です。

輸出する際の注意事項

本製品（ソフトウェア）は日本国内仕様であり、外国の規格等には準拠しておりません。
本製品を日本国外で使用された場合、当社は一切責任を負いかねます。また、当社は本製品に関して、海外での保守サービスおよび技術サポート等は行っておりません。

AT1B1A

はじめに

本書は、NEC製コンピュータ用MS-DOS（バージョン3.3D）の標準的な日本語入力機能の使い方の説明書です。コンピュータのキーボードは、通常は、アルファベット、カタカナ、数字、記号類しかタイプできませんが、この日本語入力機能を使用することで、スムーズに漢字かな混じり文をタイプすることができるようになります。

本書の構成と使い方

本書は、入門編（第１章、第２章）、応用編（第３章～第６章）、および付録で構成されています。次に各章の概要を示します。

●入門編

「第１章　基本的な用語とキー操作」は、初めて日本語入力機能をお使いになる方は、必ずお読みください。日本語入力機能の全体的な説明と、最も簡単な使い方を説明しています。マニュアル中で使用している用語や画面の各部分の名前と用途なども説明しています。

「第２章　スムーズな日本語入力」では、日本語入力機能の使い方のより詳しい説明を行っています。同音語をどうするか、読み方が分からない漢字はどうするか、漢字やひらがな以外のカタカナや記号はどうするかなど、必要に応じて読むことができます。

●応用編

「第３章　関連知識」では、ある程度操作に慣れた方のための説明です。できるだけスムーズに日本語を入力する際に役立つ事項が説明されています。

「第４章　辞書ファイル保守ユーティリティ（DICM）」は、コンピュータが日本語を処理する際に使用する辞書ファイルを、保守管理するためのプログラムの説明です。辞書ファイルの保守管理は、それほど頻繁に行う必要はありません。どのようなときにこのプログラムを使用するかは、第１章～第３章の中で随時説明しています。

「第5章　ユーザー定義文字保守ユーティリティ（USKCGM）」は、コンピュータが備えていない特殊な文字や、ユーザーがオリジナルな記号などを使いたいときに使用するプログラムです。

「第6章　日本語入力機能とMS-DOS」は、日本語入力機能をMS-DOSにインストールする（組み込む）方法の説明です。MS-DOSをインストールした時点で、日本語入力機能も自動的にインストールされますが、その設定を変更したいときや、メモリを増設した場合などにお読みください。

付録では、ローマ字入力の規則や、キー操作の一覧などを掲載しています。また、システムが標準として備えている、すべての文字や記号の一覧表もあります。

他のマニュアルについて

本書の他に次のようなマニュアルが用意されています。必要に応じてご利用ください。

●基本機能セット

以下のマニュアルは、『基本機能セット』で提供されています。

インストールガイド

ソフトウェアをコンピュータで使用できるようにする操作を「インストール」と言います。お買い上げいただいたMS-DOSは、まず、このマニュアルの説明に沿ってインストールしてください。『インストールガイド』では、アプリケーション（ワープロや表計算ソフト）をインストールする方法も説明しています。また、プリンタやマウスなど、本体以外の装置（周辺装置）や、日本語入力機能を利用できるようにする方法も説明されています。

ユーザーズガイド

お買い上げいただいたMS-DOSの最も基礎的な事項を、具体的なコマンド操作例を交えて説明しています。アプリケーションプログラム（ワープロソフトや表計算ソフトなど）をただちにお使いになられる方も（すぐに読まれる必要はありませんが）、このマニュアルで扱われている基本的な用語や基礎知識を理解することで、よりコンピュータを便利にお使いいただけるようになります。

●拡張機能セット

以下のマニュアルは、『拡張機能セット』で提供されています。

ユーザーズリファレンスマニュアル

『ユーザーズガイド』では、MS-DOSの最も基礎的なコマンドと操作方法を扱っていますが、『ユーザーズリファレンスマニュアル』では、すべてのコマンドに関する詳細な説明と、より高度な操作方法の説明を行っています。MS-DOSの手引きとして、ご利用ください。

プログラマーズリファレンスマニュアル　Vol.1、Vol.2

MS-DOSの内部的な技術情報を、詳細に説明しています。Vol.1では、主に本体機能関係（ファンクションリクエスト）などを扱っています。Vol.2では、日本語処理、周辺装置（デバイスドライバ）関係を扱っています。MS-DOSの内部機能を利用するプログラムを作成される際にご利用ください。

プログラム開発ツールマニュアル

「プログラム開発ツールディスク」で提供される各種ユーティリティプログラムの使用方法について、詳細に解説しています。アセンブリ言語などで、プログラムを開発される際にご利用ください。

目　次

入門編

第1章　基本的な用語とキー操作

第2章　スムーズな日本語入力

応用編

第3章　関連知識

第4章　辞書ファイル保守ユーティリティ（DICM）

第5章　ユーザー定義文字保守ユーティリティ（USKCGM）

第6章 日本語入力機能とMS-DOS

付 録

コンピュータでは、漢字、ひらがな、カタカナ、記号なども使用することができます。ここでは、このような日本語の文字をスムーズに使う方法を説明しています。

入門編

■本編の内容■

第1章 基本的な用語とキー操作

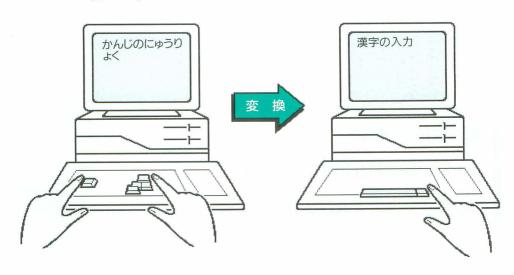
この章は、初めて日本語入力機能をお使いになる方は、必ずお読みください。日本語入力機能の全体的な説明と、最も簡単な使い方を説明しています。マニュアル中で使用している用語や画面の各部分の名前と用途なども説明しています。

1.1 ご利用にあたって

コンピュータのキーボードには、アルファベットやカタカナ、数字や記号など、いろいろな文字が印刷されています。キーをタイプすると、これらの文字が画面に表示されます。しかし、カナキーを押してカタカナをタイプすることはできても、漢字やひらがななどは、そのままではタイプできません。

漢字やひらがななどの日本語をタイプしたいときは、本書で説明する、日本語入力機能を使用します。

▶日本語入力機能とは

日本語入力機能は、コンピュータで、漢字、ひらがな、カタカナなどをタイプする機能です。単語や文章の読みがなをタイプし、それを漢字かな混じり文に変換します。

必要な設定

本書の説明は、MS-DOSを『インストールガイド』の手順でインストールした状態で行っています。この状態で、コンピュータは、日本語を使用できる状態になっています。

MS-DOSをインストールした後で、固定ディスクやメモリを増設した場合は、設定の変更が必要になる場合があります。その場合は、「第6章　日本語入力機能とMS-DOS」を参照してください。

●日本語入力機能を使う際の注意

・本体に、JIS第2水準漢字ROMが装備されていない場合は、JIS第2水準の漢字を使用することはできません。どのような漢字がJIS第2水準に含まれているかは、付録の一覧表を参照してください。

・日本語を入力できる状態では、画面の左下に「R全かな@」などのマークが表示されています。この状態では、辞書ファイルの入ったディスクをドライブ装置から外さないでください（特にフロッピィディスクでMS-DOSを運用している場合）。辞書ファイルを外したドライブに他のディスクをセットすると、そのディスクの内容が破壊される場合があります。

本書に掲載している操作例は、使用されるシステム、辞書の学習状況などによって、実際の動作と異なる場合があります。

1.2　簡単な使い方

ここでは、最も簡単な使い方で、日本語を画面に表示してみましょう。

▶コンピュータの準備

1 コンピュータの周辺装置の電源をONにします。

2 コンピュータ本体の電源をONにします。
フロッピィディスクのみでMS-DOSを運用するシステムの場合は、ドライブAに運用ディスク＃1を、ドライブBに運用ディスク＃2をセットし、リセットボタンを押します。

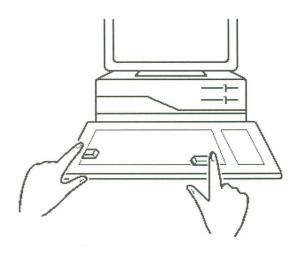
3 MS-DOSのメニュー画面が表示される場合は、STOPキーを押してください。

4 画面にMS-DOSのプロンプト「A〉」が表示されたら、コンピュータの準備は完了です。

▶日本語入力モードに入る（CTRL＋XFER）

日本語入力機能が使用できる状態を、「日本語入力モード」と呼びます。

アルファベットなどを入力している状態から、日本語入力モードに入るには、CTRLキーを押しながらXFERキーも押します。本書では、このような操作を「CTRL＋XFERキーを押す」とも記します。

5 CTRLキーを押しながら、XFERキーも押してください。

画面のいちばん下に、次のような表示が出ることを確かめてください。

A>
R全かな @ ひら変 カタ変 英数変 半変 拡張

これで、日本語をタイプできるようになりました。

このように表示されず、「(16進)」とか、「辞書の指定が不正です」のようなメッセージが表示された場合は、日本語入力機能を使う準備が整っていません。「第6章　日本語入力機能とMS-DOS」を参照して設定を変更してください。

「R全かな@」の部分がこの画面と異なっている場合があっても、大丈夫です。その場合は、「1.2　画面の説明」を参照して、「R全かな@」と表示されるようにしてから、以後の説明に進んでください。

▶日本語を入力する手順

では、簡単な日本語を入力してみましょう。日本語を入力する一般的な手順は、次のようなものです。

1 CTRLキーを押しながら、XFERキーも押します（この操作はすでに行っています）。画面のいちばん下に、日本語が使用できることを示すマークが表示されます。

2 入力したい漢字の「読みがな」を、タイプします。手始めに「漢字」という漢字を表示してみましょう。読みがなをタイプする方法は、ローマ字とカタカナの2通りを選べます。

- ローマ字の場合……k a n n z i とタイプします。
- カタカナの場合……キーボードの左下のカナキーを押してから、カ ン シ ゛ とタイプします。

画面にタイプした読みがなが表示されます。タイプするキーを間違えた場合は、BSキーを押して、間違えた文字まで表示を消して、タイプしなおしてください。

3 読みがなを漢字に変換します。変換キー（スペースキーまたはXFERキー）を押してください。2で入力された読みがなを手がかりに、コンピュータがディスク上の辞書を調べ、最初に見つかった候補の単語を表示します。

日本語には同音語が多いので、一回では「漢字」と表示されないかもしれませんが大丈夫です。

4 同音語に変換された場合は、さらに変換キーを押します。ここでは、システムの辞書に、どのくらいの「かんじ」が登録されているかを調べるためにも、変換キーを10回ほど押してみましょう。

変換キー（スペースキーまたはXFERキー）を押す。

↓

↓

変換キー（スペースキーまたはXFERキー）を押す。

↓

↓

変換キー（スペースキーまたは XFER キー）を押す。

↓

A>漢字
R全かな @　　1完司 2完志 3完次 4完治 5完二 6幹司 7幹次 8幹二

同音語が4種類以上ある場合は、変換キーを4回押したところで、画面の下部に同音語が一覧表示されます。反転表示されている単語が、入力される単語です。

購入したばかりのシステムの辞書には、約10種類の「かんじ」が登録されています。

変換キーをさらに何回か押して、目的の「漢字」を画面に表示させてください。

5 目的の「漢字」が表示されたら、⏎ キーを1回押して、変換を確定します。これで、目的の単語が入力されました。

以上は、もっとも簡単な日本語の入力方法です。しかし、これでは不便を感じられることでしょう。日本語入力機能では、もっとスムーズに漢字かな混じり文を変換しながら入力できます。それらの説明は、次章で行います。

漢字を確定した後、この状態でもう一回⏎キーを押すと、次のようなメッセージが表示されます。

A〉漢字
コマンドまたはファイル名が違います
A〉■

これは、最初に読みがなをタイプしたときに表示されていたMS-DOSのプロンプト「A〉」と関係があります。「A〉」という表示は、MS-DOSがユーザーからの指示（コマンド）を待っている状態を表しています。普通は、ここで「dir」のようなアルファベットのコマンドを入力するのです。そこへ、「漢字」という文字を入力したために、上記のようなメッセージが表示されました。

しかし、心配にはおよびません。「漢字」というコマンドはありませんから、メッセージが表示されるだけで、システムには少しも悪影響はありません。

ここでは、できるだけ早く日本語入力に慣れていただくために、このような変則的な使い方をしました。

日本語入力機能は、本来は、ワープロソフトや表計算ソフトのような、他のソフトウェアと組み合わせて使用する機能なのです。

MS-DOSには標準で〝SEDIT〟というスクリーンエディタが添付されています。これを利用して、仮のファイルを編集するようにすれば、前述のエラーメッセージが表示されることなく、日本語入力の練習ができます。

これには、たとえば次のように入力します（仮のファイル名を〝KANJI.TXT〟としています）。

SEDIT　KANJI.TXT⏎

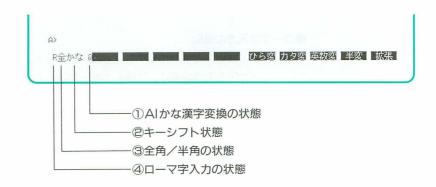
スクリーンエディタ（SEDIT）の使い方は、『ユーザーズガイド』を参照してください。

▶画面の説明

CTRL + XFER キーを押して日本語入力モードに入ると、画面のいちばん下の行が、次のように表示されます。この行を日本語入力モードの「ガイドライン」と呼び、現在日本語入力機能がどのような状態であるかを表しています。

ここでは、ガイドラインの表示の見方を説明します。

●入力モードの表示

入力モードの表示は、４種類の情報を表しています。

表示情報	画面表示	意　味
AIかな漢字変換の状態	@	AI変換を行っています。
	(空白)	AI変換は行っていません。
キーシフト状態	かな	読みがなをひらがなで表示します。(ローマ字入力時のみ)
	カナ	読みがなをカタカナで表示します。(ローマ字入力時のみ)
	英数	読みがなを英数字、英記号表示します。
全角／半角の状態	全	全角文字が入力されます。
	半	半角文字で入力されます。
ローマ字入力の状態	R	ローマ字入力を行います
	(空白)	ローマ字での入力はできません。

▶ローマ字入力／カナ入力（カナ）

コンピュータに対してキーボードをタイプして文字を表示させることを、文字を「入力」するといいます。簡単な操作でも行ったように、日本語を入力するときは、まず読みがなを入力します。

読みがなを入力するには、ローマ字で入力する方法（「ローマ字入力」と呼びます）と、キーボードのカナキーを押した状態でカタカナで入力する方法（「カナ入力」と呼びます）の、２通りの方法があります。

例：「星空」の読みがなである「ほしぞら」を入力する場合

ローマ字入力　h o s i z o r a
カナ入力　ホ シ ソ ゛ ラ

読みがなは、ローマ字入力とカナ入力のどちらでも入力できます。慣れた方をお使いください。

●ローマ字入力の規則

ローマ字の表し方には、何通りかの方式があります。日本語入力機能で採用しているローマ字入力の規則は、付録の「ローマ字入力の規則」に一覧表があります。

ローマ字で入力すると、画面に子音を表すアルファベットが表示され、続く母音をタイプすると、かなに変換されます。

「ほし」と入力するときは、次のように表示されます。

キー	表示
H	H
O	ほ
S	ほS
I	ほし

●カナキー

カナ入力するときは、キーボード左下のカナキーを押してからタイプします。カナキーは、一度押すとキーボードのカナ文字が入力される状態にロックされるので、その状態で連続してカナ入力できます。もう一度カナキーを押すと、ロックが解除され、アルファベットなどを入力する状態に戻ります。

▶ 直接入力／間接入力

タイプした読みがなを、どこに表示しながら変換するかを決めるのが「文字入力位置」の指定です。これには、「直接入力」と「間接入力」の2種類を選べます。

- **直接入力**……画面上のどこでも、カーソルの位置で読みがなの入力と漢字への変換を行えます。MS-DOSをインストールした直後は、この状態です。
- **間接入力**……画面のいちばん下のガイドライン上で、漢字への変換を行った後、画面上のカーソル位置へ漢字が入力されます。

通常の使用では、直接入力の方が便利でしょう。しかし、一部のアプリケーションソフトウェアでは、直接入力を行うと、画面表示が崩れる場合があります。そのようなときは、次の手順で直接入力から間接入力へ切り替えます。

1 日本語モードに入った状態で、f･10キーを押します。

2 ←→キーで「5.入力形式」という項目を反転表示させ、⏎キーを押します。

```
A>
 1.単語登録 2.単語削除 3.辞書切替 4.ローマ字切替 5.入力形式 6.補助機能
```

3 ←→キーで「3.直／間切替」という項目を反転表示させ、⏎キーを押します。

```
A>
R全設定 @      1. 変換方式      2. コード        3. 直／間切替
```

直接入力と間接入力の切り替えは、日本語の入力中はできません。また、辞書ファイルがディスクに無い場合も切り替えはできません（ブザーが鳴ります）。

日本語入力キー操作一覧

ここでは、日本語入力機能で使用するキーと機能を、まとめて図表で示します。各キーと機能の使用方法は、第２章以降で詳しく説明します。

●日本語に使用するキーの位置

日本語入力機能で使用するキーは、キーボード上の次の位置にあります。

PC-9800，PC-H98シリーズ

PC-9801Nシリーズ

●キー操作の一覧表

各キーの機能は、次のようなものです。

キー	機　能
CTRL ＋ XFER	日本語入力モードに入る
XFER または スペース(注1)	読みがなを漢字に変換する。または、同音語の次候補を表示する
SHIFT ＋ XFER	同音語の前候補を表示する
GRPH ＋ XFER	部首変換をする
⏎	文字を一括確定する
↓ または NFER	変換する文節を右に移動する
↑	変換する文節を左に移動する
CTRL ＋ →	変換する文節を延長する
CTRL ＋ ←	変換する文節を縮小する
→	カーソルを右に移動する
←	カーソルを左に移動する
ESC	変換前の状態に戻す(注2)
カナ	（ロックした状態で）カナ入力
CAPS	（ロックした状態で）大文字の英文字入力
BS	カーソルの直前の文字を削除する
DEL	カーソルがある位置の文字を削除する
f･6	ひらがなに変換する
f･7	カタカナに変換する
f･8	英文字に変換する
f･9	半角の英数、カタカナに変換する
f･10	拡張機能
SHIFT ＋ f･6	タイプした読みがなをひらがなで表示する
SHIFT ＋ f･7	タイプした読みがなをカタカナで表示する
SHIFT ＋ f･8	タイプした読みがなを英文字で表示する
SHIFT ＋ f･9	全角と半角を切り替える
SHIFT ＋ f･10	文字コード番号で入力する
TAB	変換前の文字を一括確定する

（注１）読みがなが表示されていない状態でスペースキーを押すと、空白の入力となります。

（注２）読みがなの入力中は、読みがなをすべて消去します。

●[f・10]でのメニュー一覧表

[f・10]キー（拡張機能）を押すと、画面最下行にメニューが表示され、さらに次のような機能を設定できます。

メニュー項目	機　能
1.単語登録 2.単語削除 3.辞書切替 4.ローマ字切替	単語登録モードに入る。 単語削除モードに入る。 変換に使用する辞書ファイルを変更する。 ローマ字モードのON／OFF。
5.入力形式	入力形式に関して、さらに次の事項を設定する。 1.変換方式　変換方式を変更する。 　1.逐次変換 　2.連文節変換（先読みあり） 　3.連文節変換（先読みなし） 2.コード　[SHIFT]＋[f・10]で使用する文字コードを選択。 　1.JISコードを使用する。 　2.シフトJISを使用する。 　3.区点コードを使用する。 3.直／間切替　直接入力／間接入力を切り替える。
6.補助機能	学習機能などについて、さらに次の事項を設定する。 1.学習　学習機能を働かせるかどうかを選択。 　1.学習有り 　2.学習無し 2.句読点変換　句読点をタイプしたときに変換するかどうかを選択。 　1.句読点の入力で変換する。 　2.句読点で変換しない。 3.同音語指定　同音語の表示方法の選択。 　1.直接表示 　2.一覧表示 　3.直接／一覧の切り替え(注)

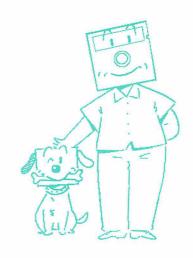
（注）何回目の変換キー押下で一覧表示を行うかを指定します。

拡張機能の各機能の説明に際しては、つぎのような表記法を用います。

[f・10]–[1.単語登録]

[f・10]キーで拡張機能を選択し、次に[1.単語登録]機能を選択することを表す。

[f・10]–[5.入力形式]–[1.変換方式]

[f・10]キーで拡張機能を選択し、次に[5.入力形式]機能を、さらに[1.変換方式]を選択することを表す。

第2章 スムーズな日本語入力

この章では、できるだけスムーズに日本語の文章を入力する方法を説明します。初めは、目的の漢字が即座に表示されなかったり、キーボードのキーを捜すだけでもイライラするかもしれません。本章の例を応用しながら、毎日少しずつ繰り返しながら練習すると良いでしょう。

2.1 読みがなの入力と修正方法

日本語を入力する操作は、①読みがなをタイプする、②漢字などに変換するという操作の繰り返しです。ただし、タイプを間違えることや、同音語に変換されてしまう場合もあるでしょう。このような場合は、少々違った操作を行うことになります。

ここでは、操作の流れに沿って、スムーズに日本語を入力する方法を説明します。

▶読みがなの入力と漢字かな混じり文への変換

日本語入力モードになっていることを、確認してください。ガイドラインに「R全かな@」などが表示されている筈です。ガイドラインが表示されていない場合には、CTRL＋XFERキーを押して、日本語入力モードに入ります。

1 「スムーズな入力」と入力してみましょう。

- ローマ字入力の場合は、「SUMU-ZUNANYUURYOKU」とタイプします。
- カナ入力の場合は、カナキーを押してロックし、「スムース゛ナニユウリヨク」とタイプします。

画面には、次のように表示されます。

A>すむーずなにゅうりょく
R全かな @　　　　　　　　　ひら変 カタ変 英数変 半変 拡張

2 読みがなを確かめてください。

3 変換キー（スペースキーまたは XFER キーを押すと、漢字かな混じり文に変換されます。

読みがなを修正するチャンスは、２回あります。１回は変換前、もう１回は変換後におかしな変換に気付いてからです。実際の場面では、両方の機会で修正しながら日本語を入力しますが、変換前に修正できればそれにこしたことはありません。なぜならば、変換後には、変換結果を確かめたり、同音語を修正する操作もあるからです。

逐次変換や、連文節（先読み有り）の変換モードでは、読みがなが入力されると文の先頭から変換が始まりますから、読みがなの誤りは誤変換となって表示されます。

たとえば、前例の「すむーずなにゅうりょく」と入力するべきところを、「すむーずなみゅうりょく」と入力してしまったとしましょう。この場合、画面には次のように表示され、読みがなの入力に間違いがあることが分かるでしょう。

A>スムーズ名みゅうりょく
R全かな @　　　　　　　　　ひら変 カタ変 英数変 半変 拡張

▶読みがなを間違えて入力した場合（BS／ESC／←DEL）

気をつけてキーをタイプしていても、間違いは生じるものです。

たとえば、「すむーずなにゅりょく」とタイプするべきところを、「すむーずなみゅうりょく」とタイプしてしまったとしましょう。

```
A>スムーズ名みゅうりょく
R全かな @                    ひら変 カタ変 英数変 半変 拡張
```

このように読みがなを間違えて入力した場合の修正方法は、3通りあります。

- BSキーで文末から間違えた位置までの読みがなを消してから、正しい読みがなを入力し直す。
- ESCキーで読みがな全体を消して、最初から入力し直す。
- ←キーで読みがなの途中にカーソルを移動して、DELキーで修正する。

●文末から1文字ずつ消してタイプしなおす（BSキー）

修正の仕方としては、いちばん簡単な方法です。BSキーを押すと、文末に位置しているカーソルが、1文字ずつ読みがなを消しながら戻って行きます。

1 読みがなを間違えて入力してしまいました。

```
A>スムーズ名みゅうりょく
R全かな @                    ひら変 カタ変 英数変 半変 拡張
```

2 BSキーを何回か押して、間違えた箇所まで読みがなを消します。

```
A>スムーズ名
R全かな @                    ひら変 カタ変 英数変 半変 拡張
```

間違って変換されていることが、気になる方もいらっしゃるでしょうが、変換結果の一部分に下線がついている点に注目してください。この下線は、変換を速やかに行うために、「仮に」変換した結果であることを表しています。

3 正しい読みがなをタイプしなおします。

後は、変換キー（スペースキーまたは XFER キー）を押せば、正しく変換されます。

●読みがなをすべて入力しなおす（ESC キー）

ESC キーを押すと、変換前の読みがながすべて消去されますから、最初から読みがなを入力し直してしまう方法です。タイプに慣れ、キーボードを見なくてもタイプできる方には、この方法の方が手っとり早いかも知れません。

1 読みがなを間違えて入力してしまいました。

2 ESC キーを押して、読みがなをすべて消去します。

3 正しい読みがなを、最初から入力し直します。

後は、変換キー（スペースキーまたは XFER キー）を押せば、正しく変換されます。

第2章

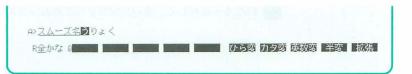
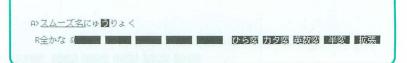
●読みがなの途中を修正する（←キー、DELキー）

←キーを押すと、読みがなの右端に表示されているカーソルが、読みがなの中へ移動して行きます。そこで、DELキーで間違えた箇所のみを消し、正しい読みがなを挿入する方法です。長い読みがなの場合や、読みがなの先頭の方を修正する場合に適した方法です。

1 読みがなを間違えて入力してしまいました。

A>スムーズ名みゅうりょく
R全かな @ ひら変 カタ変 英数変 半変 拡張

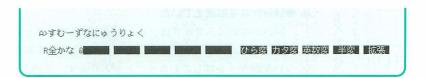
2 ←キーを何回か押して、間違えた箇所までカーソルを戻します。

3 DELキーで、間違っている読みがなを消去します。

4 正しい読みを挿入します。この場合は「にゅ」です。タイプした文字は、常に、カーソルの左側に挿入されます。

5 →キーを何回か押して、カーソルを読みがなの右端へ移動します。読みがなの途中にカーソルがあるままですと、日本語入力機能は、そこを文節の切れ目と判断してしまいます（誤変換の原因となります）。

この後、変換キー（スペースキーまたはXFERキー）押すと、正しく変換されます。

▶漢字への変換と確定（スペースキー／XFER）

読みがなを正しくタイプしたら、スペースキーまたはXFERキーで、漢字かな混じり文に変換します。変換されたされた最初の文節が、反転表示されます。

1 「すむーずなにゅうりょく」を変換してみましょう。

2 スペースキー（またはXFERキー）を押します。コンピュータの辞書が調べられ、変換が行われます。

先頭の「スムーズな」が、反転表示されている点に注目してください。この表示は、日本語入力機能が、この部分を1つの文節と判断したことを示しています。

3 [↓]キー押すと、反転表示が文節ごとに、文末へ移動して行きます。何回か[↓]キーを押すと、反転表示が消えて、カーソルが右端に表示されます。これで、１回分の読みがなの変換は終了です。

```
A>スムーズな入力
R全かな 漢                      ひら変 カタ変 英数変 半変 拡張
```

このように、変換結果が正しいことを確認して[↓]キーを押す操作を、変換結果を「確定」すると言います。

変換結果全体が正しい場合は、[↓]キーの代わりに[⏎]キーを押すと、文節ごとではなく、読みがな全体が一度に確定されます。

この例では、変換結果は、最初に意図したとおりのものでした。しかし、常に正しく変換されるとは限らないのが現状です。これには、次のような原因が考えられます。

●読みがなを間違えていた

読みがなのミスタイプは、どんなに注意していても完全には無くならないものです。キーボードに慣れている人でも、正しく読みがなをタイプしたつもりで、つい変換キーを押してしまうことがあります。このようなときは、「2.2　変換後の読みがなの修正」の操作を行います。

●同音語に変換された

日本語はもともと同音語が多い性質の言葉なので、これはある程度仕方の無いことです。この場合は、「2.3　同音語から目的の漢字を選択する」の操作を行います。

●文節（単語）の切れ目を、日本語入力機能が間違って判断した

読みがなを入力したときに考えていた単語の切れ目と、日本語入力機能が判断した文節が違っていると、当然誤変換となります。このような場合は、「2.4　文節の切れ目を変更する」の操作を行います。

●ひらがなやカタカナの筈が漢字に変化された

参照：ひらがな変換、カタカナ変換➡「2.6　漢字以外の文字や記号の入力方法」

これは、同音語と文節の切れ目の両方に関係していることです。原因のほとんどは、文節の切れ目を直せば正しく再変換されます。あるいは、「ひらがな変換」「カタカナ変換」などの操作を行います。

参照：単語登録→「3.1　単語の登録」、「第4章　辞書ファイル保守ユーティリティ」

●単語が辞書に登録されていない

これは、辞書の宿命ともいえることです。システムの辞書にあらかじめ登録されている単語は、日常生活で利用頻度の高い言葉ですが、専門的な言葉や、珍しい地名や人名、新しい言葉などを網羅できるものではありません。このような場合は、「単語登録」の操作を行って、その場で単語を辞書に登録します。

適切な読みがなの長さは何文節か

一度に変換できる文節の数は、何文節ぐらいが適当でしょうか。

一度に入力できる読みがなの長さは、64文字（間接入力時32文字）までです。日本語入力機能は、読みがなの中から、漢字やカタカナに変換できる部分を、辞書を調べながら適切に判断します。しかし、初めのうちは、意識的に少し短めに文を区切って変換すると良いでしょう。

たとえば、この文章の先頭の文ならば、次のように区切ります。

「いちどに」「へんかんできる」「ぶんせつの」「かずは」
（一度に変換できる文節の数は）

１つのかっこ「」の中は、「文節」と呼ばれる単位で、文を不自然にならない程度に区切った最小の長さです。文を声に出して読むとき、ここで息継ぎをしても意味が通じる最小の長さと考えても良いでしょう。

このように短く区切るメリットは、読みがなを間違えてもすぐに修正できることと、同音語に変換されたときの修正がたやすいことです。

しかし、あまりに区切りを短くすると、文を考える自然な思考が中断されてしまいます。タイプに慣れたら、区切りを少し長くして良いでしょう。

「いちどにへんかんできる」「ぶんせつのかずは」

あるいは、一度に、

「いちどにへんかんできるぶんせつのかずは」

文章の書き方は人により個性がありますが、平均的には数文節ずつ、文を組み立てて行くのが自然です。日本語入力機能は、そのような自然な発想に合わせて読みがなを変換して行きます。

2.2 変換後の読みがなの修正

読みがなのミスタイプは、どんなに注意していても完全には無くならないものです。キーボードに慣れている人でも、正しく読みがなをタイプしたつもりで、つい変換キーを押してしまうことがあります。このようなときは、次のように修正します。

1. ESCキーを2回押して、読みがなの入力中の状態に戻ります。
2. 前述の←キーとDELキーを用いた方法で、読みがなの間違いを直します。
3. カーソルを読みがなの右端へ移動し、変換キーを押します。

2.3 同音語から目的の漢字を選択する（スペースキー／XFER）

日本語の特徴は、同音語が多いことです。

たとえば、「あの人と『あう』」という文を考えてみましょう。普通には「あの人と『会う』」ですが、あの人が素敵な異性ならば「あの人と『逢う』」と書きたくなることもありますし、駅で偶然出会ったならば「あの人と『遭う』」とも書けます。仲良くできる人ならば、「あの人と（ウマが）『合う』」でしょう。

1 素敵な人と待ち合わせをすることにして、「あの人と逢う」と入力してみましょう。読みがなは「あのひととあう」とタイプします。

2 変換キーを押すと、辞書が調べられ、最初の候補の漢字に変換されます。

3 最初の文節である「あの人と」の部分を、↓キーで確定します。

4 「会う」の文節だけを、変換キー（スペースキーまたはXFERキー）を何回か押すことで、さらに再変換します。

5 目的の漢字が表示されたので、[↓]キーを押して、変換を確定します。

A>あの人と逢う
R全かな @　ひら変 カタ変 英数変 半変 拡張

この例では「あう」は、読みがなの最後の文節でしたが、途中の文節の同音語の操作も同様です。[↓]キーで再変換する文節を右に移動し、変換キーで再変換するという操作を繰り返します。

●同音語がたくさんある場合

同音語がたくさんある場合には、変換キーを何回か押すと、画面のいちばん下に同音語の候補がまとめて表示されます。

1「せいか」という読みがなを入力して、変換してみましょう。辞書に登録されている初めの3語までは、画面中に表示されます。

2 同音語が4つ以上あると、画面下部に候補の言葉がまとめて表示されます。

A>正課
R全かな @　1生花 2盛夏 3正価 4精華 5製菓 6清家 7精化 8西華 9姓か

この状態での各キーの役割は次のとおりです。

[1]〜[9]	……該当する番号の候補を選択する
[⏎]	……反転している候補を選択する
[←][→]	……候補群の中で反転部分を（左右に）移動させる
スペースキー	……候補群の中で反転部分を右に移動させる
[XFER]	……次の候補群を表示する
[SHIFT]＋[XFER]	……前の候補群を表示する

システムの最初の設定では、4単語以上同音語があると、このような候補群が表示されますが、この数はf•10−[6.補助機能]−[3.同音語指定]−[2.一覧表示]を選択すると、最初から同音語の候補群が表示されます。

第2章

2.4　文節の切れ目を変更する（CTRL＋←／→）

日本語入力機能は、辞書を調べながら文節の切れ目を判断しますが、時として私たちの意図しなかったところで文節を区切ってしまうことがあります。これは、再変換の回数を減らすために、できるだけ長い単語と一致するように文節の切れ目を捜すためです。

このような場合は、変換後に、強制的に文節の切れ目を変更してから、再変換します。

たとえば、「えいぶんか」という読みがな変換する場合を考えてみましょう。この読みがなから変換できる単語は3通りあります。普通には文節の最後の部分は助詞であることが多いので「英文か」と変換できますが、英文学科の略で「英文・科」、あるいはイギリス文化という意味の「英・文化」と変換したい場合もあります。

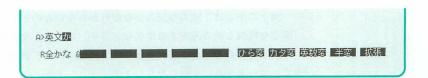
1 「えいぶんか」を「英文科」に変換してみましょう。この読みがなを入力して変換キーを押すと、「英文か」と変換されます。

これは、読みがなの最後の「か」が助詞と判断されて、読みがな全体が1つの文節と判断されたためです。再度変換キーを押しても、「英文か」と「えいぶんか」を行ったり来たりするだけです。

このような場合は、強制的に文節の切れ目を変更します。文節の切れ目を変更するには、次のキー操作を行います。

- 文節を短くする…………CTRLキーを押しながら、←キーも押す。
- 文節を長くする…………CTRLキーを押しながら、→キーも押す。

2 「えいぶんか」という文節を、「えいぶん（英文）」「か（科）」にするのですから、文節を短くするためにCTRLキーを押しながら←キーも押します（本書では、このような操作を「CTRL＋←キーを押す」とも表記しています）。CTRL＋←キーを何回か（この場合は1回）押すと、「英文」の部分のみが反転表示され、1文字分文節が短くなったことが分かります。

3 「英文」の部分は正しく変換されたので、↓キーでこの部分を確定します。

4 「か」の部分を、変換キーで再変換します。「か」も同音語の多い言葉ですが、前述の同音語の選択方法の操作を行います。

5 画面最下部に同音語群を表示させ、目的の「科」を反転表示させ、⏎キーで確定します。

参照：単語登録→「3.1　単語の登録」「第4章　辞書ファイル保守ユーティリティ」

専門用語のように、辞書に登録されていない熟語を変換する場合もこの方法を使用して、1・2文字ずつ変換して行きます。なお、その熟語を頻繁に使用するのであれば、「単語登録」の操作で辞書に登録しましょう。

第2章

2.5　読みがわからない漢字のタイプ方法

漢字の中には、適当な読みがなが分からないものがあります。たとえば、人名漢字や特殊な読み方をする地名などです。このような漢字を入力するときは、その漢字の部首の名前を基に変換したり、漢字コード表からその漢字コードを調べて、コードを基に変換したりします。

▶部首名がわかる場合（部首選択）（GRPH＋XFER）

特殊な漢字（JIS第2水準）や一部の特殊記号は「部首選択」という変換方法を使って入力できます。この方法では、漢字の部首の「読み」をタイプして漢字に変換します。

部首の読み方は、付録の「部首の読み一覧表」で調べます。また、読みを変換するときは、GRPH＋XFERキーで変換します。

1 「凉」という文字を入力してみましょう。この漢字の部首は「冫」です。付録の「部首の読み一覧表」を調べると、「冫」の読みは「ん」または「に」となっています。

2 日本語入力モードになっている状態で、部首の読みをタイプします。この場合は、「ん」（または「に」）とタイプします。

3 GRPH＋XFERキーで漢字に変換します。指定した部首の漢字が1字ずつ画面に表示されます。部首の読みで変換した場合は、ガイドラインに「部首」と表示されます。

4 次候補を表示するには、スペースキーまたはXFERキーを押します。前候補に戻るには、SHIFT＋XFERキーを押します。

5 希望の候補が表示されたら、⏎キーで確定します。

付録の「部首の読み一覧表」の最後には、記号類の読み方も掲載されています。これらの記号類も、部首の読みによる入力と同じように入力できます。

たとえば、時計の文字盤で使用するようなローマ数字を入力するときは、「。ろ」とタイプしてから、GRPH＋XFERキーを押します。

▶漢字コードがわかる場合（コード入力）（SHIFT＋f･10）

私たちは、漢字を読みがなや形で覚えます。たとえば、「山」という漢字は、山の形をした象形文字から生まれた文字であることを知っています。

一方、コンピュータはすべての文字につけた番号で漢字を管理しています。この番号を「漢字コード（番号）」と呼びます。各漢字に付けられた番号は、付録の「漢字コード表」にすべて掲載されています。入力したい文字の漢字コードがわかれば、コード入力という方法を使ってタイプできます。

1 「凰」という文字をJISコードを使って入力してみましょう。付録の「漢字コード表」を調べると、この漢字のJISコードは「5160」であることがわかります。

2 日本語入力モードになっている状態で、SHIFT＋f･10キーを押します。

3 漢字コードをタイプします。この場合は、「5160」とタイプします。タイプした数字は表示されません。

4 タイプしたコードに該当する文字が表示され、コード入力は終了します。

2.6 漢字以外の文字や記号の入力方法

ここでは、漢字に変換したくない文字の処理方法や、記号の入力方法を紹介します。

ひらがなの入力

●ひらがなだけを連続して入力する

ひらがなだけを入力したい場合は、読みがなを入力したら、（スペースキーなどで変換せずに）すぐに⏎キーを押して確定します。次に例を示します。

1 読みがなを入力します。

2 ⏎キーを押して確定します。

●漢字やカタカナ、英字をひらがなにする（ひらがな変換）

入力した読みがながすでに漢字などに変換されている場合や、キーシフト状態が「カタカナ」あるいは「英数」になっている場合に、表示されている文字をひらがなにするには、f･6キーを押して、ひらがな変換します。次に例を示します。

1 「ひらがな」を変換すると、漢字で「平仮名」と変換されます。

2 f･6キーを押すと、その文節が強制的にひらがなになります。

3 ⏎キーを押して確定します。

スペースキーなどで変換する前（文字が黄色の場合）に[f･6]キーを押すと、すべてひらがなに変換され、変換中（水色で反転された文字がある場合）に[f･6]キーを押すと、反転している部分がひらがな変換されます。ひらがな変換させたい部分を変更する場合は、[↑][↓]キーを使います。

カタカナの入力

一般的によく使われる外来語などは、あらかじめ辞書に登録してあるので、スペースキーなどで変換するとカタカナに変換されます。ここでは、通常のかな漢字変換でカタカナに変換されない単語をカタカナにする方法を説明します。

●カタカナだけを入力する（カタカナシフト）

キーシフト状態を「カタカナ」に変更することで、入力した読みがなを連続してカタカナで入力することができます。

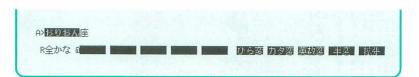
1 SHIFT＋f･7キーを押します。ガイドラインが次のように変わります。

この状態で入力した読みがなは、カタカナで表示されます。⏎キーを押すとそのまま確定し、スペースキー、またはXFERキーを押すと漢字かな混じり文に変換されます。

●漢字やひらがな、英字をカタカナにする（カタカナ変換）

表示されている（確定前の）文字をカタカナにする場合は、f･7キーを押して、強制的にカタカナへ変換します。次に例を示します。

1 「オリオン座」と入力してみましょう。「おりおんざ」と読みがなを入力して変換しましたが、「オリオン」は辞書に登録されていなかったので、誤変換されてしまいました。

2 文節が「おり-おん-ざ」と区切られているので、CTRL＋→キーで「おりおん」を一つの文節にします。

3 [f･7]キーを押して、「おりおん」の部分を強制的にカタカナに変換します。

```
A>オリオン座
R全かな @                         ひら変 カタ変 英数変 半変 拡張
```

4 [⏎]キーを押して確定します。

スペースキーなどで変換する前（文字が黄色の場合）に[f･7]キーを押すと、すべての文字がカタカナ変換され、変換中（水色で反転された文字がある場合）に[f･7]キーを押すと、反転している部分がカタカナ変換されます。カタカナ変換させたい部分を変更する場合は、[↑][↓]キーを使います。

▶ 英数字の入力

キーボード上の英数字を入力するときは、カナ入力をしている方は、カナキーを押してカナロックをはずしておいてください。

●英数字だけを入力する（英数シフト）

キーシフト状態を「英数」に変更することで、入力した読みがなを連続して英数字で入力することができます。

1 SHIFT＋f･8キーを押します。ガイドラインが次のように変わります。

この状態で入力した読みがなは、英数字で表示されます。⏎キーを押すとそのまま確定し、スペースキー、またはXFERキーを押すと漢字かな混じり文に変換されます。

●漢字やひらがな、カタカナを英字にする（英数変換）

表示されている（確定前の）文字を英字にする場合は、f･8キーを押して、英数変換します。次に例を示します。

1 「OA機器」と変換したいのに、次のように変換されているとします。

2 文節が「お-あき-き」と区切られているので、CTRL＋→キーで「おあ（OA）」を一つの文節にします。

3 [f･8]キーを押して、この文節を強制的に英数字にします。

A>OA機器
R全かな @　　ひら変　カタ変　英数変　半変　拡張

4 [⏎]キーを押して確定します。

ローマ字入力をしている場合、スペースキーなどで変換する前（文字が黄色の場合）に[f･8]キーを押すと、すべての文字が英数変換され、変換中（水色で反転された文字がある場合）に[f･8]キーを押すと、反転している部分が英数変換されます。英数変換させたい部分を変更する場合は、[↑][↓]キーを使います。

●漢字に変換されない英字を入力する（ローマ字入力モードのOFF）

読みがなを入力する際に、漢字などに変換されない英字を入力することができます。次に例を示します。

1 「OA機器」と入力してみましょう。通常この単語の読み（「OAKIKI」または「OAキキ」）を入力すると「おあきき」と表示されますが、次のようにローマ字入力モードをOFFにすると、「OA」が変換されません。

2 [f･10][4：ローマ字切替]で、ローマ字入力モードをOFFにします。入力モードのガイド表示から「R」が消えます。

3 「OA」と入力します。カナ入力の方は、[カナ]キーを押して、カナロックをはずして入力してください。

4 [⏎]キーを押して確定します。

第2章

5 f･10[4：ローマ字切替]で、ローマ字入力モードをONにします。入力モードのガイド表示には「R」と表示されます。

6 「きき」と入力します。カナ入力の方は、カナキーを押して、カナロックしてから入力してください。

7 スペースキーまたはXFERキーを押して変換します。

8 ⏎キーを押して確定します。

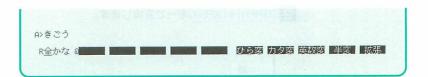
記号の入力

カナ入力をしている方がキーボード上の英記号を入力する場合は、カナキーを押して、カナロックをはずしてから入力します。

キーボードにはない特殊記号を入力する場合は、大きく分けて2通りの方法があります。以下でそれぞれの方法を説明します。

●かな漢字変換を使う方法

「きごう」という読みがなで、通常のかな漢字変換と同じ手順で行います。

1 郵便番号のマーク「〒」を入力しみましょう。読みがなに「きごう」と入力します。

2 スペースキーまたはXFERキーを押して変換します。

3 続けてスペースキーまたはXFERキーを押すと、次候補選択の要領で、表示される記号が変わります。

4 希望の候補が表示されたら、⏎キーを押して確定します。

●部首選択を使う方法

部首選択機能を使っても、特殊記号を表示することができます。操作手順は部首選択と同様です。入力する読みがなと表示される記号の一覧は、付録の「部首の読み一覧表」にあります。

1 丸付き数字「①」を入力してみましょう。読みとして「。ま」と入力します。

2 [GRPH]＋[XFER]キーで変換します。

次候補を表示するには、スペースキーまたは[XFER]キーを押します。

3 希望の候補が表示されたら、[⏎]キーを押して確定します。

丸付き数字は、読みがなとして数字（この場合は「1」）を入力して変換することもできます。

▶半角英数カタカナの入力

半角（1バイト）のアルファベット、数字、カタカナを入力するいちばん簡単な方法は、日本語入力モードから出て（CTRL＋XFERキー）しまうことです。しかし、アプリケーションによっては、日本語入力モードから出られない場合があります。

ここでは、そのような場合の操作方法を説明します。

●半角文字だけを連続して入力する

1 まず、SHIFT＋f･9キーを押します。入力モードのガイド表示が「全」から「半」になります。半角入力モードに入ったことを表しています。

A>
R半カナ ひら変 カタ変 英数変 半変 拡張

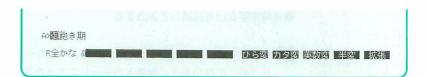
この状態で読みがなを入力すると、半角のカタカナで表示されます。⏎キーを押すとそのまま確定し、スペースキー、またはXFERキーを押すと変換されます。

2 英数字を表示したい場合は、SHIFT＋f･8キーを押します。ガイド表示が「カナ」から「英数」になります。カナ入力をしていた場合は、カナキーを押して、ロックをはずします。

ここで読みがなを入力すると、半角の英字が表示されます。⏎キーを押すとそのまま確定し、スペースキー、またはXFERキーを押すと変換されます。

●全角文字を強制的に半角の英数カタカナにする（半角変換）

表示されている（確定前の）文字を半角の英数カタカナにする場合は、f・9キーを押して、半角変換します。次に例を示します。

1 「OA機器」のアルファベットの「OA」の部分を半角文字で入力してみましょう。「おあきき」（OAの部分がひらがなに変換されます）と入力して変換すると、誤変換されてしまいます。

2 CTRL＋→キーで、文節を変更します。

3 f・8キーで、反転表示の部分を強制的に英数字に変換します。

4 f・9キーを押すと、反転している文節が強制的に半角文字になります。

5 ⏎キーを押して確定します。

2.7　便利な変換機能

日本語入力機能では、通常「読みがな」を入力して漢字に変換していますが、この方法を応用して、英字の略号から機関名への変換、数字3桁の郵便番号から住所への変換を行うことができます。

▶ 略号から正式名へ

辞書ファイルには、アルファベットの略号を読みがなとする機関名がいくつか登録されています。これらの機関名は、あらかじめ登録された略号を入力し、変換することで表示できます。この方法を使うと、アルファベットを数文字入力するだけで長い文字列（機関名）を入力できるので便利です。

1 「IOC」で「国際オリンピック委員会」を入力してみましょう。

・カナ入力をしていた場合は、カナキーを押して、ロックをはずしておきます。
・入力モードのガイド表示に「R」と表示されている場合は、f･10−[4：ローマ字切替]で、「R」の文字を消去します。

ガイドラインが次のようになっていれば、準備は完了です。

2 「IOC」と入力します。

3 スペースキーまたはXFERキーを押して、変換します。

4 ⏎キーを押して確定します。

この他にも辞書にはいくつかの機関名が略称で表示できるように登録されています。次に登録されている機関名をいくつか示します。

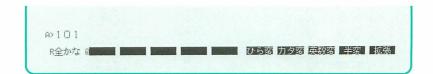
読み(略称)	表示内容(機関名)
ASEAN	東南アジア諸国連合
EC	欧州共同体
	ヨーロッパ共同体
IMF	国際通貨基金
IOC	国際オリンピック委員会
NATO	北大西洋条約機構
OPEC	石油輸出国機構
UN	国際連合
WHO	世界保健機関
：	：

参照：DICM→「第4章　辞書ファイル保守ユーティリティ」

他に登録されている機関名を知りたい場合は、辞書ファイル保守ユーティリティ（DICM）を使用して、辞書の一覧を行って確認してください。登録されていない機関名でも、単語登録をすれば、ここで説明した方法で、略号から変換できるようになります。

▶郵便番号から住所表示へ

辞書ファイル内には、３桁の数字（郵便番号）を読みがなとする住所が登録されています。これらの住所は、あらかじめ登録された郵便番号を入力し、変換することで表示できます。この方法を使うと、少ないキー入力で住所が表示できるので、住所録の作成などに便利です。

1 「101」で「東京都千代田区」を入力してみましょう。３桁の数字を全角文字で入力します。

2 スペースキーまたは[XFER]キーを押して変換します。

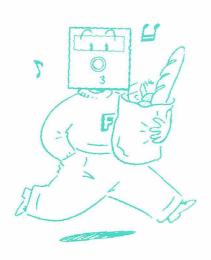
3 [↵]キーを押して確定します。

この他にも辞書にはいくつかの住所が郵便番号で表示できるように登録されています。次に登録されている住所をいくつか示します。

読み（郵便番号）	表示内容（住所）
001	北海道札幌市北区
002	北海道札幌市北区
	北海道石狩郡
101	東京都千代田区
411	静岡県沼津市
	静岡県三島市
	：

参照：DICM→「第４章　辞書ファイル保守ユーティリティ」

他に登録されている住所を知りたい場合は、辞書ファイル保守ユーティリティ（DICM）を使用して、辞書の一覧を行って確認してください。

第２章

ここでは、日本語入力機能をより便利にお使いいただくための方法、辞書ファイルの保守の方法、独自の記号などを作る方法などを説明しています。

応用編

■本編の内容■

第3章 関連知識

第３章では、日本語入力機能を操作する上で知っておいていただきたい事項（単語の登録と削除、辞書の切り替え、変換方式による違い、学習機能や先読み機能について、環境について、キーの割り付けの変更について）を解説します。

3.1 単語の登録

システムディスクの辞書ファイルにあらかじめ登録されている単語は、いろいろな分野の文章（新聞、雑誌、ビジネス文書など）で多く使われている、使用頻度が比較的高い単語です。

したがって、珍しい地名や人名、特定の分野の専門用語、カタカナ語などは単語として登録されていない場合があります。このような語を使うときには、多くの場合、何度も XFER キーを押しながら単語を少しずつ（場合によっては１文字ずつ）文字変換しなければなりません。

そのような単語も、辞書に登録すれば、２回目からは即座に変換できるようになります。

▶単語登録の手順

日本語入力機能のひとつとして、ユーザーが独自の単語を独自の読みで辞書ファイル内に登録できる機能があります。辞書ファイルに独自の単語を登録しておけば、変換が正確にできるようになります。

また、この単語登録機能を用いると、短い読みがなで長い単語を登録することもできます。よく使う語は他の語と混同しない短い読みで登録しておけば、タイプの手間を軽減することができます。

新しい語を辞書ファイルに登録する方法には、次の２通りの方法があります。

・日本語入力モード中で、f･10－[１：単語登録]を用いる。
・MS-DOSの辞書ファイル保守ユーティリティ（DICMコマンド）を用いる。

ここでは、日本語入力機能を使用してるその場で登録する、前者の方法を説明します。辞書ファイル保守ユーティリティ（DICM）を用いる方法については、第4章に説明があります。

●単語登録の手順

f•10−[1：単語登録]で、画面上の2バイト文字を簡単に辞書ファイルに登録することができます。いったん単語とその「読み」を登録すれば、以後はその読みで簡単に変換できるようになります。

登録できる単語の長さと読みがなの長さは、16文字までです。また、半角文字は登録できません。

1 「明広」という名前を「あきひろ」という読みで単語登録してみましょう。CTRL＋XFERキーで、日本語入力モードに入ります。

2 登録したい単語を画面に表示します。この例では、読みがなを「みょう」「ひろ」のように分けて変換し、表示します。登録する前の語は、どんな読みを使ってもかまいませんからともかく目的の漢字を画面に表示してください。

3 f•10−[1：単語登録]で、単語登録モードにします。画面は次のようになります。

```
A>明広
 R全かな @      登録:漢字
```

単語登録を中止するには、ESCキーを押してください。

4 登録したい単語の範囲を指定します。まず、矢印キー（↑↓←→）でカーソルを単語の先頭文字に重ね、⏎キーを押します。

```
A>明広
 R全かな @      登録:漢字
```

次に、単語の最後の文字にカーソルを重ねて⏎キーを押します。登録単語は反転表示されます。

```
A>明広
 R半カナ @      登録:読み
```

5 ガイドラインの「漢字」の表示が「読み」に変わり、入力モードが半角入力モードになります。ここで、読みを16文字以内の英数字またはカタカナでタイプします（英記号やカナ記号は使用できません）。ここでは「アキヒロ」とタイプし、[⏎]キーを押します。

```
A>明広
 R半カナ @      登録:読み ｱｷﾋﾛ
```

6 読みをタイプすると、次は品詞の選択に移ります（「品詞」については、次項を参照してください）。登録したい単語に適した品詞を指定してください。品詞の選択には[←][→]キーを使用します。ここで登録する語「明広」は人名ですから、[→]キーを使って「固有名詞」にカーソルを重ね、[⏎]キーを押します。

```
A>明広
 R半カナ @      登録:品詞  無  し   基 本 語   動   詞   固有名詞
```

品詞を指定したくないときは、「無し」を選択してください。

7 続いて、より細かい品詞を選択します。ここでは選択する項目が数画面にわたっているので、４つの矢印キー（[↑][↓][←][→]）を使って品詞を選択します。
ここで登録する単語「明広」に適した品詞は「名前」です。カーソルを「名前」に重ね、[⏎]キーを押してください。

```
A>明広
 R半カナ @      登録:品詞  苗 字     名 前     地 名     団体名
```

これで品詞の選択操作は終わり、同時に単語が辞書ファイルに書き込まれて単語登録操作も終わります。

●品詞の指定

前項「単語登録の手順」の❻で説明した品詞とは、文法上のさまざまな性質で分けた語の種類のことです。AIかな漢字変換では、品詞を次のように分けています。

品　詞		単語例
無し	―――	―――
基本語	名詞	日本語
	サ変名詞	停止
	形容詞	美しい
	形容動詞	静かだ
動詞	カ行5段	行く
	ガ行5段	泳ぐ
	サ行5段	押す
	タ行5段	打つ
	ナ行5段	死ぬ
	バ行5段	飛ぶ
	マ行5段	飲む
	ラ行5段	乗る
	アワ行5段	思う
	1段	着る
	サ行変格	為す
	カ行変格	来る
固有名詞	苗字	吉川
	名前	詳子
	地名	東京
	団体名	商工会議所
	会社名	日本電気
	建物名	技術センタービル
	商品名	PC-9801

登録しようとする単語に適した品詞を指定しないと、正しく変換されないこともあります。品詞を正しく指定すれば、変換効率が上がります。

なお、動詞、形容詞、形容動詞を登録する場合は、語幹（活用しない部分）だけを登録してください。

品詞	例	登録する部分
動詞	行く	行
形容詞	美しい	美し
形容動詞	静かな	静か

●登録単語の使い方

登録した単語は、漢字をタイプするのとおなじ方法で、読みのかな文字（またはローマ字）から変換して表示することができます。

1 先ほど登録した単語「明広」を変換、表示してみましょう。登録単語の読み（ここでは「あきひろ」）をタイプします。

2 XFER キーで単語に変換します。

3 ⏎キーで確定します。

●単語登録のポイント

ここでは、単語登録機能を使用する上での工夫をいくつか紹介します。

・読みを略語で登録しておくと、長い読みの入力を省略できます。

例：読み：ふぁっと　　登録単語：ファイルアロケーションテーブル

・ただし、読みをあまり短く登録すると、登録した単語を後に連想するのが難しくなりがちで、誤変換の原因ともなります。

例：読み：こ　　　　登録単語：コントロールコード

この例の状態で「ことしのもくひょうは」と入力して変換すると、「コントロールコードと市の目標は」などと誤変換される恐れがあります。

・辞書を、個人別、用途別に分けて作成しておくと、使用を重ねるにつれてそれぞれの辞書に専門用語が蓄えられ、ひいては変換が容易になります。また、学習機能により前回選択した語句が再優先で表示されるので、希望する文字に変換されやすい辞書となります。
辞書ファイル名の変更については、「3.3　辞書の切り替え」を参照してください。

・登録した単語や辞書に含まれている単語を画面やプリンタで見るには、辞書ファイルユーティリティ（DICMコマンド）の辞書一覧機能を使用してください。詳細は第4章を参照してください。

●エラーメッセージの対策

単語登録に関するエラーメッセージを次に示します。それぞれの対策に従って対処してください。

メッセージ	対　策
登録するための領域が足りません	辞書ファイル保守ユーティリティを使用して辞書を再編成し、もう一度登録する
読みを登録するページがありません	辞書ファイル保守ユーティリティを使用して「読み」を登録するか、辞書を再編成してもう一度登録する
読みに不正な文字があります	読みを変えてもう一度登録する

第3章

3.2　登録した単語の削除

前節の方法で登録した単語は、画面に表示されていさえすれば、日本語入力モード中に辞書から削除することもできます。

削除できる単語は、ユーザーが登録した単語だけです。もともと辞書に入っていた単語は削除できません。

単語の削除は、辞書ファイル保守ユーティリティ（DICM）でも、行うことができます。

操作手順は次のようになります。

1 日本語入力モードに入ります（CTRL＋XFERキー）。

2 削除したい単語を画面に表示します。ここでは前項で登録した単語「明広」を削除してみましょう。「あきひろ」の読みで漢字に変換し、画面に表示します。

3 f･10－[２：単語削除]で、単語削除モードにします。画面は次のようになります。

```
A>明広
 R全かな @      削除:漢字
```

単語削除の操作を中止したいときは、ESCキーを押してください。

4 削除する単語を指定します。矢印キー（↑↓←→）で、カーソルを削除したい単語の先頭に重ね、⏎キーを押します。

```
A>明広
 R全かな @      削除:漢字
```

次に、単語の最後の文字にカーソルを重ね、⏎キーを押します。

```
A>明広
 R半カナ @      削除:読み
```

5 ガイドラインの「漢字」という表示が「読み」に変わります。ここで、削除したい語の読み（その語を登録したときに設定した読み）を16文字以内でタイプします。入力モードは1バイトコード入力（ガイドラインの左端の表示は「R 半カナ」）になっているはずです。
ここでは単語「明広」の読み「アキヒロ」をタイプし、⏎キーを押します。

```
A>明広
 R半カナ @      削除:読み ｱｷﾋﾛ
```

6 辞書ファイルから登録単語が削除され、直前のモードに戻ります。

以上で単語削除の操作は終わりです。登録した単語が不用になったら、この方法で削除してください。

●エラーメッセージの対策

単語削除に関するエラーメッセージを次に示します。それぞれの対策に従って対処してください。

メッセージ	対　策
この語句は削除できません	削除できる単語はユーザーが登録した単語だけなので、語句を確かめる
読みまたは語句が見つかりません	辞書に登録されていない文字であるので、語句を確かめる

3.3 辞書の切り替え

f・10 −［３：辞書切替］で、辞書ファイル名と辞書ファイルのあるドライブ名を変更することができます。

次に操作手順を示します。

1 CTRL ＋ XFER キーで、日本語入力モードに入ります。

2 f・10 −［３：辞書切替］を選択すると、次のように、現在使用している辞書ファイルの名前とドライブ名が表示されます。

```
A>
R半英数 @     辞書     NECAI.SYS
```

辞書の切り替えを中止するには、ESC キーを押してください。

3 ここで、ドライブ名と辞書ファイル名を変更することができます。なお、ガイドラインに表示される入力モードは、自動的に半角の英数字入力モードになるので、そのままドライブ名やファイル名をタイプすることができます。

新しく変換に使用する辞書ファイル名は、次の規則にしたがって変更してください。

ドライブ名…………辞書ファイルが入っているドライブの名前です。

辞書ファイル名……AI逐次、AI連文節変換では「NECAI.SYS」、その他の変換方式では「NECDIC.SYS」です。

いずれも初期設定は、起動ディスクのCONFIG.SYS内で指定したものです。

4 画面上で変更したら[⏎]キーを押してください。新しく指定したドライブにある辞書ファイルに切り替えられ、直前のモードに戻ります。

以上で辞書の切り替え操作は終わりです。

この方法による辞書の変更は、次に再変更するか、システムを再起動するまでしか有効ではありません。リセットスイッチを押したり、パソコン本体の電源を切ったりして、MS-DOSシステムを再起動すると、ここで指定した変更は無効になり、CONFIG.SYSファイルで設定した内容が再び有効になります。したがって、継続的に変更したままにしたい場合は、CONFIG.SYSファイル内の設定を変更してください。

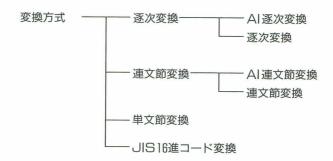
●エラーメッセージの対策

辞書の切り替えに関するエラーメッセージを次に示します。それぞれの対策に従って対処してください。

メッセージ	対　策
辞書が見つかりません 辞書の指定が不正です	辞書ファイル名を確認し、もう一度操作する。 NECAI.SYSのように〈ファイル名〉.(ピリオド)〈拡張子〉の形で再設定する。
ディスクのI/Oでエラーが発生しました	ドライブに正しいフロッピィディスクをセットし、再操作する。

3.4 変換の方式

日本語を表示するためには、「読みがな」を変換しながら文字をタイプします。変換の方式には、文字を続けてタイプすれば、ユーザーが変換操作をしないでも自動的に変換が行われる「逐次変換」と、いくつかの文節ごとにユーザーが変換操作をはさみながらタイプする「連文節変換」の2通りの方式があります。

●変換方式の種類

変換方式は、ユーザーがもっとも使いやすい状態に指定することが必要です。

初期設定では「AI逐次変換」に設定されていますが、自動変換機能のある逐次変換も、使い慣れないと希望の候補を表示させるために何度も変換操作をしなければならなかったりします。このような場合には、変換方式を連文節変換に変更して変換操作を行うと良いでしょう。

▶逐次変換

AI逐次変換と逐次変換の操作方法はおなじです。本書ではAI逐次変換と逐次変換を、合わせて逐次変換と呼んでいます。

逐次変換は、読みがなをタイプしていくと変換キーを押さなくても自動的に先頭の読みから漢字へ変換していく方法です。

4文節目をタイプすると1文節目から自動的に仮の漢字に変換されます。続けて読みがなをタイプすると、文節ごとに順次（逐次）漢字へと変換されていきます。

また、句読点や、スペースキーまたは［XFER］キーを押しても、残りの文節が漢字に変換されます。

操作は、第2章で説明したとおりですので、ここでは省略します。

逐次変換は、使い始めは、文節が正しく区切られない、正しく変換されないなど使いづらい印象をもつかもしれません。しかし、日本語入力機能を使い続けるうちにユーザーに合った辞書の学習が進み、次第に使用頻度の高い文字が少ない変換操作で表示されるようになります。

したがって、使い始めのうちは、再変換、次候補表示と確定の操作を何度か繰り返さなければならないことになります。

●逐次変換の使用上の注意

・一度に変換できる読みがなは、64文字までです。
・一度に変換できる文節数は、32文節までです。
・AI逐次変換では、辞書ファイルとしてNECAI.SYSを使用します。
・逐次変換では、辞書ファイルとしてNECDIC.SYSを使用します。

▶連文節変換

AI連文節変換と連文節変換の操作方法はおなじです。本書ではAI連文節変換と連文節変換を、合わせて連文節変換と呼んでいます。

連文節変換は、複数の文節の読みがなをタイプし、スペースキーまたはXFERキーを押して漢字へ変換していく方法です。

操作は、第2章で説明したとおりですので、ここでは省略します。

連文節変換ではいくつかの文節の読みをまとめてタイプし、あとからスペースキーまたはXFERキーで、変換と確定の操作を行います。したがって、再変換、次候補表示と確定の操作を繰り返しながら変換していくことになります。

●連文節変換の使用上の注意

・一度に変換できる読みがなは、64文字までです。
・一度に変換できる文節数は、32文節までです。
・AI連文節変換では、辞書ファイルとしてNECAI.SYSを使用します。
・連文節変換では、辞書ファイルとしてNECDIC.SYSを使用します。

▶単文節変換

単文節変換は、読みがなを1文節（漢字と送りがな程度）ずつXFERキーで変換する方法です。読みがなの入力方法や変換方法などは前述の変換と変わりませんが、1文節ごとに、変換と確定の操作を繰り返します。

拡張メモリ（EMSメモリなど）を使用できない機種の場合、単文節変換方式は他の変換方式よりも少ないメモリ容量で動作します。

●単文節変換の使用上の注意

・一度に変換できる読みがなは、32文字までです。
・一度に変換できる文節数は、16文節までです。
・スペースキーや、句読点での変換はできません。
・日本語入力デバイスドライバにはNECDIC.DRVを使用します。
・辞書ファイルにはNECDIC.SYSを使用します。

▶JIS16進コード変換

JIS16進コード変換は、日本語入力機能が組み込まれていない状態で、漢字やひらがななどを1文字ずつ入力する方法です。

日本語入力機能が組み込まれていない状態で[CTRL]＋[XFER]キーを押すと、画面には〝〔16進〕″と表示されます。この状態で、目的の漢字のJISコード番号をタイプすると、1文字ずつ入力されます。

JISコード番号については、「付録　文字コード表」を参照してください。

●JIS16進コード変換の使用上の注意

・日本語入力機能が正しく組み込まれていない場合も、この変換方式になります。

・本体に組み込まれている機能なので、日本語入力デバイスドライバ、辞書ファイル、メモリなどは使用しません。

3.5　学習機能と先読み機能

▶学習機能

日本語入力機能の中には、同音異義語の中で、以前（一番最近）に選択された語を辞書の候補群の先頭に登録しておく「学習機能」があります。

たとえば、いま、「器官」という語を表示したいとしましょう。そして、読みがなの「きかん」をタイプして[XFER]キーを押しても「期間」や「機関」などの語に変換されてしまい、「器官」が表示されるまでには何回か[XFER]キーを押さなければならないとします。しかし、一度「器官」を選んで確定すると、次回からは最初に「器官」が表示されるようになります。もちろん、このとき「機関」で確定すれば、次には「機関」が最初に表示されるようになります。

こうして、漢字を選択するごとにその漢字を候補の最初に置き、それまで最初だった候補を2番目の候補にする、というように辞書内の候補群の順番が並べ替えられていきます。

こうした学習機能の働きによって、最近使った語句が常に変換候補の最初に現れることになります。ひとりの人が作成する文書（使う語彙）の範囲はある程度限られていると仮定すれば、こうした学習機能によって変換効率が高まるわけです。

充分に学習した辞書ファイルでは、あまり使われない候補は候補群の後の方に置かれます。漢字表示の順序を変更したくないとき、他人の辞書を使わなければならないとき、その時に限って特殊な語を使いたいときなどは、辞書に学習結果を残さない方がいいので、学習機能が働かないようにしてください。

初期設定では、学習機能は「学習有り」に設定されています。これはいつでも、f•10-[6：補助機能]-[1：学習]で「学習無し」に切り替えることができます。

▶先読み機能

先読み機能は、ユーザーが「読みがな」をタイプしていくのに連動してその読みに対する単語を辞書から先に（変換キーを押す前に）読み込んでおく機能です。これにより、文字の変換に要する時間を短縮することができます。

逐次変換（AI逐次変換または逐次変換）を選択すると、先読み機能は自動的に「有り」に設定されます。また、連文節変換を指定した場合には先読み機能の有無をユーザーが自由に設定することができます。先読み機能を「無し」（先読み機能が働かない状態）に設定すると、変換キー（スペースキー、XFER、,、.）が押されてから辞書が参照されるようになります。

初期設定では、先読み機能は「先読み有り」に設定されています。これはいつでも、f•10-[5：入力形式]-[1：変換方式]で「先読み無し」に切り替えることができます。

第3章

3.6 日本語入力モードの環境について

日本語入力機能に関するさまざまな設定の状態（日本語入力モードの環境）を設定したり、現在の環境を表示したりすることができます。この章では、環境の表示と設定の方法について説明します。設定する内容についての詳しい説明は、他の章を参照してください。

▶設定の変更（f•10）

入力モード（ローマ字入力のON／OFF）は、f•10–[4.ローマ字切替]で変更します。

環境設定は、f•10–[5：入力形式]、f•10–[6：補助機能]で行います。

- f•10–[4.ローマ字切替]……ローマ字入力を行うかどうかを選択します。
- f•10–[5：入力形式]………変換方式、外字コード体系、入力位置を変更するものです。
- f•10–[6：補助機能]………学習の有無、句読点変換の有無、同音語の表示方法を変更するものです。

ここで行う設定は、システムの電源をOFFにする（またはリセットスイッチを押す）まで有効ですが、システムを再起動した場合は、起動時の設定に戻っています。

設定を変更するときは、次の手順に従ってください。

●ローマ字入力のON／OFF

ローマ字入力を行うかどうかの切り替えは、次のように設定します。

1　f•10キーを押し、[4.ローマ字切替]を反転表示させ、⏎キーを押します。

- ローマ字入力がON（ローマ字入力を行う）ならば、即座にOFFになります。
- ローマ字入力がOFF（ローマ字入力を行わない）ならば、即座にONになります。

現在の入力モードは、ガイドラインで確認することができます。

- ガイドラインに「R」の表示がある……ローマ字入力モード
- ガイドラインに「R」の表示がない……非ローマ字入力モード

● 「入力形式」の設定

1 CTRL ＋ XFER キーを押して、日本語入力モードに入ります。

2 f･10 キーを押すと、ガイドラインが次のように変わります。

```
A>
 1.単語登録 2.単語削除 3.辞書切替 4.ローマ字切替 5.入力形式 6.補助機能
```

3 [5：入力形式]を選択し、⏎キーを押すと次のようになります。

4 設定したい項目を選びます。番号に応じた数字キーを押すか、←→キーで希望の項目を反転させて⏎キーを押します。なお、ESCキーを押すと、前の画面に戻ります。

「1：変換方式」を選んだ場合

日本語変換の変換方式を選びます。←→キーで希望する変換方式を反転表示させ、⏎キーを押してください。なお、ESCキーを押すと、前の画面に戻ります。

「2：コード」を選んだ場合

コード入力をする際に、どのコード体系を使うかを設定します。「JIS」、「シフトJIS」、「区点」のいずれかを選択します。←→キーで希望するコード体系を反転表示させ、⏎キーを押してください。なお、ESCキーを押すと、前の画面に戻ります。

「３：直／間切替」を選んだ場合

タイプした文字をどこに表示して変換するかを決定します。

直接入力モードは、画面上のカーソル位置で直接かな漢字変換を行うものです。

間接入力モードは、一度ガイドライン上で読みがなのタイプと漢字への変換を行った後、［⏎］キーを押して画面上のカーソル位置に文字を移動するものです。

「直接入力」、「間接入力」のいずれかを、［←］［→］キーで反転表示させ、［⏎］キーを押してください。

なお、［ESC］キーを押すと、前の画面に戻ります。

●「補助機能」の設定

1 ［CTRL］＋［XFER］キーを押して、日本語入力モードに入ります。

2 ［f･10］キーを押すと、ガイドラインが次のように変わります。

```
A>
 1.単語登録 2.単語削除 3.辞書切替 4.ローマ字切替 5.入力形式 6.補助機能
```

3 ［６：補助機能］を選択し、［⏎］キーを押すと次のようになります。

4 設定したい項目を選びます。番号に応じた数字キーを押すか、［←］［→］キーで希望の項目を反転させて［⏎］キーを押します。なお、［ESC］キーを押すと、前の画面に戻ります。

「１：学習」を選んだ場合

辞書学習するかどうかを設定します。「学習有り」、「学習無し」のいずれかを、［←］［→］キーで反転表示させ、［⏎］キーを押してください。なお、［ESC］キーを押すと、前の画面に戻ります。

「2：句読点変換」を選んだ場合

読みがなを変換する際に、句読点の入力で自動的に変換を開始「する」か「しない」かを選択します。「する」を選択すると、スペースキーや[XFER]キーと同様にかな漢字変換を行うようになります。

「する」、「しない」のいずれかを、[←][→]キーで反転表示させ、[⏎]キーを押してください。

なお、[ESC]キーを押すと、前の画面に戻ります。

「3：同音語指定」を選んだ場合

タイプされた「読み」に対して複数の同音意義語があったとき、それらから特定の単語を選ぶ方法を設定します。「直接表示」、「一覧表示」、「直接／一覧の切り替え」のいずれかを選択します。

「直接表示」は、常に変換中のカーソル位置に次々と同音語が表示され、希望の単語が表示された時点で確定し、次の語の変換に向かう方法です。

「一覧表示」は、同音語があるとき、ガイドラインにそれらを番号つきで並べ、ユーザーが選択する方法です。

「直接／一覧の切り替え」は、スペースキーや[XFER]キーを、設定した回数だけ押すまでは直接表示で選択し、その後は一覧表示に移行する方法です。

[←][→]キーで、希望する項目を反転表示させ、[⏎]キーを押してください。

「直接／間接の切り替え」を選択した場合は、続いて回数を指定します。これは、スペースキーや[XFER]キーを何度押した時点で、直接表示から一覧表示に移るかを設定します。回数を表す数字キーと[⏎]キーを押してください。

いずれも[⏎]キーを押した時点で環境が設定され、文字を入力できる状態に戻ります。

第3章

第4章 辞書ファイル保守ユーティリティ（DICM）

日本語入力機能では、読み方を漢字かな混じり文へ変換するために「辞書ファイル」を使用します。辞書ファイルは、コンピュータが使用する国語辞典と考えると良いでしょう。

「辞書ファイル保守ユーティリティ」は、この辞書ファイルを最も使用しやすい状態に保つためのプログラムです。使い慣れた辞書は手放せないように、保守の行き届いた辞書ファイルも大切な財産になります。

4.1 辞書の保守管理とは

文章を大切にする方は、職場や家庭に、きっと愛用の辞書を身近に置いています。熱心な人は、辞書に書き込みをしたり、日常使用する国語辞典の他にも専門用語の辞書も備えて、使いやすい環境を整えていることでしょう。

辞書ファイル保守ユーティリティ（プログラム名「DICM」）は、コンピュータが使用する辞書ファイルを最良の状態に保つためのプログラムで、次のような機能を備えています。

単語の登録* 辞書ファイルに新しい単語（ユーザー登録単語）を登録します。

単語の削除* 辞書ファイルから不必要になったユーザー登録単語を削除します。

辞書の一覧 辞書ファイルに登録されている単語を、画面表示またはプリンタ出力します。辞書ファイルにどのような単語が登録されているかを、調べるときに使用する機能です。

辞書マージ 2つの辞書ファイルをまとめて1つの辞書ファイルにします。たとえば、職場と家庭で2つの辞書ファイルを使用しているような場合、ときどき両方の辞書を1つにまとめると便利になります。

辞書再編成 辞書ファイルの空きエリアを指定し、新たな辞書ファイルを作成します。

＊単語の登録と削除は、DICMを使用しなくても、普段の日本語入力の操作中に行うこともできます。

辞書のファイルの保守は、それほど頻繁に行う必要はありません。単語の登録と削除は、日本語入力を行っている最中でもできます。

4.2 DICMの起動

DICMを起動するときは、次のように入力します。

DICM　[辞書ファイル名]⏎

指定できるファイル辞書ファイルは、次のファイル、またはそれをコピーしたりリネーム（ファイル名変更）したファイルです。

・NECAI.SYS　……AI逐次、AI連文節変換用の辞書ファイル
・NECDIC.SYS ……逐次変換、連文節変換、単文節変換用の辞書ファイル

ファイル名を省略した場合は、カレントディレクトリのNECAI.SYSファイルが保守の対象となります。

DICMを起動するには、日本語入力機能が組み込まれている必要があります。辞書ファイル以外のファイルを指定すると、DICMが誤動作をしたり、指定したファイルが壊れる場合があります。また、万一の事故に備えて、辞書ファイルのバックアップコピーを取っておくと良いでしょう。

指定されたファイルが存在すると、次のようなDICMのメニュー画面が表示されます。

```
DICMコマンド            Ver. X.XX
                         Copyright (C) NEC Corporation 1988,1991 -
機能

        単語の登録
        単語の削除
        辞書の一覧
        辞書マージ
        辞書再編成
        終　　了

矢印キーで項目を選択し、リターンキーを押してください
```

この画面は、これから行いたい処理の種類を選択する画面です。[↑][↓]キーで機能の名前を反転表示し、[⏎]キーを押してください。

以後、メニューに表示される機能の順序で、DICMの説明を行います。

●指定された辞書ファイルが存在しない場合

「ファイルが見つかりません」というメッセージが表示され、DICMは起動しません。ファイル名の綴りや、ドライブ名、ディレクトリ名などに間違いが無いか確かめてください。

4.3 単語の登録

「単語の登録」は、辞書ファイルに載っていない単語を、辞書ファイルに登録する機能です。ユーザーが登録した単語は、「ユーザー登録単語」と呼びます。

単語を登録する手順は、次のとおりです。

①DICMのメニュー画面で「単語の登録」を選択する。
②かな見出し（その単語の読み方）を入力する。
③登録したい単語を入力する。
④単語の品詞を指定する。

1 「にちでん」というかな見出しで、「日本電気（株）」という単語を登録してみましょう。
DICMのメニュー画面で「単語の登録」を選択すると、単語登録の画面が表示されます。このとき、キーボードは自動的に日本語入力モードになります。

2 登録したい単語の読み方（かな見出し）を入力します。
キーボードは、自動的に日本語入力モードになっています。ローマ字入力またはカナ入力で、「にちでん」とタイプし、⏎キーを押して確定します。

```
 ＤＩCMコマンド           Ver. X.XX
────────────────────────── Copyright (C) NEC Corporation 1988,1991 -
 単語登録
        かな見出し  にちでん
        登録単語
        品詞指定

かな見出しを入力してください
（リターンキーのみ押すと前の画面に戻ります）

 R全かな                          ひら変 カタ変 英数変 半変 拡張
```

かな見出しは、16文字以内で、かな、アルファベット、数字で指定します。記号類は使用できません。何も入力せずに⏎キーを押すと、DICMのメニュー画面に戻ります。

かな見出しが正しいことを確かめて、⏎キーを押します。カーソルが、「登録単語」へ移動します。

3 登録したい単語を入力します。キーボードは、日本語入力モードになっているので、日本語入力機能を使って「日本電気（株）」を入力します。

登録できる単語の長さは、全角文字（２バイトコード文字）で、16文字までです。半角文字（１バイトコード文字）は登録できません。ここで、何も入力せずに⏎キーを押すと、かな見出しの入力に戻ります。

登録する単語が正しいことを確かめて、⏎キーを押します。最後に、登録する単語の品詞を指定します。

4 品詞の指定は、画面の下部に表示される項目を選択しながら、大分類／小分類の２段階で行います。

```
品詞を指定してください
矢印キーで項目を選択し、リターンキーを押してください
（ＥＳＣキーを押すと前の処理に戻ります）
基本語　動詞　固有名詞　無指定
```

「日本電気（株）」は、固有名詞です。←→キーで「固有名詞」を反転表示させて、⏎キーを押します。「固有名詞」を選択すると、小分類の項目が表示されます。

```
矢印キーで項目を選択し、リターンキーを押してください
（ＥＳＣキーを押すと前の処理に戻ります）
苗字　名前　地名　団体名　会社名　建物名　商品名
```

「日本電気（株）」は、会社名です。[←][→]キーで「会社名」を反転表示させて、[⏎]キーを押します。画面の「品詞指定」の位置に、指定した単語の品詞分類が表示されます。

5 登録して良いかどうかを確認するメッセージが表示されます。

```
よろしいですか
矢印キーで項目を選択し、リターンキーを押してください
（ＥＳＣキーを押すと処理を中止して機能選択に戻ります）
はい　　いいえ
```

画面に表示されている、各設定項目の入力を確かめてください。

- 入力に間違いが無い場合は、「はい」を選択します。その単語が辞書ファイルに登録され、**7**の画面が表示されます。
- 入力に間違いがあった場合は、「いいえ」を選択します。
- その単語の登録を止めたいときは[ESC]キーを押します。画面はDICMのメニュー画面に戻ります。

登録しようとした単語が、すでに辞書ファイルに登録されていた場合は、ブザーが鳴り「すでに登録されています」というメッセージが表示され、画面は**1**のかな見出し入力に戻ります。

6 **5**で「いいえ」を選択した場合は、3種類の設定項目のどれを修正するか（戻り先）を選択する画面が表示されます。

```
戻り先を指定してください
矢印キーで項目を選択し、リターンキーを押してください

かな見出し　登録単語　品詞指定
```

- 「かな見出し」を選択すると、**2**からの処理に戻ります。
- 「登録単語」を選択すると、**3**からの処理に戻ります。
- 「品詞指定」を選択すると、**4**からの処理に戻ります。
- [ESC]キーを押すと、単語の登録を中止し、DICMのメニュー画面に戻ります。

7 **5**で「はい」を選択した場合は、引き続き単語登録を行うかどうかを選択する画面が表示されます。

処理を終了しますか
矢印キーで項目を選択し、リターンキーを押してください

はい　いいえ

・「はい」を選択すると（登録する単語が無い場合）、DICMのメニュー画面に戻ります。
・「いいえ」を選択すると、**8**の画面が表示され、単語の登録を継続できるようになります。

8 **7**で「いいえ」を選択すると、3種類の設定項目のどこから登録処理を行うか（戻り先）を選択する画面が表示されます。

戻り先を指定してください
矢印キーで項目を選択し、リターンキーを押してください

かな見出し　登録単語　品詞指定

・「かな見出し」を選択すると、**2**からの処理に戻ります。
・「登録単語」を選択すると、**3**からの処理に戻ります。
・「品詞指定」を選択すると、**4**からの処理に戻ります。
・ESCキーを押すと、単語の登録を中止し、DICMのメニュー画面に戻ります。

通常は「かな見出し」の入力に戻りますが、同じかな見出しで別の単語を登録したい場合は「登録単語」へ、同じ単語を品詞指定を変えて登録したい場合（たとえば、苗字と会社名の両方に登録したい場合）は「品詞指定」へ戻ります。

第4章

動詞と形容詞を登録する場合は、語幹（活用しない部分）のみを登録します。

例：	単語	登録する部分
動詞	行く	行
	泳ぐ	泳
	押す	押
形容詞	美しい	美
	早い	早
	安い	安

HELP機能

参照：品詞の分類→「3.1　単語の登録」

「基本語」「動詞」の小分類は、少々複雑で日本語の文法の知識が求められますが、そのようなときのために、品詞の説明画面が用意されています。大分類でこれらの品詞を選択した後、小分類の画面で HELP キーを押すと、各小分類の説明画面が表示されます。

1 品詞の指定で「動詞」を選択すると、次のような小分類を選択する画面が表示されます。

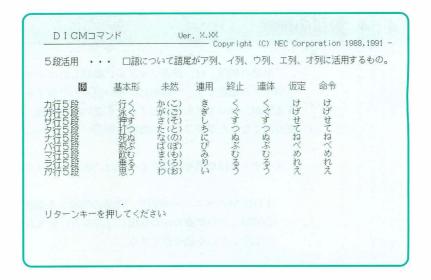
```
矢印キーで項目を選択し、リターンキーを押してください
（HELPキー：説明が表示されます　ESCキー：前の処理に戻ります）
カ5　ガ5　サ5　タ5　ナ5　バ5　マ5　ラ5　ア75　1段　サ変　カ変
```

2 ここで HELP キーを押すと、各小分類についての説明画面が表示されます。

ＤＩＣＭコマンド　　　Ver. X.XX
Copyright (C) NEC Corporation 1988,1991 -

５段活用　・・・　口語について語尾がア列、イ列、ウ列、エ列、オ列に活用するもの。

例	基本形	未然	連用	終止	連体	仮定	命令
カ行５段	行く	か(こ)	き	く	く	け	け
ガ行５段	泳ぐ	が(ご)	ぎ	ぐ	ぐ	げ	げ
サ行５段	押す	さ(そ)	し	す	す	せ	せ
タ行５段	打つ	た(と)	ち	つ	つ	て	て
ナ行５段	死ぬ	な(の)	に	ぬ	ぬ	ね	ね
バ行５段	飛ぶ	ば(ぼ)	び	ぶ	ぶ	べ	べ
マ行５段	飲む	ま(も)	み	む	む	め	め
ラ行５段	乗る	ら(ろ)	り	る	る	れ	れ
ア行５段	思う	わ(お)	い	う	う	え	え

リターンキーを押してください

3 メッセージに従って⏎キーを押すと、説明画面の続きが表示されます。最後の説明画面で⏎キーを押すと、**1**の品詞の小分類の指定画面に戻ります。

第4章

4.4 単語の削除

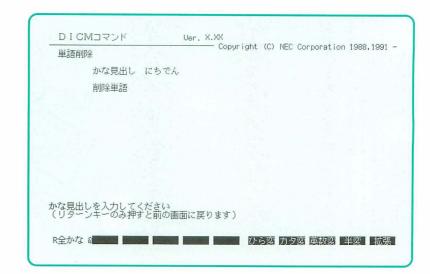
「単語の削除」は、辞書ファイルに登録したユーザー単語を、辞書ファイルから削除する機能です。一時的に、短い読み方で単語を登録すると便利な場合がありますが、いつまでも登録しておく必要の無い単語、かな見出しや品詞指定を変更したくなった単語は、この機能で辞書ファイルから削除します。

ユーザー登録単語を削除する手順は、次のとおりです。

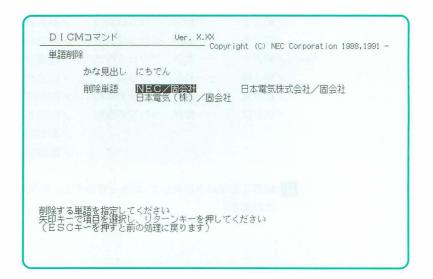
①DICMのメニュー画面で「単語の削除」を選択する。
②削除したい単語のかな見出し（読み方）を入力する。
③削除したい単語を指定する。

どのような単語が登録されているかは、「4.5　辞書の一覧」で調べることができます。

1 「にちでん」というかな見出しで登録した、「日本電気（株）」という単語を削除してみましょう。
DICMのメニュー画面で「単語の削除」を選択すると、単語削除の画面が表示されます。このとき、キーボードは自動的に日本語入力モードになります。

2 削除したい単語の読み方（かな見出し）を入力します。
キーボードは、自動的に日本語入力モードになっています。ローマ字入力またはカナ入力で「にちでん」とタイプし、⏎キーを押します。

かな見出しをタイプし⏎キーを押すと、その読み方で登録されているユーザー登録単語が表示されます。同じかな見出しで複数の単語が登録されている場合は、該当する単語がすべて表示されます。

かな見出しに対応するユーザー登録単語が無い場合（かな見出しを間違えて入力した場合も）は、ブザーが鳴り、「ユーザー登録単語がありません」というメッセージが表示され、再びかな見出しの入力に戻ります。

3 **2**で入力したかな見出しで登録されているユーザー登録単語が表示されます。同じかな見出しで複数の単語が登録されている場合は、該当する単語がすべて表示されます。

・矢印キーで削除したい単語を反転表示させ、⏎キーを押すと、**4**の削除の確認を求める画面が表示されます。
・ESCキーを押すと、単語の削除を中止し、**2**のかな見出しの入力に戻ります。

第4章

表示されている単語の／（スラッシュ）の後ろの文字は、その単語の品詞の種類を表しています。

／（無表示）	……品詞指定無し	／基連体	……基本語、連体詞
／動カ５	……動詞、カ行５段活用	／基感動	……基本語、感動詞
／動ガ５	……動詞、ガ行５段活用	／基接続	……基本語、接続詞
／動サ５	……動詞、サ行５段活用	／基副詞	……基本語、副詞
／動タ５	……動詞、タ行５段活用	／基形動	……基本語、形容動詞
／動ナ５	……動詞、ナ行５段活用	／基形容	……基本語、形容詞
／動バ５	……動詞、バ行５段活用	／基サ変	……基本語、サ変名詞
／動マ５	……動詞、マ行５段活用	／基名詞	……基本語、名詞
／動ラ５	……動詞、ラ行５段活用	／固商品	……固有名詞、商品名
／動ア５	……動詞、アワ行５段活用	／固建物	……固有名詞、建物名
／動１段	……動詞、１段活用	／固会社	……固有名詞、会社名
／動サ変	……動詞、サ行変格活用	／固団体	……固有名詞、団体名
／動カ変	……動詞、カ行変格活用	／固地名	……固有名詞、地名
		／固名前	……固有名詞、名前
		／固苗字	……固有名詞、苗字

4 削除する単語を選択して［⏎］キーを押すと、削除の確認を求める画面が表示されます。

```
よろしいですか
矢印キーで項目を選択し、リターンキーを押してください
（ＥＳＣキーを押すと処理を中止して機能選択に戻ります）
はい　　いいえ
```

・「はい」を選択すると、その単語が辞書ファイルから削除され、**6**の画面が表示されます。
・「いいえ」を選択すると、削除する単語を変更する**5**の画面が表示されます。
・［ESC］キーを押すと、単語の削除は中止され、DICMのメニュー画面に戻ります。

5 **4**の画面で「いいえ」を選択すると、削除する単語を変更するすることができます。この画面では、「かな見出し」から変更するか、「削除単語」のみを変更するかを選ぶことができます。

```
戻り先を指定してください
矢印キーで項目を選択し、リターンキーを押してください
かな見出し　削除単語
```

・「かな見出し」を選択すると、**2**の画面に戻り、違う読み方の単語の削除を行うことができます。
・「削除単語」を選択すると、**3**の画面に戻り、削除する単語を変更することができます。
・ESCキーを押すと、単語の削除は中止され、DICMのメニュー画面に戻ります。

6 **4**の画面で「はい」を選択すると、単語の削除を終了するかどうかの確認を求めるメッセージが表示されます。

```
処理を終了しますか
矢印キーで項目を選択し、リターンキーを押してください
はい　　いいえ
```

・「はい」を選択すると（これ以上、削除する単語が無い場合）、単語の削除処理は終了し、DICMのメニュー画面に戻ります。
・「いいえ」を選択すると、**7**の画面が表示され、単語の削除を継続できるようになります。

第4章

7 **6**で「いいえ」を選択すると、「かな見出し」と「削除単語」の設定項目のどこから削除処理を行うか（戻り先）を選択する画面が表示されます。

```
戻り先を指定してください
矢印キーで項目を選択し、リターンキーを押してください

かな見出し　削除単語
```

- 「かな見出し」を選択すると、**2**からの処理に戻ります。
- 「削除単語」を選択すると、**3**からの処理に戻ります。
- ESCキーを押すと、単語の登録を中止し、DICMのメニュー画面に戻ります。

通常は「かな見出し」の入力に戻りますが、同じかな見出しで登録されている別の単語を削除したい場合は「削除単語」へ戻ります。

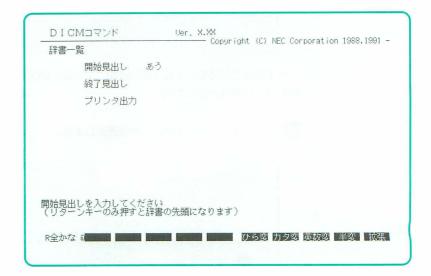
4.5 辞書の一覧

辞書の一覧は、辞書ファイルに登録されている単語を、画面に表示したりプリンタに出力する機能です。辞書ファイルに登録されている単語を確かめたり、不必要になったユーザー登録単語を連続して削除する際に先だって使用します。

辞書の一覧を表示させる手順は、次のとおりです。

①DICMのメニュー画面で、「辞書の一覧」を選択します。
②表示（またはプリンタ出力）したい範囲の単語の先頭の見出しを指定します。
③表示（またはプリンタ出力）したい範囲の単語の終わりの見出しを指定します。
④プリンタに出力するかどうかを指定します。

1 「あう」という読み方から、「あき」という読みまでの範囲で、どのような単語が辞書ファイルに登録されているか、画面に表示してみましょう。
DICMのメニュー画面で「辞書の一覧」を選択すると、「辞書一覧」の画面が表示されます。

2 表示したい範囲の、先頭の見出し（開始見出し）を入力します。この場合は、「あう」です。

見出しは、16文字以内で、アルファベット、かな、数字、記号で入力します（アスタリスク記号「*」と感嘆符「!」は入力できません）。

第4章

範囲の指定は、アルファベット順、または五十音順で指定します。この例では、開始見出しに「あき」、終了見出しに「あう」のような指定はできません。

開始見出しに何も入力しないで⏎キーを押すと、ファイルの先頭から一覧表示が始まります。

かな見出しの入力に誤りがある場合は、ブザーが鳴り、「入力に誤りがあります」というメッセージが表示され、再び開始見出しの入力に戻ります。

開始見出しと終了見出しの指定は、曖昧でもかまいません。たとえば、単語の先頭が「あ」の単語を一覧表示するには、開始見出しを「あ」、終了見出しを「あんん」のように指定できます。この場合、「あんん……」というような単語は元々存在しませんが、「あん」だけでは、「案件（あんけん）」のような単語が表示されません。少々余計な単語が表示されますが、「あ」から「い」と指定しても良いでしょう。

3 表示したい範囲の、最後の見出し（終了見出し）を入力します。この場合は、「あき」です。

終了見出しに使用できる文字の種類、文字数、間違いがある場合の応答は、開始見出しの場合と同じです。

4 プリンタに出力するかどうかを選択します。

- 「はい」を選択すると、画面とプリンタの両方に一覧が出力されます。
- 「いいえ」を選択すると、画面のみに表示されます。

5 各設定についての、確認を求めるメッセージが表示されます。

```
よろしいですか
矢印キーで項目を選択し、リターンキーを押してください
（ＥＳＣキーを押すと処理を中止して機能選択に戻ります）
はい　　いいえ
```

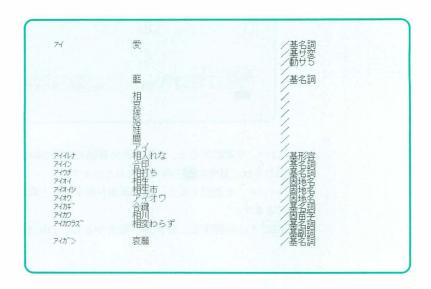
・「はい」を選択すると、指定された範囲の単語が画面（またはプリンタにも）出力され、最後に**7**の画面が表示されます。
・「いいえ」を選択すると、**6**の画面が表示され、設定項目の変更を行うことができます。
・ESCキーを押すと、辞書の一覧を中止し、DICMのメニュー画面に戻ります。

6 **5**で「いいえ」を選択した場合は、設定項目のどの部分を変更するかを選択します。

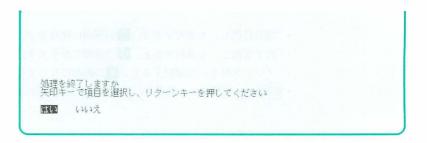
```
戻り先を指定してください
矢印キーで項目を選択し、リターンキーを押してください
開始見出し　終了見出し　プリンタ出力
```

・「開始見出し」を選択すると、**2**の画面に戻ります。
・「終了見出し」を選択すると、**3**の画面に戻ります。
・「プリンタ出力」を選択すると、**4**の画面に戻ります。
・ESCキーを押すと、辞書の一覧を中止、DICMのメニュー画面に戻ります。

第4章

7 **5**で「はい」を選択すると、指定された範囲の見出しの、辞書に登録されている単語が画面に（あるいはプリンタにも）出力されます。

出力の途中で一覧表示を中止したいときは、STOPキーを押してから、⏎キーを押すと、**8**の画面が表示されます。

指定された範囲に登録された単語が無い場合には、ブザーが鳴り、「登録されていません」というメッセージが表示され、**8**の画面が表示されます。

8 指定された終了見出しまでの出力が終了すると、一覧表示の処理を終了するかどうかをたずねるメッセージが表示されます。

- 「はい」を選択すると、DICMのメニュー画面に戻ります。
- 「いいえ」を選択すると、**2**の開始見出しの入力に戻ります。

かな見出しが数字３文字の場合は郵便番号で、かな見出しの先頭が「ﾟ」で始まるものは部首で登録されています。

例：郵便番号の場合

例：「のぎへん」の場合

4.6 辞書のマージ

2つの辞書ファイルをまとめて、1つの辞書ファイルにする処理を「辞書のマージ」と言います。

たとえば、職場と家庭で2台のコンピュータを使用している場合、両方の辞書ファイルには異なる単語が登録されることでしょう。このような場合は、ときどき2つの辞書をマージして（まとめて）同じ内容の辞書にすると便利です。

辞書のマージでは、2つの辞書ファイルを「マスタ辞書ファイル」「入力ファイル」と呼びます。マージして作成される新しい辞書ファイルを「出力ファイル」と呼びます。

マスタ辞書ファイル……DICMの起動時に指定した辞書ファイルです。この辞書ファイルと、入力ファイルのユーザー登録単語をマージします。

入力ファイル……………この辞書ファイルの内容と、マスタ辞書ファイルをマージします。

出力ファイル……………辞書のマージで作成される新しい辞書ファイルです。以後は、この辞書ファイルを使用します。

マージできる辞書ファイルは、次のファイル、またはそれをコピーしたりリネーム（ファイル名変更）したファイルです。

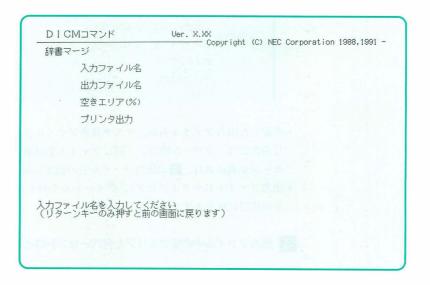
・NECAI.SYS ……AI逐次、AI連文節変換用の辞書ファイル
・NECDIC.SYS …逐次変換、連文節変換、単文節変換用の辞書ファイル

DICMの起動時にファイル名を省略した場合は、カレントディレクトリのNECAI.SYSファイルがマスタ辞書ファイルになります。

上記以外の辞書ファイルを指定すると、DICMが誤動作をしたり、指定したファイルが壊れる場合があります。また、万一の事故に備えて、辞書ファイルのバックアップコピーを取っておくと良いでしょう。

辞書のマージの手順は、次のとおりです。

①DICMのメニュー画面で、「辞書のマージ」を選択します。
②入力ファイル名を指定します。
③出力ファイル名を指定します。
④空きエリアを指定します。
⑤プリンタ出力をするかどうかを選択します。

1 職場のコンピュータで使用している辞書ファイルへ、家庭のコンピュータで使用している辞書ファイルの内容をマージしてみましょう。この場合、職場で使用している辞書ファイルがマスタ辞書ファイル、家庭で使用している辞書ファイルが「入力ファイル」となります。
DICMのメニュー画面で、「辞書マージ」を選択すると、次のような画面が表示されます。

2 入力ファイル名を指定します。家庭で使用しているフロッピィディスクを、ドライブBにセットし、辞書ファイル名をタイプします。

```
ＤＩCMコマンド          Ver. X.XX
                  Copyright (C) NEC Corporation 1988,1991 -
辞書マージ
        入力ファイル名  B:NECAI.SYS
        出力ファイル名
        空きエリア(%)
        プリンタ出力
```

・指定されたファイルが存在しないときは、ブザーが鳴り、「ファイルが見つかりません」というメッセージが表示され、入力ファイル名の指定に戻ります。
・マスタ辞書ファイルと同じファイル名を指定した場合は、ブザーが鳴り、「同じファイル名は指定できません」というメッセージが表示され、入力ファイル名の指定に戻ります。
・入力ファイル名をタイプせずに⏎キーのみを押した場合は、DICMのメニュー画面に戻ります。

第4章

3 マージして作成する、新しい辞書ファイル名（出力ファイル名）を指定します。出力ファイル名は、マスタ辞書ファイル名とも入力ファイル名とも異なるファイル名にします。ここでは、「MERGE.SYS」というファイル名にしてみましょう。

```
DICMコマンド            Ver. X.XX
                                  Copyright (C) NEC Corporation 1988,1991 -
辞書マージ
        入力ファイル名  B:NECAI.SYS
        出力ファイル名  MERGE.SYS
        空きエリア(%)
        プリンタ出力
```

・指定した出力ファイル名が、マスタ辞書ファイル名または入力ファイル名と同じ場合には、ブザーが鳴り、「同じファイル名は指定できません」というメッセージが表示され、**3**の出力ファイル名の指定に戻ります。
・出力ファイル名をタイプせずに[↵]キーのみを押した場合は、**2**の入力ファイルの指定に戻ります。

4 出力ファイル中の空きエリアを何パーセントほど用意するかを指定します。

```
DICMコマンド            Ver. X.XX
                                  Copyright (C) NEC Corporation 1988,1991 -
辞書マージ
        入力ファイル名  B:NECAI.SYS
        出力ファイル名  MERGE.SYS
        空きエリア(%)   15
        プリンタ出力
```

・数字を入力しないで、[↵]キーのみを押すと、15%の空きエリアが用意されます。
・0～30の範囲外の数字を入力した場合は、ブザーが鳴り、「入力に誤りがあります」というメッセージが表示され、再び空きエリアの入力に戻ります。

空きエリアとは、ユーザーが単語を登録する部分で（辞書に白紙がついていると考えれば良いでしょう）、0～30%の範囲で指定できます。
空きエリアが0%というのは、単語を登録する部分が無いということですから少々非現実的な数字ですが、出力ファイルの大きさは最小になります。空きエリアが30%あれば、かなり多くの単語を登録できますが、白紙の部分ばかりで、辞書ファイルが大きくなってしまいます。
空きエリアは、標準的には15%くらいあれば良いでしょう。なお、空きエリアの大きさは、「4.7　辞書再編成」で後から広げることもできます。

NECDIC.SYSファイルの大きさの上限は、686Kバイトです。この値を超えて単語の登録を行ったり、空きエリアを広げることはできません。

5 プリンタに出力するかどうかを選択します。

```
プリンタに出力しますか
矢印キーで項目を選択し、リターンキーを押してください

はい    いいえ
```

・「はい」を選択すると、辞書ファイルの状況報告が、画面とプリンタの両方に出力されます。
・「いいえ」を選択すると、辞書ファイルの状況報告は、画面のみに表示されます。

6 最後に確認のメッセージが表示されます。

```
よろしいですか
矢印キーで項目を選択し、リターンキーを押してください
（ESCキーを押すと処理を中止して機能選択に戻ります）
はい    いいえ
```

・「はい」を選択すると、辞書マージが開始され**8**の画面が表示されます。
・「いいえ」を選択すると、**7**の画面が表示され、設定項目を変更することができます。
・ESCキーを押すと、辞書マージを中止し、DICMのメニュー画面に戻ります。

7 **6**で「いいえ」を選択すると、どの項目から変更するかを選択する画面が表示されます。

```
戻り先を指定してください
矢印キーで項目を選択し、リターンキーを押してください

入力ファイル名　出力ファイル名　空きエリア　プリンタ出力
```

- 「入力ファイル名」を選択すると、**2**の入力ファイル名の指定に戻ります。
- 「出力ファイル名」を選択すると、**3**の出力ファイル名の指定に戻ります。
- 「空きエリア」を選択すると、**4**の空きエリアの指定に戻ります。
- 「プリンタ出力」を選択すると、**5**のプリンタ出力の選択に戻ります。
- ESCキーを押すと、辞書マージを中止し、DICMのメニュー画面に戻ります。

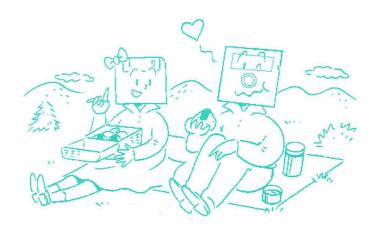
8 辞書のマージ中は、次のような画面が（あるいはプリンタにも）出力されます。

```
ファイル名　　　　　　:　MERGE.SYS
インデックス　サイズ　:　4096 Byte
ページ　サイズ　　　　:　1024 By

ﾍﾟｰｼﾞNO.   0 見出し !         ﾚｺｰﾄﾞ数  1  空きｴﾘｱ 1016 Byte ( 99%)
ﾍﾟｰｼﾞNO.   1 見出し "         ﾚｺｰﾄﾞ数  1  空きｴﾘｱ 1016 Byte ( 99%)
ﾍﾟｰｼﾞNO.   2 見出し #         ﾚｺｰﾄﾞ数  1  空きｴﾘｱ 1016 Byte ( 99%)
ﾍﾟｰｼﾞNO.   3 見出し $         ﾚｺｰﾄﾞ数  1  空きｴﾘｱ 1016 Byte ( 99%)
ﾍﾟｰｼﾞNO.   4 見出し ()1       ﾚｺｰﾄﾞ数 23  空きｴﾘｱ  866 Byte ( 84%)
ﾍﾟｰｼﾞNO.   5 見出し 0         ﾚｺｰﾄﾞ数 24  空きｴﾘｱ  170 Byte ( 16%)
ﾍﾟｰｼﾞNO.   6 見出し 027       ﾚｺｰﾄﾞ数 14  空きｴﾘｱ  180 Byte ( 17%)
ﾍﾟｰｼﾞNO.   7 見出し 041       ﾚｺｰﾄﾞ数 19  空きｴﾘｱ  180 Byte ( 17%)
ﾍﾟｰｼﾞNO.   8 見出し 060       ﾚｺｰﾄﾞ数 18  空きｴﾘｱ  208 Byte ( 20%)
ﾍﾟｰｼﾞNO.   9 見出し 078       ﾚｺｰﾄﾞ数 15  空きｴﾘｱ  188 Byte ( 18%)
ﾍﾟｰｼﾞNO.  10 見出し 093       ﾚｺｰﾄﾞ数  7  空きｴﾘｱ  642 Byte ( 62%)
ﾍﾟｰｼﾞNO.  11 見出し 1         ﾚｺｰﾄﾞ数 48  空きｴﾘｱ  150 Byte ( 14%)
ﾍﾟｰｼﾞNO.  12 見出し 154       ﾚｺｰﾄﾞ数 47  空きｴﾘｱ  206 Byte ( 20%)
ﾍﾟｰｼﾞNO.  13 見出し 2         ﾚｺｰﾄﾞ数 35  空きｴﾘｱ  185 Byte ( 18%)
ﾍﾟｰｼﾞNO.  14 見出し 240       ﾚｺｰﾄﾞ数 24  空きｴﾘｱ  158 Byte ( 15%)
ﾍﾟｰｼﾞNO.  15 見出し 273       ﾚｺｰﾄﾞ数 25  空きｴﾘｱ  228 Byte ( 22%)
ﾍﾟｰｼﾞNO.  16 見出し 3         ﾚｺｰﾄﾞ数 20  空きｴﾘｱ  208 Byte ( 20%)
ﾍﾟｰｼﾞNO.  17 見出し 319       ﾚｺｰﾄﾞ数 21  空きｴﾘｱ  168 Byte ( 16%)
ﾍﾟｰｼﾞNO.  18 見出し 340       ﾚｺｰﾄﾞ数 27  空きｴﾘｱ  172 Byte ( 16%)
```

マージ処理が終了すると、次のようなメッセージが表示されます。

```
処理を終了しますか
矢印キーで項目を選択し、リターンキーを押してください

はい　　いいえ
```

・「はい」を選択すると、DICMのメニュー画面に戻ります。
・「いいえ」を選択すると、2の入力ファイル名の指定に戻ります。

第4章

4.7 辞書再編成

辞書再編成とは、ユーザーが単語を登録する空きエリアの現在の状況を調べたり、空きエリアを新しく用意した辞書ファイルを作成する作業です。新しい空きエリアを用意する作業は、単語を登録しようとして、「登録するための領域が足りません」「読みを登録するページがありません」というメッセージが表示された場合に行います。

辞書再編成の手順は、次のとおりです。

①DICMのメニュー画面で、「辞書再編成」を選択します。
②空きエリアの現状報告をするかどうかを選択します。
③再編成して作成する、新しい辞書ファイル名（出力ファイル名）を指定します。
④空きエリアを何パーセント用意するかを指定します。
⑤プリンタに出力するかどうかを選択します。

再編成できる辞書ファイルは、次のファイル、またはそれをコピーしたりリネーム（ファイル名変更）したファイルです。

・NECAI.SYS ……AI逐次、AI連文節変換用の辞書ファイル
・NECDIC.SYS …逐次変換、連文節変換、単文節変換用の辞書ファイル

DICMの起動時にファイル名を省略した場合は、カレントディレクトリのNECAI.SYSファイルが再編成の対象になります。
上記以外の辞書ファイルを指定すると、DICMが誤動作をしたり、指定したファイルが壊れる場合があります。また、万一の事故に備えて、辞書ファイルのバックアップコピーを取っておくと良いでしょう。

1 現在使用中の辞書ファイルに空きエリアが不足したので、空きエリアを広げた新しい辞書ファイルを作ることとします。新しい辞書ファイル名は「NECAI2.SYS」とします。
DICMのメニュー画面で「辞書再編成」を選択すると、辞書ファイルの現在の状況を報告するかどうかを選択する画面が表示されます。

```
空きエリアの報告をしますか
矢印キーで項目を選択し、リターンキーを押してください

はい　　いいえ
```

・「はい」を選択すると、**2**の画面が表示され、プリンタへも出力をするか否かを選択します。
・「いいえ」を選択すると、現状報告は省略されます。**3**の画面が表示され、新しい辞書ファイルを作成する作業に進みます。

2 **1**で「はい」を選択すると、現状報告をプリンタへも出力するかどうかを選択する画面が表示されます。

```
プリンタに出力しますか
矢印キーで項目を選択し、リターンキーを押してください

はい　　いいえ
```

・「はい」を選択すると、現状報告は、画面とプリンタの両方へ出力されます。
・「いいえ」を選択すると、現状報告は、画面のみに表示されます。

空きエリアの報告は、次のような形式で行われます。

```
ファイル名              :  NECAI.SYS
インデックス　サイズ    :  4096 Byte
ページ　サイズ          :  1024
全ページ数              :   645 Page

ﾍﾟｰｼﾞNO.   0  見出し  !          ﾚｺｰﾄﾞ数   1  空きｴﾘｱ 1016 Byte ( 99%)
ﾍﾟｰｼﾞNO.   1  見出し  "          ﾚｺｰﾄﾞ数   1  空きｴﾘｱ 1016 Byte ( 99%)
ﾍﾟｰｼﾞNO.   2  見出し  #          ﾚｺｰﾄﾞ数   1  空きｴﾘｱ 1016 Byte ( 99%)
ﾍﾟｰｼﾞNO.   3  見出し  $          ﾚｺｰﾄﾞ数   1  空きｴﾘｱ 1016 Byte ( 99%)
ﾍﾟｰｼﾞNO.   4  見出し  ()1        ﾚｺｰﾄﾞ数  23  空きｴﾘｱ  866 Byte ( 84%)
ﾍﾟｰｼﾞNO.   5  見出し  0          ﾚｺｰﾄﾞ数  24  空きｴﾘｱ  170 Byte ( 16%)
ﾍﾟｰｼﾞNO.   6  見出し  027        ﾚｺｰﾄﾞ数  14  空きｴﾘｱ  180 Byte ( 17%)
ﾍﾟｰｼﾞNO.   7  見出し  041        ﾚｺｰﾄﾞ数  19  空きｴﾘｱ  180 Byte ( 17%)
ﾍﾟｰｼﾞNO.   8  見出し  060        ﾚｺｰﾄﾞ数  18  空きｴﾘｱ  208 Byte ( 20%)
ﾍﾟｰｼﾞNO.   9  見出し  078        ﾚｺｰﾄﾞ数  15  空きｴﾘｱ  188 Byte ( 18%)
ﾍﾟｰｼﾞNO.  10  見出し  093        ﾚｺｰﾄﾞ数   7  空きｴﾘｱ  642 Byte ( 62%)
ﾍﾟｰｼﾞNO.  11  見出し  1          ﾚｺｰﾄﾞ数  48  空きｴﾘｱ  150 Byte ( 14%)
ﾍﾟｰｼﾞNO.  12  見出し  154        ﾚｺｰﾄﾞ数  47  空きｴﾘｱ  206 Byte ( 20%)
ﾍﾟｰｼﾞNO.  13  見出し  2          ﾚｺｰﾄﾞ数  35  空きｴﾘｱ  185 Byte ( 18%)
ﾍﾟｰｼﾞNO.  14  見出し  240        ﾚｺｰﾄﾞ数  24  空きｴﾘｱ  158 Byte ( 15%)
ﾍﾟｰｼﾞNO.  15  見出し  273        ﾚｺｰﾄﾞ数  25  空きｴﾘｱ  228 Byte ( 22%)
ﾍﾟｰｼﾞNO.  16  見出し  3          ﾚｺｰﾄﾞ数  20  空きｴﾘｱ  208 Byte ( 20%)
ﾍﾟｰｼﾞNO.  17  見出し  319
```

出力が終了すると、「⏎キーを押してください」というメッセージが表示され、3の新しい辞書ファイルの作成に進みます。

3 1で「いいえ」を選択した場合、または2で行った空きエリアの報告が終了すると、新しい辞書ファイル（出力ファイル）の作成作業に入ります。
ここでは、出力ファイル名を「NECAI2.SYS」としています。

```
 DICMコマンド              Ver. X.XX
──────────────────────── Copyright (C) NEC Corporation 1988,1991 -
 辞書再編成

         出力ファイル名  NECAI2.SYS

         空きエリア(%)

         プリンタ出力
```

・出力ファイル名をタイプせずに、⏎キーのみを押すと、辞書再編成を中止し、DICMのメニュー画面に戻ります。
・DICMの起動時に指定したファイル名と同じファイル名が指定された場合は、ブザーが鳴り、「同じファイル名は指定できません」というメッセージが表示され、再び出力ファイルの指定に戻ります。

4 出力ファイル中の空きエリアを何パーセントほど用意するかを指定します。

```
DICMコマンド            Ver. X.XX
                              Copyright (C) NEC Corporation 1988,1991 -
辞書再編成
        出力ファイル名  NECAI2.SYS
        空きエリア(%)   15
        プリンタ出力
```

- 数字を入力しないで、[↵]キーのみを押すと、15%の空きエリアが用意されます。
- 0～30の範囲外の数字を入力した場合は、ブザーが鳴り、「入力に誤りがあります」というメッセージが表示され、再び空きエリアの入力に戻ります。

空きエリアとは、ユーザーが単語を登録する部分で（辞書に白紙がついていると考えれば良いでしょう）、0～30%の範囲で指定できます。

空きエリアが0％というのは、単語を登録する部分が無いということですから少々非現実的な数字ですが、出力ファイルの大きさは最小になります。空きエリアが30%あれば、かなり多くの単語を登録できますが、白紙の部分ばかりで、辞書ファイルが大きくなってしまいます。

空きエリアは、標準的には15%くらいあれば良いでしょう。

NECDIC.SYSファイルの大きさの上限は、686Kバイトです。この値を超えて単語の登録を行ったり、空きエリアを広げることはできません。

5 プリンタに出力するかどうかを選択します。

```
プリンタに出力しますか
矢印キーで項目を選択し、リターンキーを押してください

はい    いいえ
```

- 「はい」を選択すると、新しい辞書ファイルの状況報告が、画面とプリンタの両方に出力されます。
- 「いいえ」を選択すると、新しい辞書ファイルの状況報告は、画面のみに表示されます。

6 最後に確認のメッセージが表示されます。

```
よろしいですか
矢印キーで項目を選択し、リターンキーを押してください
（ＥＳＣキーを押すと処理を中止して機能選択に戻ります）
はい　　いいえ
```

- 「はい」を選択すると、辞書再編成が開始され**8**の画面が表示されます。
- 「いいえ」を選択すると、**7**の画面が表示され、設定項目を変更することができます。
- ESCキーを押すと、辞書再編成を中止し、DICMのメニュー画面に戻ります。

7 **6**で「いいえ」を選択すると、どの項目から変更するかを選択する画面が表示されます。

```
戻り先を指定してください
矢印キーで項目を選択し、リターンキーを押してください
出力ファイル名　空きエリア　プリンタ出力
```

- 「出力ファイル名」を選択すると、**3**の出力ファイル名の指定に戻ります。
- 「空きエリア」を選択すると、**4**の空きエリアの指定に戻ります。
- 「プリンタ出力」を選択すると、**5**のプリンタ出力の選択に戻ります。
- ESCキーを押すと、辞書マージを中止し、DICMのメニュー画面に戻ります。

8 辞書の再編成中は、新しい辞書の状況報告が画面に（あるいはプリンタにも）出力されます。
辞書の再編成が終了すると、次のような画面が表示されます。

```
処理を終了しますか
矢印キーで項目を選択し、リターンキーを押してください

はい　　いいえ
```

- 「はい」を選択すると、DICMのメニュー画面に戻ります。
- 「いいえ」を選択すると、**3**の出力ファイルの指定に戻ります。

4.8　辞書ファイルの構造と管理

辞書ファイルは、次のような構造になっています。

辞書ファイルの先頭の「インデックス」は、辞書ファイルを調べる作業を高速化するための索引です。
辞書ファイルの内容は、「ページ」に分けられて管理されています。

NECDIC.SYSファイルの大きさの上限は、686Kバイトです。この値を超えて単語の登録を行ったり、空きエリアを広げることはできません。

第5章

ユーザー定義文字保守ユーティリティ(USKCGM)

「ユーザー定義文字保守ユーティリティ」は、システムに登録されていない文字や記号を、ユーザーが独自に作成してシステムに登録するためのプログラム(プログラム名は「USKCGM」)です。

ユーザーが作成した文字や記号は、画面に表示したり、プリンタで印字することもできます。

PC-9801(最初のPC-9801シリーズ機)では、ユーザー定義文字を作成し保存することはできますが、表示したり印字したりすることはできません(保存したファイルを、他の機種に移して使用することはできます)。また、機種により使用できない場合があります。また、機種や動作モードによって、使用できるユーザー定義文字の数が異なります。詳しい説明は、「5.1 ユーザー定義文字とは」にあります。

5.1 ユーザー定義文字とは

参照:ノーマルモード、ハイレゾリューションモード➡『ユーザーズリファレンスマニュアル』

画面に表示される文字や、プリンタで印字される文字は、「ドット」と呼ばれる小さい点で構成されています。1文字の大きさは、ノーマルモードとハイレゾリューションモードで異なり、次のようになっています。

モード	縦	横
ノーマルモード	16ドット	16ドット
ハイレゾリューションモード	24ドット	24ドット

この範囲の大きさで、ユーザーが作成する文字や記号を「ユーザー定義文字」と呼び、ユーザー定義文字保守ユーティリティ(プログラム名「USKCGM」)によって作成し登録します。一度登録したユーザー定義文字はファイルとして保存され、以後は自由に画面に表示したり、プリンタで印字することができるようになります。ユーザー定義文字が保存される標準的なファイル名は、次のとおりです。

モード	ファイル名
ノーマルモード	USKCG16.SYS
ハイレゾリューションモード	USKCG24.SYS

これらのファイルが、システムを起動するディスクのルートディレクトリにあると、自動的にシステムにユーザー定義文字が登録されます。

機種と動作モードによる違い

使用できるユーザー定義文字の数は、機種と動作モードによって異なります。

●使用できるユーザー定義文字の数

機種	文字数		JISコード範囲（16進）	
	画面	プリンタ	画面	プリンタ
PC-9801	-	-	-	-
PC-9801E／F／M／U	62	62	7621～765F	7621～765F
上記以外のPC-9801シリーズ	188	84	7621～767E、7721～777E	7621～7674
PC-H98	219	84	7621～767E、7721～777E 7821～783F	7621～7674

PC-9801（最初のPC-9801シリーズ機）では、ユーザー定義文字を作成、保存することはできますが、表示や印字することはできません。保存したファイルを他の機種に移して使用することはできます。

●ファイル名と利用の可否

ファイル名	ノーマルモード		ハイレゾリューションモード	
	画面	プリンタ	画面	プリンタ
USKCG16.SYS	○	×	×	×
USKCG24.SYS	×	○	○	○

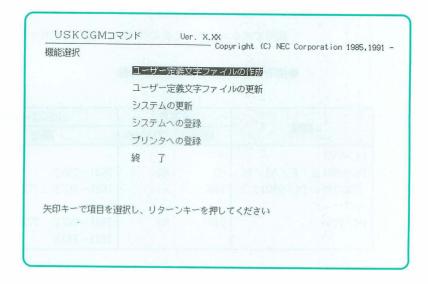
上記ファイル名は、システムの標準的なファイル名です。USKCGMで作成、保存したファイルであれば、上記以外のファイル名以外でも使用できます。

第5章

5.2 USKCGMの起動

USKCGMを起動するときは、次のように起動します。

```
USKCGM⏎
```

USKCGMが起動すると、次のようなメニュー画面が表示されます。

この画面で、これから使用したい機能を選択します。各機能は、次のような働きをします。

ユーザー定義文字ファイルの作成

新しいユーザー定義文字ファイルを作成します。初めてユーザー定義文字を作成するときは、この項目を選択します。

ユーザー定義文字ファイルの更新

すでに作成したユーザー定義文字ファイルを編集することができます。すでに作成したユーザー定義文字を変更するときに、この項目を選択します。

システムの更新

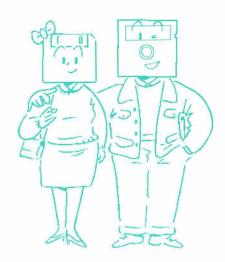
すでに本体内のメモリに読み込まれたユーザー定義文字を変更することができます。なお、変更結果はユーザー定義文字ファイルには反映されないので注意してください。

システムへの登録

ユーザー定義文字ファイルの内容が本体内のメモリへ登録され、ユーザー定義文字が画面に表示されるようになります。

プリンタへの登録

ユーザー定義文字ファイルの内容がプリンタへ登録され、ユーザー定義文字がプリンタで印字されるようになります。

［↑］［↓］キーで目的の機能を反転表示させ、［⏎］キーを押してください。

5.3 ユーザー定義文字の作り方

ユーザー定義文字を作成する手順は、初めて作成する場合と、すでに作成してユーザー定義文字ファイルがある場合で、若干異なります。

- 初めて作成するときは、USKCGMのメニュー画面で「ユーザー定義文字ファイルの作成」を選択します。以後の操作は、「初めてユーザー定義文字を作る場合」と「ユーザー定義文字の編集」へ進んでください。
- すでにユーザー定義文字ファイルがある場合は、USKCGMのメニュー画面で「ユーザー定義文字ファイルの更新」を選択します。以後の操作は、「ユーザー定義文字ファイルの更新」と「ユーザー定義文字の編集」へ進んでください。

▶初めてユーザー定義文字を作る場合

初めてユーザー定義文字を作成する場合は、USKCGMのメニュー画面で「ユーザー定義文字ファイルの作成」を選択します。これから作成する文字の大きさ（16ドットか24ドットか）の指定と、作成したユーザー定義文字を記録するファイル名（出力ファイル名）を指定してから、文字を作ります。

1 USKCGMのメニュー画面で「ユーザー定義文字ファイルの作成」を選択すると、次のような画面が表示されます。これから作成する文字の大きさを選択します。

```
USKCGMコマンド          Ver. X.XX
                              Copyright (C) NEC Corporation 1985,1991 -
ユーザー定義文字ファイルの作成
  文字パターンサイズ      16ドット



  出力ファイル名          ¥USKCG16.SYS



矢印キーで文字パターンサイズ(ドット)を選択し、リターンキーを押してください
（ESCキーを押すと処理を中止し、機能選択画面に戻ります）

16ドット  24ドット
```

[←][→]の矢印キーで、16ドットの文字を作成するか、24ドットの文字を作成するかを選択します。

・ノーマルモードで画面に表示するユーザー定義文字を作成する場合は、16ドットを選択します。
・ハイレゾリューションモードの場合、またはノーマルモードでプリンタでユーザー定義文字を印字する場合は、24ドットを選択します。
・ESCキーを押すと、ユーザー定義文字ファイルの作成を中止し、USKCGMのメニュー画面に戻ります。

ノーマルモードでは、画面表示用のユーザー定義文字ファイルと、プリンタ印字用のユーザー定義文字ファイルの2種類を作る必要があります。

2 作成するユーザー定義文字を記録する出力ファイル名（ユーザー定義文字ファイル名）をタイプして⏎キーを押します。

```
USKCGMコマンド          Ver. X.XX
                        Copyright (C) NEC Corporation 1985,1991 -
ユーザー定義文字ファイルの作成
  文字パターンサイズ    16ドット

  出力ファイル名        #USKCG16.SYS

出力ファイル名を入力してください（省略した場合はUSKCG16.SYSとなります）
（ESCキーを押すと処理を中止し、機能選択画面に戻ります）
>
```

ファイル名のタイプを省略して、⏎キーのみを押した場合は、文字パターンサイズによって、次のような名前のファイルが自動的に作成されます。

・16ドットの場合……「USKCG16.SYS」という名前で、カレントドライブのルートディレクトリに作成されます。
・24ドットの場合……「USKCG24.SYS」という名前で、カレントドライブのルートディレクトリに作成されます。

なお、ESCキーを押すと、ユーザー定義文字ファイルの作成を中止、USKCGMのメニュー画面に戻ります。

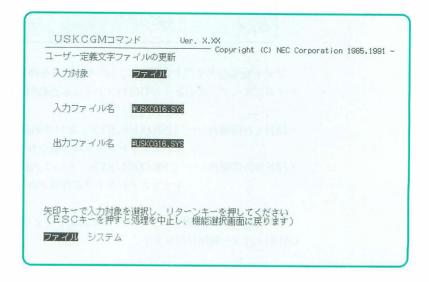
第5章

3 出力ファイル名の指定が済むと、次のような確認を求めるメッセージが表示されます。

・「N」または「n」をタイプして⏎キーを押すと、**1**の文字パターンサイズの選択画面に戻ります。
・「Y」または「y」をタイプして⏎キーを押すと、ユーザー定義文字の作成画面が表示されます。以後の操作は、「ユーザー定義文字の編集」へ進んでください。

▶ユーザー定義文字ファイルの更新

すでにユーザー定義文字ファイルがある場合は、ユーザー定義文字ファイルの更新となります。

1 USKCGMのメニュー画面で「ユーザー定義文字ファイルの更新」を選択すると、次のような画面が表示されます。

入力対象を、ファイルとするか、システムとするかを選択します。

・「ファイル」を選択すると、そのファイルがディスクから読み込まれ、ユーザー定義文字を編集できるようになります。
・「システム」を選択すると、現在システムに登録されているユーザー定義文字を修正、追加して、ファイルに記録できるようになります。この場合は、2の画面は表示されません。3へ進んでください。

バージョン4.00以前のUSKCGMで作成したユーザー定義文字ファイル（ファイル名は「USKCG.SYS」）も、入力ファイルとして指定できます。この場合は、3で指定する出力ファイル名を「USKCG16.SYS」または「USKCG24.SYS」として更新すれば、以後、システム起動時の自動ユーザー定義文字登録用ファイルになります。

2 1で「ファイル」を選択した場合は、入力ファイル名を入力します。

```
入力ファイル名を入力してください（省略した場合はUSKCG16.SYSとなります）
（ＥＳＣキーを押すと処理を中止し、機能選択画面に戻ります）

>
```

編集したいユーザー定義文字を記録したユーザー定義文字ファイル名をタイプして⏎キーを押します。ファイル名をタイプせずに、⏎キーのみを押した場合は、画面に表示されているファイル（この場合は「USKCG16.SYS」）が編集の対象となります。

ここでESCキーを押すと、ユーザー定義文字ファイルの更新は中止され、USKCGMのメニュー画面に戻ります。

3 入力ファイル名の指定が済むと、または1で「システム」を選択すると、編集後のユーザー定義文字を記録する出力ファイル名（ユーザー定義文字ファイル名）を入力します。

```
出力ファイル名を入力してください（省略した場合はUSKCG16.SYSとなります）
（ＥＳＣキーを押すと処理を中止し、機能選択画面に戻ります）

>
```

第5章

編集したユーザー定義文字を記録するユーザー定義文字ファイル名をタイプして[↵]キーを押します。ファイル名をタイプせずに、[↵]キーのみを押した場合は、画面に表示されているファイル（この場合は「USKCG16.SYS」）に編集結果が保存されます。

ここで[ESC]キーを押すと、ユーザー定義文字ファイルの更新は中止され、USKCGMのメニュー画面に戻ります。

ユーザー定義文字を追加したり修正する場合、通常は、入力ファイル名と出力ファイル名を同じ名前にします。

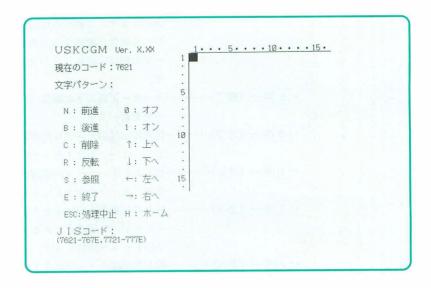
4 以上の設定が終了して[↵]キーを押すと、確認を求めるメッセージが表示されます。

```
よろしいですか(Y/N):
```

・「N」または「n」をタイプして[↵]キーを押すと、**1**の文字パターンサイズの選択画面に戻ります。
・「Y」または「y」をタイプして[↵]キーを押すと、ユーザー定義文字の作成画面が表示されます。以後の操作は、「ユーザー定義文字の編集」へ進んでください。

指定した入力ファイルが存在しない場合は、「ファイルが見つかりません、どれかキーを押してください」というメッセージが表示されます。メッセージに従って任意のキー（スペースキーや[↵]キー）を押すと、USKCGMのメニュー画面に戻ります。

ユーザー定義文字の編集

「ユーザー定義文字ファイルの作成」や「ユーザー定義文字ファイルの更新」で、入力ファイル名や出力ファイル名などの設定が終了すると、次のようなユーザー定義文字を編集する画面が表示されます。

これから編集（作成）するユーザー定義文字の文字コードと、画面の左上の「現在の文字コード」の欄に表示されています。編集（作成）するユーザー定義文字が実際に表示される様子は、「文字パターン」の欄に表示されています。

最初に、編集（作成）するユーザー定義文字のJISコードを、次に述べる[N]キーまたは[B]キーで指定します。次に、後述のキーを使用して、ユーザー定義文字を編集します。

ノーマルモードでは、24ドットの文字パターンは表示されません。ハイレゾリューションモードでは、16ドットの文字パターンは表示されません。

ユーザー定義文字の編集画面では、次のキーを使用してユーザー定義文字を編集（作成）します。

・[N]キー（前進）…………編集するユーザー定義文字のコード番号を1つ大きくします。その番号にユーザー定義文字が登録されている場合は、文字パターンと拡大図が表示されます。

・[B]キー（後進）…………編集するユーザー定義文字のコード番号を1つ小さくします。その番号にユーザー定義文字が登録されている場合は、文字パターンと拡大図が表示されます。

・[C]キー（削除）…………現在のコードのユーザー定義文字を削除します。文字パターンと拡大図が消去されます。
・[R]キー（反転）…………編集しているユーザー定義文字の白いドットと黒いドットを反転させます。
・[S]キー（参照）…………システムで用意している文字や、すでに作成したユーザー定義文字をコピーして、拡大図と文字パターンに表示します。これから作成する文字や記号と似たものがある場合に使用すると便利です。画面左下のJISコードの欄に、参照したい文字のJISコードを入力します。
・[E]キー（終了）…………ユーザー定義文字の編集（作成）を終了して、ファイルを更新します。
・[0]キー（オフ）…………拡大表示部のカーソル位置のドットをオフ（黒）にします。カーソルは1ドット分右に移動します。
・[1]キー（オン）…………拡大表示部のカーソル位置のドットをオン（白）にします。カーソルは1ドット分右に移動します。
・[↑]キー（上へ）…………拡大表示部のカーソルを1ドット上に移動します。カーソルがいちばん上にあるときは、同じ縦位置の一番下のドットへ移動します。
・[↓]キー（下へ）…………拡大表示部のカーソルを1ドット下に移動します。カーソルがいちばん下にあるときは、同じ縦位置の一番上のドットへ移動します。
・[←]キー（左へ）…………拡大表示部のカーソルを1ドット左に移動します。カーソルが拡大表示部の一番左にあるときは、1行上の一番右のドットへ移動します。カーソルが拡大表示部の左上隅にあるときは、右下隅へ移動します。
・[→]キー（右へ）…………拡大表示部のカーソルを1ドット右に移動します。カーソルが拡大表示部の一番右にあるときは、1行下の一番左のドットへ移動します。カーソルが拡大表示部の右下隅にあるときは、左上隅へ移動します。
・[H]キー（ホーム）………拡大表示部のカーソルを、左上隅へ移動します。
・[ESC]キー（処理中止）…ユーザー定義文字の編集を中止して、USKCGMのメニュー画面へ戻ります。

5.4 ユーザー定義文字を画面表示するには

ユーザー定義文字を画面に表示できるようにするには、次の2通りの方法があります。

・USKCGMを使用してユーザー定義文字をシステムに登録する方法。この方法は、いったん組み込んだユーザー定義文字ファイルを、後から変更する場合にも使用します。
・MS-DOSを起動時に自動的にユーザー定義文字を登録する方法。

▶USKCGMでユーザー定義文字をシステムに登録する方法

MS-DOSを起動した後でユーザー定義文字を表示できるようにしたり、使用中のユーザー定義文字ファイルを切り替えたいときは、USKCGMを使用します。

1 USKCGMのメニュー画面で「システムへの登録」を選択すると、次のような画面が表示されます。

```
USKCGMコマンド　　Ver. X.XX
　　　　　　　　　　　　　　　　　Copyright (C) NEC Corporation 1985,1991 -
システムへの登録

入力ファイル名　　¥USKCG16.SYS

登録するファイル名を入力してください（省略した場合はUSKCG16.SYSとなります）
（ＥＳＣキーを押すと処理を中止し、機能選択画面に戻ります）
>
```

2 入力ファイル名として、使用したいユーザー定義文字ファイル名をタイプし、⏎キーを押すと、確認を求めるメッセージが表示されます。

```
よろしいですか(Y/N):
```

- 「N」または「n」をタイプして⏎キーを押すと、ユーザー定義文字ファイル名を入力する画面に戻ります。
- 「Y」または「y」をタイプして⏎キーを押すと、指定されたユーザー定義文字ファイルが読み込まれ、ユーザー定義文字がシステムへ登録されます。

ファイル名のタイプを省略して、⏎キーのみを押すと、メッセージに表示されているファイル（この例では「USKCG16.SYS」）が読み込まれ、システムに登録されます。

使用する機種とモードによって、使用するユーザー定義文字ファイルが異なります。USKCG16.SYSとUSKCG24.SYSのどちらを使用するかは、「5.1　ユーザー定義文字とは」に説明があります。

▶ユーザー定義文字を自動的にシステムに登録する方法

常にユーザー定義文字を使用する場合は、この方法が便利です。

ユーザー定義文字ファイルが、MS-DOSを起動するディスクのルートディレクトリに存在すると、MS-DOSは自動的にそれを読み込んで、起動後はいつでもユーザー定義文字を使用できるようになります。

使用する機種とモードによって、用意するユーザー定義文字ファイルが異なります。USKCG16.SYSとUSKCG24.SYSのどちらを使用するかは、「5.1　ユーザー定義文字とは」に説明があります。

5.5 ユーザー定義文字をプリンタで使用するには

24ドット系のプリンタ（PC-PR201、101など）を使用すると、ユーザー定義文字を印字することができます。この場合は、ユーザー定義文字ファイルとしてUSKCG24.SYSを使用します。印字できる文字は、JISコードで7621H～7674Hの範囲の84文字です。

プリンタで使用できるユーザー定義文字ファイルはUSKCG24.SYSのみです。ノーマルモード機で、画面表示とプリンタ印字の両方でユーザー定義文字を使用する場合は、USKCG16.SYSとUSKCG24.SYSの両方を作成してください。また、16ドット系のプリンタでは、ユーザー定義文字は使用できません。

▶準　備

プリンタでユーザー定義文字を使用するに先だって、次のような準備が必要です。

・CUSTOMコマンドで、プリンタ用のデバイスドライバを本体に組み込みます。
・SWITCHコマンドで、使用するプリンタとして24ドット系を指定します。
・ユーザー定義文字ファイル「USKCG24.SYS」を用意します。

CUSTOMコマンド、SWITCHコマンドの使用方法の説明は、『ユーザーズリファレンスマニュアル』または『インストールガイド』を参照してください。

プリンタで使用できるユーザー定義文字ファイルはUSKCG24.SYSのみです。

以上の準備を行った後、ユーザー定義文字をプリンタに登録します。

ユーザー定義文字をプリンタに登録する方法は、次の2通りの方法があります。

・USKCGMを使用してユーザー定義文字をプリンタに登録する方法。この方法は、いったん組み込んだユーザー定義文字ファイルを、後から変更する場合にも使用します。
・MS-DOSを起動時に自動的にユーザー定義文字をプリンタに登録する方法。

▶ USKCGMでユーザー定義文字をプリンタに登録する方法

MS-DOSを起動した後でユーザー定義文字をプリンタで印字できるようにしたり、使用中のユーザー定義文字ファイルを切り替えたいときは、USKCGMを使用します。手順は、次のとおりです。

1 USKCGMのメニュー画面で「プリンタへの登録」を選択すると、次のような画面が表示されます。

ノーマルモードでは、この画面は表示されず、ただちに2の画面が表示されます。ノーマルモードの画面表示に使用するUSKCG16.SYSはプリンタへは登録できないためです。

```
USKCGMコマンド        Ver. X.XX
                              Copyright (C) NEC Corporation 1990,1991 -
プリンタへの登録
 入力対象      ファイル

 入力ファイル名    ¥USKCG24.SYS

矢印キーで入力対象を選択し、リターンキーを押してください
（ESCキーを押すと処理を中止し、機能選択画面に戻ります）
ファイル  システム
```

ユーザー定義文字をファイルから読み込んでプリンタに登録するか、現在システムに登録されているユーザー定義文字と同じものをプリンタへの登録するかを選択します。

- 「ファイル」を選択すると、2の画面が表示され、入力ファイル名の指定を行います。
- 「システム」を選択すると、2の画面は表示されず、3の確認画面が表示されます。
- ESCキーを押すと、プリンタへの登録を中止し、USKCGMのメニュー画面が表示されます。

2 本体がノーマルモードの場合、または**1**で「ファイル」を選択した場合は、次の画面が表示されます。

```
USKCGMコマンド        Ver. X.XX
―――――――――――――――――――――― Copyright (C) NEC Corporation 1985,1991 -
プリンタへの登録
  入力対象          ファイル


  入力ファイル名    ¥USKCG24.SYS






登録するファイル名を入力してください（省略した場合はUSKCG24.SYSとなります）
（ESCキーを押すと処理を中止し、機能選択画面に戻ります）

>
```

入力ファイル名として、使用したいユーザー定義文字ファイル名をタイプし、[⏎]キーを押すと、確認を求めるメッセージが表示されます。

ファイル名のタイプを省略して、[⏎]キーのみを押すと、メッセージに表示されているファイル（この例では「USKCG24.SYS」）が読み込まれ、プリンタに登録されます。

[ESC]キーを押すと、プリンタへの登録を中止し、USKCGMのメニュー画面が表示されます。

3 **1**で「システム」を選択した場合、または入力ファイル名の指定が終了すると次のような確認を求めるメッセージが表示されます。

```
よろしいですか(Y/N):
```

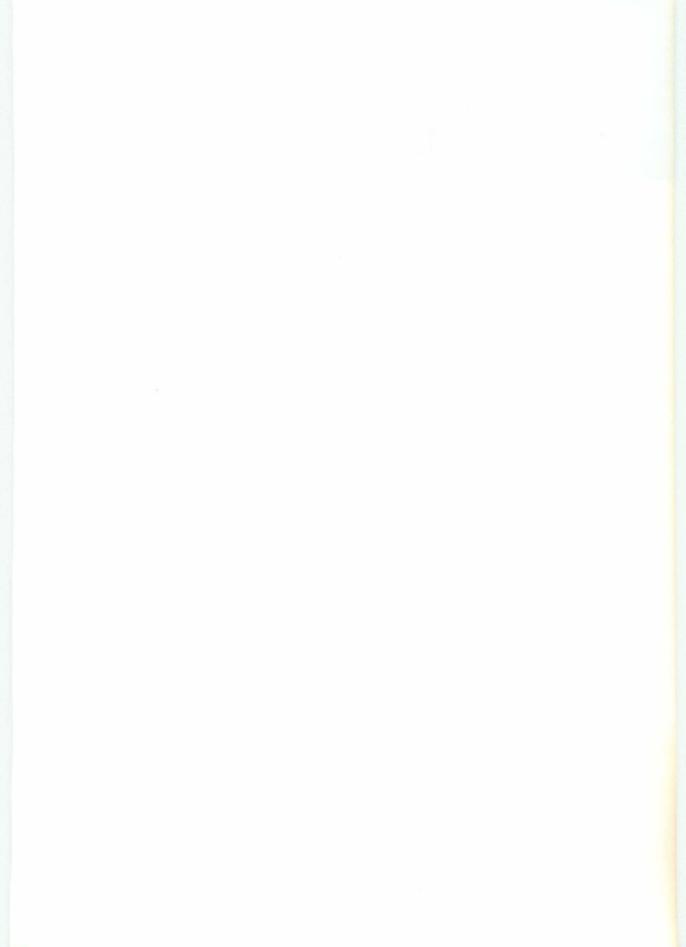
・「N」または「n」をタイプして[⏎]キーを押すと、ハイレゾリューションモードでは**1**の画面に、ノーマルモードでは**2**の画面に戻ります。
・「Y」または「y」をタイプして[⏎]キーを押すと、指定されたユーザー定義文字ファイルが読み込まれ、ユーザー定義文字がプリンタへ登録されます。

▶ユーザー定義文字を自動的にプリンタに登録する方法

MS-DOSを起動するときに使用するCONFIG.SYSファイル

常にユーザー定義文字をプリンタで印字したい場合は、この方法が便利です。この方法を使用するには、MS-DOSを起動するディスクのCONFIG.SYSファイルに次の1行を書き込みます。

```
DEVICE=PRINT.SYS /U
```

ユーザー定義文字ファイル「USKCG24.SYS」が、MS-DOSを起動するディスクのルートディレクトリに存在すると、MS-DOSは自動的にそれを読み込んで、起動後はいつでもユーザー定義文字を使用できるようになります。

第6章 日本語入力機能とMS-DOS

ここでは、日本語入力機能で使用するキーの割り付けを変更する方法、日本語入力機能をMS-DOSにインストールする（組み込む）方法のなどを説明します。MS-DOSをインストールした時点で、日本語入力機能は標準的な使用方法に沿うように自動的にインストールされますが、その設定を変更したいときや、メモリを増設した場合などにお読みください。

6.1 日本語入力キーの変更（NECAIKEY）

日本語入力機能では、変換などにファンクションキーを使用します。しかし、アプリケーションプログラムによっては、日本語入力機能と同じファンクションキーを使用するために、プログラムが正しく動作しなくなる場合があります。

このような場合のために、日本語入力機能では、ファンクションキーの働きをユーザーが設定変更することができます。

これには、別プログラムで提供される「日本語入力キー設定コマンド（NECAIKEYコマンド）」を使用します。

ここでは、NECAIKEYコマンドによって、ファンクションキーの割り付けを変更する方法を説明します。

▶日本語入力キー設定プログラムとは

日本語入力機能で使用するファンクションキーの割り付けを変更するには、NECAIKEYコマンドを使用して作成した「日本語入力キーファイル」を、AIかな漢字変換ドライバの起動時に組み込ませます。ここでは、NECAIKEYコマンドを使用した、日本語入力キーファイルの作成方法について説明します。

1 ひらがな変換の機能を、[f･1]キーにも設定してみましょう。MS-DOSのシステムプロンプトが表示されている状態で、次のように入力して、NECAIKEYコマンドを実行します。

NECAIKEY [↵]

NECAIKEYコマンドは外部コマンドですので、利用に際しては、このコマンドファイル（NECAIKEY.EXE）がディスクに格納されていなければなりません。

2 NECAIKEYコマンドが実行されると、次のような画面が表示されます。

```
 日本語入力キー設定コマンド   Ver. X.XX
                              Copyright (C) NEC Corporation 1990,1991 -
日本語入力キーファイル名の指定

 入力ファイル名：

 出力ファイル名：

入力ファイル名を指定してください（リターンキーのみ押すと新規作成します）
（ＥＳＣキーを押すと処理を中止することが出来ます）
>
```

3 入力ファイル名を指定します。初めは日本語入力キーファイルは存在しないので、新規にファイルを作成するために、⏎キーを押します。なお、ESCキーを押すと、処理を中止することができます。

第6章

4 入力ファイル名の指定が終わると、次に出力ファイル名の指定となります。作成する日本語入力キーファイルの名前が、NECAIKEY.DATでかまわなければ、[↵]キーを押します。

```
日本語入力キー設定コマンド　Ver. X.XX
                              Copyright (C) NEC Corporation 1990,1991 -
日本語入力キーファイル名の指定

入力ファイル名：

出力ファイル名：NECAIKEY.DAT

出力ファイル名を指定してください
（ＥＳＣキーを押すと入力ファイル名の指定に戻ります）
>
```

5 ファイル名の指定が終わると、日本語入力で使用するファンクションキーの設定画面に変わります。この画面には、現在の設定状況も表示されています。

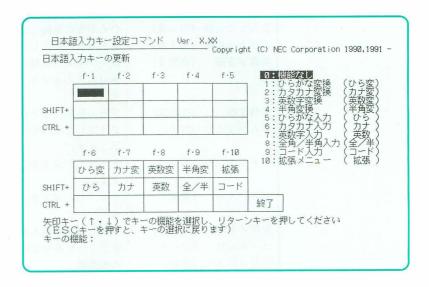
```
日本語入力キー設定コマンド　Ver. X.XX
                              Copyright (C) NEC Corporation 1990,1991 -
日本語入力キーの更新
```

	f·1	f·2	f·3	f·4	f·5
	■				
SHIFT+					
CTRL +					

	f·6	f·7	f·8	f·9	f·10	
	ひら変	カナ変	英数変	半角変	拡張	
SHIFT+	ひら	カナ	英数	全／半	コード	
CTRL +						終了

```
0：機能なし
1：ひらがな変換　（ひら変）
2：カタカナ変換　（カナ変）
3：英数字変換　　（英数変）
4：半角変換　　　（半角変）
5：ひらがな入力　（ ひら ）
6：カタカナ入力　（ カナ ）
7：英数字入力　　（ 英数 ）
8：全角／半角入力（全／半）
9：コード入力　　（コード）
10：拡張メニュー　（ 拡張 ）

矢印キー（↑・↓・←・→）で更新するキーを選択し、リターンキーを押してください
（ＥＳＣキーを押すと処理を中止することが出来ます）
```

設定を変更したいファンクションキーを選択します。矢印キー（[↑][↓][←][→]）を使って反転表示を移動し、[↵]キーで決定します。ここでは、[f·1]キーを反転表示させ、[↵]キーを押します。
なお、ここで[ESC]キーを押すと、処理を中止することができます。

6 ファンクションキーを選択すると、メニューカーソルは、画面右側の機能一覧に移ります。

先ほど選択したファンクションキーに割り付けたい機能を選択します。↑↓キーで、割り付けたい機能を反転表示し、⏎キーを押します。ここでは、「ひらがな変換」を選択します。
なお、ここでESCキーを押すと、ファンクションキーの選択画面に戻ります。

7 ファンクションキーへの機能の割り付けが終了したら、メニューカーソルを「終了」に重ねて⏎キーを押します。これで日本語入力キーコマンドは終了します。

第6章

画面に表示される項目名と、機能の関係は次のとおりです。

項　目	機　能
ひらがな変換（ひら変）	ひらがなに変換します。
カタカナ変換（カナ変）	カタカナに変換します。
英数字変換　（英数変）	ローマ字入力の際に、ひらがなに変換された入力をアルファベットに戻します。
半角変換　　（半角変）	半角の英数、カタカナに変換します。
ひらがな入力（ひら）	タイプした読みがなを、ひらがなで表示します。
カタカナ入力（カタ）	タイプした文字を、カタカナで表示します。
英数字入力　（英数）	タイプした文字を、アルファベットで表示します。
全角／半角　（全／半）	全角入力と半角入力を切り替えます。
コード入力　（コード）	文字コード番号を切り替えます。
拡張メニュー（拡張）	拡張機能。

▶日本語入力キーの変更

日本語入力キーの機能を変更するには、日本語入力キーファイルを作成し、MS-DOSの起動時、あるいはADDDRVコマンドの実行時に読み込ませます。

日本語入力キーファイルを読み込ませるためには、CONFIG.SYSファイルあるいはADDDRV定義ファイルでの設定が必要です。設定の方法の説明は、「6.2　システム構築ファイル(CONFIG.SYSファイル)の設定」で行われています。

日本語入力機能がシステムに組み込まれるとき、日本語入力機能は指定された日本語入力キーファイルを捜し、あればそのファイルの内容に従ってファンクションキーの働きを設定しなおします。該当するファイルが見つからない場合には、ファンクションキーの働きは、初期設定の状態になります。

6.2 システム構築ファイル(CONFIG.SYSファイル)の設定

『インストールガイド』の手順に沿って作成した運用ディスクは、日本語入力機能が使用できるように設定済みですが、ユーザーが独自に作成したMS-DOS起動ディスクで日本語入力機能を使用するためには、システムに設定を独自に行う必要があります。

また、初期状態で設定されている変換方式を変更する際にも、システムに対する設定が必要です。

▶CONFIG.SYSファイルと日本語入力機能

CONFIG.SYSファイルは、MS-DOSの起動時に必要なファイルで、、MS-DOSの機能を調整したり、使用する周辺装置に必要な制御プログラムを本体に組み込むためのファイルです。またこのファイルは、日本語入力機能を組み込む際の、いろいろな設定にも使用されます。

MS-DOSシステムの初期状態では、日本語入力機能が使用できるようにすでに設定されています。しかし、初期状態の変換方式を変更したり、新しく作成したユーザーのシステムディスクで日本語入力機能を使用したりする場合には、CONFIG.SYSファイル内に日本語入力機能に関する設定を書き込む必要があります。

これには、MS-DOSのCUSTOMコマンド、またはSEDITやEDLINなどのエディタを使用します。

まず、現在使用しているMS-DOSシステムディスク内にある、CONFIG.SYSファイルの内容を確認してみましょう。TYPEコマンドを使用して、ファイル中に日本語入力機能に必要な設定がどうなっているか確かめてみましょう。

```
A>TYPE CONFIG.SYS
  .
  .
  .
  .
DEVICE=A:¥DOS¥NECAIK1.DRV
DEVICE=A:¥DOS¥NECAIK2.DRV NECAI.SYS
A>
```

この例では、AI逐次変換を使用し、辞書ファイルとしてNECAI.SYSファイルを使用することが記述されています。

次に、CONFIG.SYSファイルの内容の変更を、MS-DOSのCUSTOMコマンドを使って変更する場合と、エディタを使って変更する場合に分けて説明します。

●CUSTOMコマンドを使用する場合

MS-DOSのCUSTOMコマンドは、CONFIG.SYSファイルの内容を、メニュー形式の画面で作成・変更することができます。このCUSTOMコマンドによって、日本語入力機能に関する設定を、CONFIG.SYSファイル内に記述することができます。

CUSTOMコマンドは外部コマンドですので、実行時にはこのコマンドファイル（CUSTOM.EXE）がディスクに格納されていなければなりません。

次に、CUSTOMコマンドの操作方法を示します。

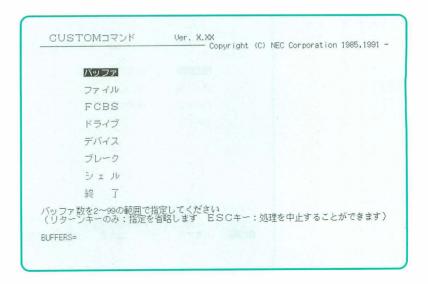
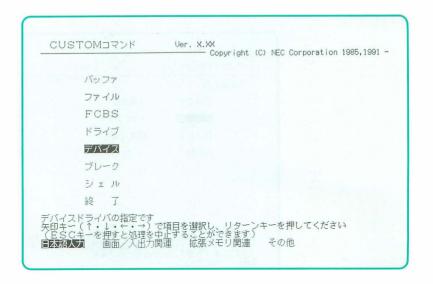
1 MS-DOSのプロンプトが表示されている状態で、次のように入力し、CUSTOMコマンドを起動します。

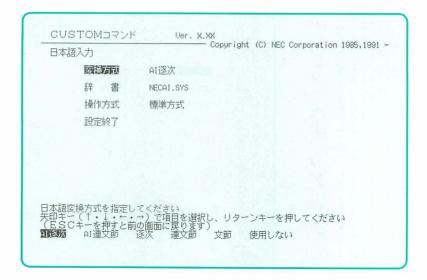
A〉CUSTOM　A：⏎

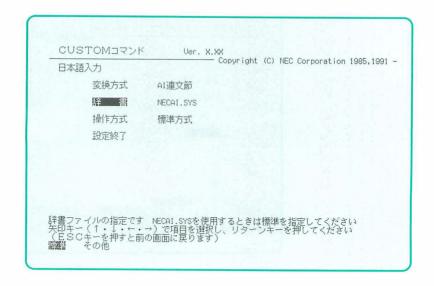
2 CUSTOMコマンドが起動すると、画面下部に次のような画面が表示されます。

```
CONFIG.SYSは既に作成されています　新しく作成しますか、更新しますか
矢印キー（←・→）で項目を選択し、リターンキーを押してください

新規作成　　更新
```

ここでは、CONFIG.SYSファイルを新たに「作成」するか、既存のCONFIG.SYSファイルの内容を「更新」するかを選択します。
今回は「更新」を選択します。左右の矢印キー（←→）で「更新」を反転表示させ、⏎キーを押します。

3 画面は次のように変わり、現在の設定状況が表示されます。

4 日本語入力機能についての設定を行うには、「デバイス」を選択します。上下の矢印キー（↑↓）で、「デバイス」を反転表示させると、画面の最下行に次のような項目が表示されます。

左右の矢印キー（←→）で「日本語入力」を反転表示させ、⏎キーを押してください。

5 画面が再び変わり、いま設定されている変換方式と辞書ファイルが表示されます。ここでは、変換方式をAI逐次変換からAI連文節変換へ変更してみます。反転表示部分を「変換方式」に重ねると、画面下に変換方式の選択項目が表示されます。

ここで、「AI連文節」に反転部分を重ね、⏎キーを押してください。

6 次に、辞書ファイルの指定をします。反転部分を「辞書」に重ねると、画面下に次のようなメッセージが表示されます。

ここでは、「標準」の辞書ファイル（NECAI.SYS）を使用します。反転表示部分を「標準」に重ね、⏎キーを押してください。
ここで「その他」を選択すると、辞書ファイル名を入力するよう求められます。

7 次に、操作方式を指定します。これは、ファンクションキーの働きを指定するものです。「操作方式」を反転表示させると、次のような画面が表示され

ます。

ここでは。「標準方式」を選択します。「標準方式」を反転表示させ、⏎キーを押してください。
ここで、「従来方式」を選択すると、MS-DOS Ver.3.3Bまでと同様の操作方式になります。また、「ファイル指定」を選択すると、ファンクションキーの働きを記述した日本語入力キーファイル名の入力が求められます。

8 以上で、日本語に関する指定は終わりです。反転部分を「設定終了」に重ね、⏎キーを押してください。

第6章

9 画面は**3**とおなじ操作画面に戻ります。ここで反転部分を「終了」に重ね、⏎キーを押してください。

10 最後に、新しく作成（または変更）するCONFIG.SYSファイルの内容が画面に表示されます。画面中の2行めからの2行は日本語入力機能に関する指定です。先ほどの変更により、AI連文節変換が指定されました。
ここで、内容にまちがいがなければ「作成を終了する」を選択し、操作を終了します。操作を続ける場合は「メニュー選択に戻る」または「内容を編集する」を選択します。画面の内容にまちがいがないことを確認したら、反転部分を「はい」に重ね、⏎キーを押してください。

11 画面はMS-DOSシステムのプロンプトに戻ります。

```
CONFIG.SYSファイルを作成しました
作成した内容を有効にするには、システムを再起動してください

A>
```

以上で、CUSTOMコマンドを使用した日本語入力機能の変更操作は終わりです。

●エディタを使用する場合

エディタとは、文書ファイルを作成するためのプログラムです。

CONFIG.SYSファイルを書き換えるエディタには、MS-DOSのシステムディスクに添付されているスクリーンエディタ「SEDIT」や行エディタ「EDLIN」を使用することもできます。MS-DOS上で実行できる市販のエディタなども利用可能です。

次に、CONFIG.SYSファイル中で必要な指定を示します。

・AI逐次変換、AI連文節変換、逐次変換、連文節変換

DEVICE＝[〈d：〉][〈パス名〉]NECAIK1.DRV　[/F＝〈d：〉〈パス名〉〈日本語入力キーファイル名〉][/H][/J][/W][/P＝〈読みがなの色〉〈変換文字の色〉¦M]
DEVICE＝[〈d：〉][〈パス名〉]NECAIK2.DRV　[/T][/R][〈d：〉][〈辞書ファイル名〉]

（注）この2行は、必ずこの順序で記述してください。

/F＝〈d：〉〈パス名〉〈日本語入力キーファイル名〉
日本語入力キーを読み込みファンクションキーの働きを変更することを指定します。日本語入力キーファイル名としては、NECAIKEY.DAT、またはNECAI33B.DATを指定します。NECAI33B.DATを指定すると、ファンクションキーの働きは、MS-DOS 3.3Bまでと同様になります。省略時は、NECAIKEY.DATとなります。

/H　句読点変換を行わないことを指定します。
/J　コード入力を連続して行えるようにします。
/W　単語登録を連続して行えるようにします。

第6章

/P＝〈読みがなの色〉〈変換文字の色〉　または　/P＝M

入力された読みがな、変換後（確定前）の文字の表示色を、次の数字で指定します。2つの数字の間には、必ず半角（1バイト）の空白を入れます。

赤 ……	1	黄 ……	5
青 ……	2	紫 ……	6
緑 ……	3	白 ……	7
シアン ……	4		

/P＝Mを指定すると、ノーマル、反転、下線のみで表示されます(モノクロディスプレイの場合に指定します）。

/T　AI機能を使用しないことを指定します。省略すると、AI逐次、またはAI連文節変換となります。

〈d：〉　A：、B：、……など、ファイルのあるドライブ名を指定します。省略時は、カレントドライブとなります。

〈辞書ファイル名〉

AI機能を使う場合（/Tが指定されていない）場合は、NECAI.SYSです（省略時も）。
AI機能を使わない（/Tが指定されている）場合は、NECDIC.SYSです（省略時も）。

・**単文節変換**

DEVICE＝[〈d：〉][〈パス名〉]NECDIC.DRV　[〈d：〉][辞書ファイル名]

d：　A、B、……など、ファイルのあるドライブ名を指定します。省略時はカレントドライブを指定したことになります。

パス名　NECDIC.DRVファイルがサブディレクトリに存在する場合に指定します。

辞書ファイル名　NECDIC.SYS（省略時もおなじです）。

辞書ファイルのドライブ名を省略した場合は、辞書ファイルをカレントドライブのルートディレクトリにおいてください。
ドライブ名を指定した場合は、辞書ファイルを指定ドライブのルートディレクトリにおいてください。

CONFIG.SYSファイルの設定を変更したら、必ずMS-DOSシステムを再起動させてください。再起動しないと新しい指定が有効になりません。

6.3 メモリ容量と辞書ファイル

使用する変換方式によって、日本語入力機能に必要なメモリ容量と辞書ファイルがちがいます。

メモリ容量

各変換方式に必要なメモリ容量は次のようになっています。

なお、表中の値は、日本語入力機能のみが使用するメモリ量です。MS-DOSシステムが使用するメモリ量は含まれていません。

変換方式	必要なメモリ量
AI逐次 AI連文節 逐次 連文節	約125Kバイト （EMSインターフェイスを使用すると、必要なメモリ量は減少します。）
単文節	約37Kバイト
JIS	無し

辞書ファイル

変換方式と辞書ファイルの関係は、次のようになっています。

変換方式	辞書ファイル名
AI逐次 AI連文節	NECAI.SYS
逐次 連文節 単文節	NECDIC.SYS
JIS	－

第6章

6.4 EMSについて

参照：EMSドライバ
→『ユーザーズリファレンスマニュアル』

拡張メモリ領域にメモリを増設すると、EMSドライバとの併用でEMSメモリとして使用できます。この日本語変換ドライバは、かな漢字デバイスドライバプログラムの大半をEMSメモリ領域に置くことができるので、メインメモリの消費を最小に抑えることができます。EMSメモリを使用する場合としない場合との、メモリ使用量の比較を下表に挙げます。

なお、文節変換ドライバでは、EMSドライバと併用しても、メインメモリの使用量は変わりません。

EMSドライバ	メインメモリの使用量
非使用	約125Kバイト
EMM.SYS使用	約60Kバイト以下
EMM386.SYS使用	約6Kバイト

付録

■本編の内容■

付録 A 入力モードとガイドライン

ガイドラインの左端に表示される、入力モード表示を項目別に説明します。

```
R全かな @
↑↑ ↑  ↑
①② ③  ④
```

①ローマ字入力の状態

タイプされたアルファベットを、ローマ字として変換するかどうかの表示です。「R」が表示されていれば、ローマ字入力を行うことができます。この項目は、[f･10]–[4.ローマ字切替]で切り替わります。

R　　……ローマ字として変換します。
(空白)……ローマ字入力は行いません。

②全角／半角の識別

タイプされた文字を、全角文字で表示するか、半角文字で表示するかの表示です。「半」が表示されているときは、ひらがなは表示できません。この項目は、[SHIFT]＋[f･9]で切り替わります。

全………読みがなを全角文字で表示します。
半………読みがなを半角文字で表示します。

③キーシフト状態

タイプされた読みがなを、ひらがな、カタカナ、英数字のどれで表示するかを表します。

かな……ひらがなで表示します。[SHIFT]＋[f･6]キーでこの状態になります。
カナ……カタカナで表示します。[SHIFT]＋[f･7]キーでこの状態になります。
英数……英数字で表示します。[SHIFT]＋[f･8]キーでこの状態になります。

④AIかな漢字変換

AIかな漢字変換を行うかどうかの状態を表示します。この項目は、システム構築ファイル（CONFIG.SYSファイル）で設定します。

@　　　……AIかな漢字変換を行います。
(空白)……AIかな漢字変換は行いません。

付録 B ローマ字入力の規則

●ローマ字入力の注意点

句読点や、はつ音（ん）、促音（っ）などの入力方法は、次のとおりです。

文　字	キー操作	タイプ例	表　示
はつ音（ん）	[N]　1文字(子音) または， [N]　に続いて， [SHIFT]＋[7'ヤャ] [N]　[N]	NIHONGO KAN'I HANNI	にほんご かんい はんい
〝を〟	[W]　[O]	WO	を
長音記号(ー)	[ー＝ホ]	PEーJI	ぺーじ
促音(っ)	子音を重ねる または，母音に続けて，[SHIFT]＋[7'ヤャ]	DOTTI A'	どっち あっ
かな小文字	[SHIFT]を押しながらA, I, U, E, O [L]　に続いて， A, I, U, E, O	[SHIFT]＋[A] [L]　[A]	ぁ ぁ
句点(。)	[.>。ル]	——	。
読点(、)	[,<、ネ]	——	、

表示例は、キーシフト状態が「かな」の場合のものです。

付録B

●ローマ字入力規則表

あ	い	う	え	お
A	I (YI)	U (WU)	E	O
か	き	く	け	こ
KA	KI	KU	KE	KO
さ	し	す	せ	そ
SA	SI (SHI)	SU	SE	SO
た	ち	つ	て	と
TA	TI (CHI)	TU (TSU)	TE	TO
な	に	ぬ	ね	の
NA	NI	NU	NE	NO
は	ひ	ふ	へ	ほ
HA	HI	HU (FU)	HE	HO
ま	み	む	め	も
MA	MI	MU	ME	MO
や	い	ゆ	いぇ	よ
YA	YI	YU	YE	YO
ら	り	る	れ	ろ
RA	RI	RU	RE	RO
わ	うぃ	う	うぇ	を
WA	WI	WU	WE	WO
が	ぎ	ぐ	げ	ご
GA	GI	GU	GE	GO
ざ	じ	ず	ぜ	ぞ
ZA	ZI (JI)	ZU	ZE	ZO
だ	ぢ	づ	で	ど
DA	DI	DU	DE	DO
ば	び	ぶ	べ	ぼ
BA	BI	BU	BE	BO
ぱ	ぴ	ぷ	ぺ	ぽ
PA	PI	PU	PE	PO
きゃ	きぃ	きゅ	きぇ	きょ
KYA	KYI	KYU	KYE	KYO
しゃ	しぃ	しゅ	しぇ	しょ
SYA (SHA)	SYI	SYU (SHU)	SYE (SHE)	SYO (SHO)
ちゃ	ちぃ	ちゅ	ちぇ	ちょ
TYA (CHA) (CYA)	TYI (CYI)	TYU (CHU) (CYU)	TYE (CHE) (CYE)	TYO (CHO) (CYO)
にゃ	にぃ	にゅ	にぇ	にょ
NYA	NYI	NYU	NYE	NYO
ひゃ	ひぃ	ひゅ	ひぇ	ひょ
HYA	HYI	HYU	HYE	HYO
ふゃ	ふぃ	ふゅ	ふぇ	ふょ
FYA	FYI	FYU	FYE	FYO

みゃ	みぃ	みゅ	みぇ	みょ
MYA	MYI	MYU	MYE	MYO
りゃ	りぃ	りゅ	りぇ	りょ
RYA	RYI	RYU	RYE	RYO
ぎゃ	ぎぃ	ぎゅ	ぎぇ	ぎょ
GYA	GYI	GYU	GYE	GYO
じゃ	じぃ	じゅ	じぇ	じょ
ZYA (JA) (JYA)	ZYI (JYI)	ZYU (JU) (JYU)	ZYE (JE) (JYE)	ZYO (JO) (JYO)
ぢゃ	ぢぃ	ぢゅ	ぢぇ	ぢょ
DYA	DYI	DYU	DYE	DYO
でゃ	でぃ	でゅ	でぇ	でょ
DHA	DHI	DHU	DHE	DHO
びゃ	びぃ	びゅ	びぇ	びょ
BYA	BYI	BYU	BYE	BYO
ぴゃ	ぴぃ	ぴゅ	ぴぇ	ぴょ
PYA	PYI	PYU	PYE	PYO
てゃ	てぃ	てゅ	てぇ	てょ
THA	THI	THU	THE	THO
くぁ	くぃ	くぅ	くぇ	くぉ
KWA (QA)	KWI (QI)	KWU (QU)	KWE (QE)	KWO (QO)
つぁ	つぃ		つぇ	つぉ
TSA	TSI		TSE	TSO
とぁ	とぃ	とぅ	とぇ	とぉ
TWA	TWI	TWU	TWE	TWO
ふぁ	ふぃ	ふ	ふぇ	ふぉ
FA	FI	FU	FE	FO
ぐぁ	ぐぃ	ぐぅ	ぐぇ	ぐぉ
GWA	GWI	GWU	GWE	GWO
どぁ	どぃ	どぅ	どぇ	どぉ
DWA	DWI	DWU	DWE	DWO
ヴャ	ヴィ	ヴュ	ヴェ	ヴョ
VYA	VYI (VI)	VYU	VYE (VE)	VYO
ヴァ	ヴィ	ヴ	ヴェ	ヴォ
VA	VI	VU	VE	VO
ぁ	ぃ	ぅ	ぇ	ぉ
LA (SHIFT +A)	LI (SHIFT +I)	LU (SHIFT +U)	LE (SHIFT +E)	LO (SHIFT +O)
ゃ	ぃ	ゅ	ぇ	ょ
LYA Y (SHIFT +A)	LYI Y (SHIFT +I)	LYU Y (SHIFT +U)	LYE Y (SHIFT +E)	LYO Y (SHIFT +O)
っ	ん			
LTU T (SHIFT +U)	NN N' N(子音)			

注意：表中のヴァ、ヴィ、ヴ、ヴェ、ヴォ、ヴャ、ヴュ、ヴョは、カタカナ文字で表示されます。

付録

カナ入力の規則

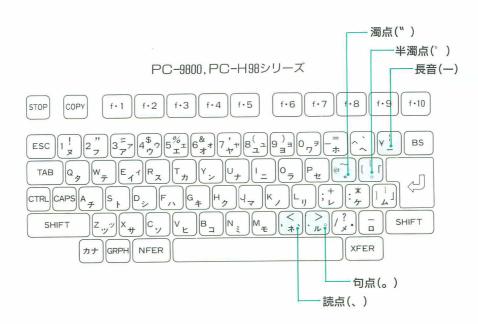
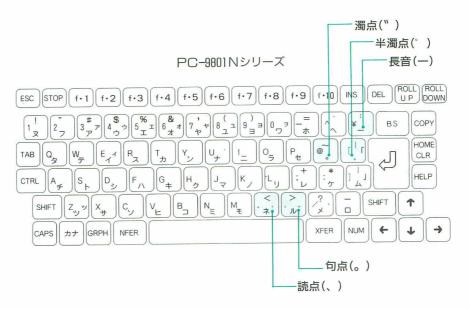
●カナ入力の注意点

カナ入力を行うときは、必ず[カナ]キーをロックしてください。
句読点や、濁点、半濁点などの入力方法は、次のとおりです。

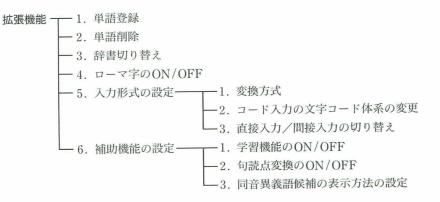
文　字	キー操作	タイプ例	表　示
長音記号(ー)	[¥¦]	カーソル	かーそる
かな小文字	[SHIFT] を押しながら，ア，イ，ウ，エ，オ	[SHIFT]＋[3#ァア]	ぁ
“を”	[SHIFT] を押しながら [0ワヲ]	[SHIFT]＋[0ワヲ]	を
句点（。）	[SHIFT]＋[.>ル。]	——	。
読点（、）	[SHIFT]＋[,<ネ、]	——	、
濁点	文字の後で[@`゛]（濁点キー）を押す	[カ]　[@`゛]	が
半濁点	文字の後で[[{゜「]（半濁点キー）を押す	[ハ]　[[{゜「]	ぱ

表示例は、キーシフト状態が「かな」の場合のものです。

PC-9800, PC-H98シリーズ
濁点(゛)
半濁点(゜)
長音(ー)
句点(。)
読点(、)

PC-9801Nシリーズ
濁点(゛)
半濁点(゜)
長音(ー)
句点(。)
読点(、)

付録 D 日本語入力キーの一覧表

機　能	標準方式	従来方式[注1]
日本語入力モードのON/OFF	CTRL + XFER	CTRL + XFER
漢字への変換	XFER またはスペース	XFER
文字の一括確定	⏎	スペース
同音語次候補の表示	XFER	XFER
同音語前候補の表示	SHIFT + XFER	SHIFT + XFER
文節右移動	↓ または NFER	⏎
文節左移動	↑	―――
文節延長	CTRL + →	CTRL + →
文節縮小	CTRL + ←	CTRL + ←
カーソル右移動	→	→
カーソル左移動	←	←
逆変換[注2]	ESC	ESC
見出しの消去[注2]	ESC	ESC
カーソル直前の文字の消去	BS	DEL
カーソル位置の文字の消去	DEL	―――
ローマ字入力のON/OFF	f･10[注3]	―――
キーシフトをひらがなに設定	SHIFT + f･6	f･3 ひらがな/カタカナの切り替え
キーシフトをカタカナに設定	SHIFT + f･7	f･3 ひらがな/カタカナの切り替え
キーシフトを英数字に設定	SHIFT + f･8	f･2 英数/かな(カナ)の切り替え
全角/半角の切り替え	SHIFT + f･9	f･6
直接/間接入力の切り替え	f･10[注3]	f･1 または f･10[注3]
コード入力モードの設定	f･10[注3]	f･10[注3]
部首選択モードの設定	―――	CTRL + f･1
ひらがな変換	f･6	SHIFT + f･1
カタカナ変換	f･7	SHIFT + f･3
英数変換	f･8	SHIFT + f･2
半角変換	f･9	SHIFT + f･4
単語登録	f･10[注3]	f･8 または f･10[注3]
登録単語の削除	f･10[注3]	f･9 または f･10[注3]
拡張機能	f･10	f･10

(注1) 従来方式とはMS-DOS ver3.3B までの方式で、CUSTOMコマンドで「操作方式」を「従来方式」と選択した場合に有効です。
(注2) ESCキーは、読みがなのタイプ中のみ見出し(読みがな)を消去します。
(注3) f･10キー(拡張機能)で選択できる項目には次のものがあります。

付録 E 部首の読み一覧表

部首選択によって、読み方の分からない第２水準の漢字や、記号を入力することができます。

部首選択で使用する、部首の「読み」を次の表に示します。

表には、第２水準の漢字の部首の読みをまとめた「部首→漢字」表と、記号類の入力のための「特殊記号」表の２種類があります。

なお、部首選択による入力方法の説明は、「2.5　読みが分からない漢字の入力方法」「2.6　漢字以外の文字や記号の入力方法」で説明されています。

●表の使い方

「部首→漢字」表

この表は、部首の画数ごとに、部首と「読み」を示しています。

たとえば「訃」「訖」などの「ごんべん」の部首の読みを見つけるには、次のようにします。

①表から「言（ごんべん：７画）」を見つけます。
②右欄の読みより、「言」の読みは、「ごん」であることが分かります。

「特殊記号」表

この表は、「読み」と記号に分かれています。たとえば、「Σ」の読みを見つけるには、次のようにします。

①表の記号の欄で「Σ」を見つけます。
②左欄より、読みは「．が」であることが分かります。

●部首→漢字

画	部首	読み
一画	一	いち
	丿	の
二画	亠	なべ ふた
	人	にん ひと
	儿	ひとあし る
	刂*	りっとう
	刀*	かたな
	八	はち
	匚,口,冂	かまえ
	冖	わ
	冫	ん に
	几	つくえ
	凵	うけばこ
	力	か ちから
	勹	つつみ く
	十	じゅう
	卩	ふし せつ
	厂	がん
	又	また ぬ
三画	口	くち ろ
	氵*	さん し
	犭*	けもの
	忄*	りっしん
	扌(手)	て
	土	つち ど

画	部首	読み
三画	士	さむらい
	夕	ゆう
	大	だい
	女	おんな
	子	こ
	宀	う
	寸	すん
	小(⺌)	しょう つ
	尸	しゃく
	山	やま
	己	おのれ
	巾	はば
	广	ま
	廴	えん
	弋	しき
	弓	ゆみ
	彳	ぎょう
	(左)阝(阜)	こざと
	(右)阝(邑)	おおざと
	辶(辶)	しん
	艹	くさ
四画	心*	こころ
	火*	ひ
	灬*	れっか
	攵	のぶん

画	部首	読み
四画	方	ほう
	日	にち
	月*	つき
	木	き
	欠	けつ あくび
	歹	いちた
	殳	るまた
	毛	け
	气	きがまえ
	水*	みず すい
	爪	つめ
	片	かた
	牛(牜)	うし
	犬*	いぬ
	礻*	ね
	王(玉)	おう たま
	戈	ほこ
五画	瓜	うり
	示*	しめす
	衤*	ころも
	田*	た
	疒	やまい
	癶	はつ
	白	しろ
	皮	かわ

付録E

画	部首	読み
五画	皿	さら
	目	め
	矢	や
	石	いし
	禾	のぎ
	穴	あな
	立	たつ / りつ
	四	よん
	瓦	かわら
六画	糸	いと
	缶	かん
	竹	たけ
	羊	ひつじ
	羽	はね
	老	おい / ろう
	耒	すき
	耳	みみ
	聿	ふで
	肉*	にく
	米	こめ
	臼	うす
	舌	した
	舟	ふね
	虍	とら
	虫	むし
	血	ち
	衣*	きぬ
	襾(西)	にし
七画	臣	おみ
	見	みる / けん
	言	ごん
	谷	たに
	豆	まめ
	豕	いのこ
	貝	かい
	赤	あか
	走	はしる / そう
	足(⻊)	あし
	身	み
	車	くるま
	辛	からい
	酉	さけ / ひよみ
	釆	のごめ
	豸	むじな
	角	つの
八画	金	かね
	門	もん
	隹	ふるとり
	雨	あめ
	非	あらず
九画	革	かく
	韋	なめし
	音	おと
	頁	おおがい / ぺーじ
	風	かぜ
	食	しょく
	首	くび
	香	かおり / こう
	面	めん
十画	馬	うま
	骨	ほね
	髟	かみ
	鬥	とう
	鬼	おに
	高	たかい
十一画	鳥	とり
	魚	うお
	鹿	しか
	麥(麦)	ばく / むぎ
十二画	黑	くろ
十四画	鼻	はな
十五画	齒	は
十六画	龜	かめ

注意：＊のついたものは，同一部首で表現が２つあるものを示します。
（忄ー心，礻ー示，衤ー衣，刀ーリ，犭ー犬，氵ー水，火ー灬，月ー肉）

●特殊記号

読　み	記　　　号
．か	‘ ’ ― “ ” （ ） 〔 〕 ［ ］ ｛ ｝ 〈 〉 《 》 「 」 『 』 【 】 〝 〟
．が	＋ － ± × ÷ ＝ ≠ ＜ ＞ ≦ ≧ ∞ ∴ ♂ ♀ ≒ ≡ ∫ ∮ Σ √ ⊥ ∠ ∟ ⊿ ∵ ∩ ∪
．き	＃ ＆ ＊ ＠ § ※ 〒 〃 仝 々 、 。 ， ． ・ ： ； ？ ！ ゛ ゜ … ‥ 〇 ― ― ‐ ／ ＼ ～ → ← ↑ ↓ ＝ ヽ ヾ ゝ ゞ ☆ ★ ○ ● ◎ ◇ ◆ □ ■ △ ▲ ▽ ▼ 〆 ´ ｀ ¨ ＾ ￣ ＿ ‖ ｜
．ぎ	Α Β Γ Δ Ε Ζ Η Θ Ι Κ Λ Μ Ν Ξ Ο Π Ρ Σ Τ Υ Φ Χ Ψ Ω α β γ δ ε ζ η θ ι κ λ μ ν ξ ο π ρ σ τ υ φ χ ψ ω
．け	─ ━ │ ┃ ┄ ┅ ┆ ┇ ┈ ┉ ┊ ┋ ┌ ┍ ┎ ┏ ┐ ┑ ┒ ┓ └ ┕ ┖ ┗ ┘ ┙ ┚ ┛ ├ ┝ ┞ ┟ ┠ ┡ ┢ ┣ ┤ ┥ ┦ ┧ ┨ ┩ ┪ ┫ ┬ ┭ ┮ ┯ ┰ ┱ ┲ ┳ ┴ ┵ ┶ ┷ ┸ ┹ ┺ ┻ ┼ ┽ ┾ ┿ ╀ ╁ ╂ ╃ ╄ ╅ ╆ ╇ ╈ ╉ ╊ ╋
．た	° ′ ″ ℃ ￥ ＄ ¢ £ ％ ㍉ ㌔ ㌢ ㍍ ㌘ ㌧ ㌃ ㌶ ㍑ ㍗ ㌍ ㌦ ㌣ ㌫ ㍊ ㌻ ㎜ ㎝ ㎎ ㎏ ㏄ ㎡
．と	№ ㏍ ℡ ㊤ ㊥ ㊦ ㊧ ㊨ ㈱ ㈲ ㈹ ㍾ ㍽ ㍼ ㍻
．は	─ ━ │ ┃ ┄ ┅ ┆ ┇ ┈ ┉ ┊ ┋ ┌ ┍ ┎ ┏ ┐ ┑ ┒ ┓ └ ┕ ┖ ┗ ┘ ┙ ┚ ┛ ├ ┝ ┞ ┟ ┠ ┡ ┢ ┣ ┤ ┥ ┦ ┧ ┨ ┩ ┪ ┫ ┬ ┭ ┮ ┯ ┰ ┱ ┲ ┳ ┴ ┵ ┶ ┷ ┸ ┹ ┺ ┻ ┼ ┽ ┾ ┿ ╀ ╁ ╂ ╃ ╄ ╅ ╆ ╇ ╈ ╉ ╊ ╋
．ま	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳
．ろ	Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ Ⅴ Ⅵ Ⅶ Ⅷ Ⅸ Ⅹ
．ろしあ	А Б В Г Д Е Ё Ж З И Й К Л М Н О П Р С Т У Ф Х Ц Ч Ш Щ Ъ Ы Ь Э Ю Я а б в г д е ё ж з и й к л м н о п р с т у ф х ц ч ш щ ъ ы ь э ю я
．きごう	〒 ※ § ○ ◎ ☆ ゝ ゞ 々 ヽ ヾ ＋ － × ÷ 〆 〇 ‥ ゛ ゜ ´ ｀ ¨ ＾ ￣ ＿ 〃 仝 ― ― ‐ ／ ＼ ～ ‖ ｜ … ‘ ’ “ ” 〔 〕 ｛ ｝ 〈 〉 《 》 「 」 『 』 【 】 ± ＝ ≠ ＜ ＞ ≦ ≧ ∞ ∴ ♂ ♀ ° ′ ″ ℃ ¢ £ ％ ＃ ＆ ＊ ★ ● ◇ ◆ □ ■ △ ▲ ▽ ▼ → ← ↑ ↓ 〝 〟

注意・「.」印はピリオドです．テンキーにあるピリオドや「。」（句点）も使用できます．
・「平成」は，機種により表示されるものと表示されないものがあります．

付録E

付録 F 漢字コード表

●表の見方

表中にある文字は、漢字コードによって参照することができます。

表の左側の欄にはJISコード、区点コードを表す4桁の16進数（0…9、A、B、C、D、E、Fが、最上行（または最下行）には1桁の16進数がそれぞれ並んでいます。

たとえば「伊」のJISコードを表中から求めるには、次のようにします。

①表中の「い」のグループに含まれている「伊」の文字を見つけます。
②「伊」のある行を左にたどり、JISコードの欄からまず4桁の16進数〝3040〟を得ます。
③「伊」のある欄を上（または下）にたどり、最上行（または最下行）から1桁の16進数〝B〟を得ます。
④②で求めた値と③で求めた値を加えます。

3040＋B＝304B

〝304B〟が「伊」のJISコードとなります。

なお、本機で使用するJIS16進コード変換では、常にJISコードをタイプしてください。

- 漢字コード表において、拡張文字（JISコード7920～7C7F）は画面にだけ表示できます。プリンタで印字することはできません。
- 漢字コード表の書体と、実際に画面に表示される書体とは異なります。
- 漢字コード表のJIS第一水準、JIS第二水準の文字の仕様は、JISの文字に関する標準規格、JIS C6226-1978に準拠しています。
- PC-9801シリーズのノーマルモード機（PC-9801DAなど）を使用する場合と、ハイレゾリューションモード機（PC-98RLなど）を使用する場合とでは、画面に表示される書体が一部異なります。

●漢字コード表（JIS第1水準）

	シフトJIS	JIS	区点	0 1 2 3	4 5 6 7	8 9 A B	C D E F
記号	813F	2120	0100	SP 、 。	， ． ・ ：	； ？ ！ ゛	゜ ´ ｀ ¨
	814F	2130	0116	＾ ￣ ＿ ヽ	ヾ ゝ ゞ 〃	仝 々 〆 〇	ー ― ‐ ／
	815F	2140	0132	＼ ～ ∥ ｜	… ‥ ‘ ’	“ ” （ ）	〔 〕 ［ ］
	816F	2150	0148	｛ ｝ 〈 〉	《 》 「 」	『 』 【 】	＋ － ± ×
	8180	2160	0164	÷ ＝ ≠ ＜	＞ ≦ ≧ ∞	∴ ♂ ♀ °	′ ″ ℃ ￥
	8190	2170	0180	＄ ¢ £ ％	＃ ＆ ＊ ＠	§ ☆ ★ ○	● ◎ ◇
	819E	2220	0200	◆ □ ■	△ ▲ ▽ ▼	※ 〒 → ←	↑ ↓ 〓
英・数字	824F	2330	0316	0 1 2 3	4 5 6 7	8 9	
	825F	2340	0332	A B C	D E F G	H I J K	L M N O
	826F	2350	0348	P Q R S	T U V W	X Y Z	
	8280	2360	0364	a b c	d e f g	h i j k	l m n o
	8290	2370	0380	p q r s	t u v w	x y z	
ひらがな	829E	2420	0400	ぁ あ ぃ	い ぅ う ぇ	え ぉ お か	が き ぎ く
	82AE	2430	0416	ぐ け げ こ	ご さ ざ し	じ す ず せ	ぜ そ ぞ た
	82BE	2440	0432	だ ち ぢ っ	つ づ て で	と ど な に	ぬ ね の は
	82CE	2450	0448	ば ぱ ひ び	ぴ ふ ぶ ぷ	へ べ ぺ ほ	ぼ ぽ ま み
	82DE	2460	0464	む め も ゃ	や ゅ ゆ ょ	よ ら り る	れ ろ ゎ わ
	82EE	2470	0480	ゐ ゑ を ん			
カタカナ	833F	2520	0500	ァ ア ィ	イ ゥ ウ ェ	エ ォ オ カ	ガ キ ギ ク
	834F	2530	0516	グ ケ ゲ コ	ゴ サ ザ シ	ジ ス ズ セ	ゼ ソ ゾ タ
	835F	2540	0532	ダ チ ヂ ッ	ツ ヅ テ デ	ト ド ナ ニ	ヌ ネ ノ ハ
	836F	2550	0548	バ パ ヒ ビ	ピ フ ブ プ	ヘ ベ ペ ホ	ボ ポ マ ミ
	8380	2560	0564	ム メ モ ャ	ヤ ュ ユ ョ	ヨ ラ リ ル	レ ロ ヮ ワ
	8390	2570	0580	ヰ ヱ ヲ ン	ヴ ヵ ヶ		
ギリシア文字	839E	2620	0600	Α Β Γ	Δ Ε Ζ Η	Θ Ι Κ Λ	Μ Ν Ξ Ο
	83AE	2630	0616	Π Ρ Σ Τ	Υ Φ Χ Ψ	Ω	
	83BE	2640	0132	α β γ	δ ε ζ η	θ ι κ λ	μ ν ξ ο
	83CE	2650	0648	π ρ σ τ	υ φ χ ψ	ω	
ロシア文字	843F	2720	0700	А Б В	Г Д Е Ё	Ж З И Й	К Л М Н
	844F	2730	0716	О П Р С	Т У Ф Х	Ц Ч Ш Щ	Ъ Ы Ь Э
	845F	2740	0732	Ю Я			
	846F	2750	0748	а б в	г д е ё	ж з и й	к л м н
	8480	2760	0764	о п р с	т у ф х	ц ч ш щ	ъ ы ь э
	8490	2770	0780	ю я			
ア	889E	3020	1600	亜 唖 娃	阿 哀 愛 挨	姶 逢 葵 茜	穐 悪 握 渥
	88AE	3030	1616	旭 葦 芦 鯵	梓 圧 斡 扱	宛 姐 虻 飴	絢 綾 鮎 或
	88BE	3040	1632	粟 袷 安 庵	按 暗 案 闇	鞍 杏	
	シフトJIS	JIS	区点	0 1 2 3	4 5 6 7	8 9 A B	C D E F

注意：2120は漢字コードとして定義されていません．
2121の SP は空白（スペース）コードを示します．

付録F

	シフトJIS	JIS	区点	0 1 2 3	4 5 6 7	8 9 A B	C D E F
イ	88BE	3040	1632			以伊	位依偉囲
	88CE	3050	1648	夷委威尉	惟意慰易	椅為畏異	移維緯胃
	88DE	3060	1664	萎衣謂違	遺医井亥	域育郁磯	一壱溢逸
	88EE	3070	1680	稲茨芋鰯	允印咽員	因姻引飲	淫胤蔭
	893F	3120	1700	院陰隠	韻吋		
ウ	893F	3120	1700		右宇	烏羽迂雨	卯鵜窺丑
	894F	3130	1716	碓臼渦嘘	唄鬱蔚鰻	姥厩浦瓜	閏噂云運
	895F	3140	1732	雲			
エ	895F	3140	1732	荏餌叡	営嬰影映	曳栄永泳	洩瑛盈穎
	896F	3150	1748	頴英衛詠	鋭液疫益	駅悦謁越	閲榎厭円
	8980	3160	1764	園堰奄宴	延怨掩援	沿演炎焔	煙燕猿縁
	8990	3170	1780	艶苑薗遠	鉛鴛塩		
オ	8990	3170	1780		於	汚甥凹央	奥往応
	899E	3220	1800	押旺横	欧殴王翁	襖鶯鷗黄	岡沖荻億
	89AE	3230	1816	屋憶臆桶	牡乙俺卸	恩温穏音	
カ	89AE	3230	1816				下化仮何
	89BE	3240	1832	伽価佳加	可嘉夏嫁	家寡科暇	果架歌河
	89CE	3250	1848	火珂禍禾	稼箇花苛	茄荷華菓	蝦課嘩貨
	89DE	3260	1864	迦過霞蚊	俄峨我牙	画臥芽蛾	賀雅餓駕
	89EE	3270	1880	介会解回	塊壊廻快	怪悔恢懐	戒拐改
	8A3F	3320	1900	魁晦械	海灰界皆	絵芥蟹開	階貝凱劾
	8A4F	3330	1916	外咳害崖	慨概涯碍	蓋街該鎧	骸浬馨蛙
	8A5F	3340	1932	垣柿蠣鈎	劃嚇各廓	拡攪格核	殻獲確穫
	8A6F	3350	1948	覚角赫較	郭閣隔革	学岳楽額	顎掛笠樫
	8A80	3360	1964	橿梶鰍潟	割喝恰括	活渇滑葛	褐轄且鰹
	8A90	3370	1980	叶椛樺鞄	株兜竈蒲	釜鎌嚙鴨	栢茅萱
	8A9E	3420	2000	粥刈苅	瓦乾侃冠	寒刊勘勧	巻喚堪姦
	8AAE	3430	2016	完官寛干	幹患感慣	憾換敢柑	桓棺款歓
	8ABE	3440	2032	汗漢澗灌	環甘監看	竿管簡緩	缶翰肝艦
	8ACE	3450	2048	莞観諫貫	還鑑間閑	関陥韓館	舘丸含岸
	8ADE	3460	2064	巌玩癌眼	岩翫贋雁	頑顔願	
キ	8ADE	3460	2064			企	伎危喜器
	8AEE	3470	2080	基奇嬉寄	岐希幾忌	揮机旗既	期棋棄
	8B3F	3520	2100	機帰毅	気汽畿祈	季稀紀徽	規記貴起
	8B4F	3530	2116	軌輝飢騎	鬼亀偽儀	妓宜戯技	擬欺犠疑
	8B5F	3540	2132	祇義蟻誼	議掬菊鞠	吉吃喫桔	橘詰砧杵
	8B6F	3550	2148	黍却客脚	虐逆丘久	仇休及吸	宮弓急救
	8B80	3560	2164	朽求汲泣	灸球究窮	笈級糾給	旧牛去居
	8B90	3570	2180	巨拒拠挙	渠虚許距	鋸漁禦魚	亨享京
	8B9E	3620	2200	供俠僑	兇競共凶	協匡卿叫	喬境峡強
	8BAE	3630	2216	彊怯恐恭	挟教橋況	狂狭矯胸	脅興蕎郷
	シフトJIS	JIS	区点	0 1 2 3	4 5 6 7	8 9 A B	C D E F

	シフトJIS	JIS	区点	0 1 2 3	4 5 6 7	8 9 A B	C D E F
キ	8BBE	3640	2232	鏡響饗驚	仰凝堯暁	業局曲極	玉桐粁僅
	8BCE	3650	2248	勤均巾錦	斤欣欽琴	禁禽筋緊	芹菌衿襟
	8BDE	3660	2264	謹近金吟	銀		
ク	8BDE	3660	2264		九倶句	区狗玖矩	苦軀駆駈
	8BEE	3670	2280	駒具愚虞	喰空偶寓	遇隅串櫛	釧屑屈
	8C3F	3720	2300	掘窟沓	靴轡窪熊	隈粂栗繰	桑鍬勲君
	8C4F	3730	2316	薫訓群軍	郡		
ケ	8CAF	3730	2316		卦袈祁	係傾刑兄	啓圭珪型
	8C5F	3740	2332	契形径恵	慶慧憩掲	携敬景桂	渓畦稽系
	8C6F	3750	2348	経継繋罫	茎荊蛍計	詣警軽頚	鶏芸迎鯨
	8C80	3760	2364	劇戟撃激	隙桁傑欠	決潔穴結	血訣月件
	8C90	3770	2380	倹倦健兼	券剣喧圏	堅嫌建憲	懸拳捲
	8C9E	3820	2400	検権牽	犬献研硯	絹県肩見	謙賢軒遣
	8CAE	3830	2416	鍵険顕験	鹸元原厳	幻弦減源	玄現絃舷
	8CBE	3840	2432	言諺限			
コ	8CBE	3840	2432	乎	個古呼固	姑孤己庫	弧戸故枯
	8CCE	3850	2448	湖狐糊袴	股胡菰虎	誇跨鈷雇	顧鼓五互
	8CDE	3860	2464	伍午呉吾	娯後御悟	梧檎瑚碁	語誤護醐
	8CEE	3870	2480	乞鯉交佼	侯候倖光	公功効勾	厚口向
	8D3F	3920	2500	后喉坑	垢好孔孝	宏工巧巷	幸広庚康
	8D4F	3930	2516	弘恒慌抗	拘控攻昂	晃更杭校	梗構江洪
	8D5F	3940	2532	浩港溝甲	皇硬稿糠	紅紘絞綱	耕考肯肱
	8D6F	3950	2548	腔膏航荒	行衡講貢	購郊酵鉱	礦鋼閤降
	8D80	3960	2564	項香高鴻	剛劫号合	壕拷濠豪	轟麹克刻
	8D90	3970	2580	告国穀酷	鵠黒獄漉	腰甑忽惚	骨狛込
	8D9E	3A20	2600	此頃今	困坤墾婚	恨懇昏昆	根梱混痕
	8DAE	3A30	2616	紺艮魂			
サ	8DAE	3A30	2616	些	佐叉唆嵯	左差査沙	瑳砂詐鎖
	8DBE	3A40	2648	裟坐座挫	債催再最	哉塞妻宰	彩才採栽
	8DCE	3A50	2648	歳済災采	犀砕砦祭	斎細菜裁	載際剤在
	8DDE	3A60	2664	材罪財冴	坂阪堺榊	肴咲崎埼	碕鷺作削
	8DEE	3A70	2680	咋搾昨朔	柵窄策索	錯桜鮭笹	匙冊刷
	8E3F	3B20	2700	察拶撮	擦札殺薩	雑皐鯖捌	錆鮫皿晒
	8E4F	3B30	2716	三傘参山	惨撒散桟	燦珊産算	纂蚕讃賛
	8E5F	3B40	2732	酸餐斬暫	残		
シ	8E5F	3B40	2732		仕仔伺	使刺司史	嗣四士始
	8E6F	3B50	2748	姉姿子屍	市師志思	指支孜斯	施旨枝止
	8E80	3B60	2764	死氏獅祉	私糸紙紫	肢脂至視	詞詩試誌
	8E90	3B70	2780	諮資賜雌	飼歯事似	侍児字寺	慈持時
	8E9E	3C20	2800	次滋治	爾璽痔磁	示而耳自	蒔辞汐鹿
	8EAE	3C30	2816	式識鴫竺	軸宍雫七	叱執失嫉	室悉湿漆
	シフトJIS	JIS	区点	0 1 2 3	4 5 6 7	8 9 A B	C D E F

付録F

	シフトJIS	JIS	区点	0123	4567	89AB	CDEF
シ	8EBE	3C40	2832	疾質実蔀	篠偲柴芝	屢蕊縞舎	写射捨赦
	8ECE	3C50	2848	斜煮社紗	者謝車遮	蛇邪借勺	尺杓灼爵
	8EDE	3C60	2864	酌釈錫若	寂弱惹主	取守手朱	殊狩珠種
	8EEE	3C70	2880	腫趣酒首	儒受呪寿	授樹綬需	囚収周
	8F3F	3D20	2900	宗就州	修愁拾洲	秀秋終繍	習臭舟蒐
	8F4F	3D30	2916	衆襲讐蹴	輯週酋酬	集醜什住	充十従戎
	8F5F	3D40	2932	柔汁渋獣	縦重銃叔	夙宿淑祝	縮粛塾熟
	8F6F	3D50	2948	出術述俊	峻春瞬竣	舜駿准循	旬楯殉淳
	8F80	3D60	2964	準潤盾純	巡遵醇順	処初所暑	曙渚庶緒
	8F90	3D70	2980	署書薯藷	諸助叙女	序徐恕鋤	除傷償
	8F9E	3E20	3000	勝匠升	召哨商唱	嘗奨妾娼	宵将小少
	8FAE	3E30	3016	尚庄床廠	彰承抄招	掌捷昇昌	昭晶松梢
	8FBE	3E40	3032	樟樵沼消	渉湘焼焦	照症省硝	礁祥称章
	8FCE	3E50	3048	笑粧紹肖	菖蒋蕉衝	裳訟証詔	詳象賞醤
	8FDE	3E60	3064	鉦鍾鐘障	鞘上丈丞	乗冗剰城	場壌嬢常
	8FEE	3E70	3080	情擾条杖	浄状畳穣	蒸譲醸錠	嘱埴飾
	903F	3F20	3100	拭植殖	燭織職色	触食蝕辱	尻伸信侵
	904F	3F30	3116	唇娠寝審	心慎振新	晋森榛浸	深申疹真
	905F	3F40	3132	神秦紳臣	芯薪親診	身辛進針	震人仁刃
	906F	3F50	3148	塵壬尋甚	尽腎訊迅	陣靭	
ス	906F	3F50	3148			笥諏	須酢図厨
	9080	3F60	3164	逗吹垂帥	推水炊睡	粋翠衰遂	酔錐錘随
	9090	3F70	3180	瑞髄崇嵩	数枢趨雛	据杉椙菅	頗雀裾
	909E	4020	3200	澄摺寸			
セ	909E	4020	3200		世瀬畝是	凄制勢姓	征性成政
	90AE	4030	3216	整星晴棲	栖正清牲	生盛精聖	声製西誠
	90BE	4040	3232	誓請逝醒	青静斉税	脆隻席惜	戚斥昔析
	90CE	4050	3248	石積籍績	脊責赤跡	蹟碩切拙	接摂折設
	90DE	4060	3264	窃節説雪	絶舌蝉仙	先千占宣	専尖川戦
	90EE	4070	3280	扇撰栓栴	泉浅洗染	潜煎煽旋	穿箭線
	913F	4120	3300	繊羨腺	舛船薦詮	賎践選遷	銭銑閃鮮
	914F	4130	3316	前善漸然	全禅繕膳	糎	
ソ	914F	4130	3316			噌塑岨	措曾曽楚
	915F	4140	3332	狙疏疎礎	祖租粗素	組蘇訴阻	遡鼠僧創
	916F	4150	3348	双叢倉喪	壮奏爽宋	層匝惣想	捜掃挿掻
	9180	4160	3364	操早曹巣	槍槽漕燥	争痩相窓	糟総綜聡
	9190	4170	3380	草荘葬蒼	藻装走送	遭鎗霜騒	像増憎
	919E	4220	3400	臓蔵贈	造促側則	即息捉束	測足速俗
	91AE	4230	3416	属賊族続	卒袖其揃	存孫尊損	村遜
タ	91AE	4230	3416				他多
	91BE	4240	3432	太汰詑唾	堕妥惰打	柁舵楕陀	駄騨体堆
	シフトJIS	JIS	区点	0123	4567	89AB	CDEF

	シフトJIS	JIS	区点	0 1 2 3	4 5 6 7	8 9 A B	C D E F
タ	91CE	4250	3448	対耐岱帯	待怠態戴	替泰滞胎	腿苔袋貸
	91DE	4260	3464	退逮隊黛	鯛代台大	第醍題鷹	滝瀧卓啄
	91EE	4270	3480	宅托択拓	沢濯琢託	鐸濁諾茸	凧蛸只
	923F	4320	3500	叩但達	辰奪脱巽	竪辿棚谷	狸鱈樽誰
	924F	4330	3516	丹単嘆坦	担探旦歎	淡湛炭短	端簞綻耽
	925F	4340	3532	胆蛋誕鍛	団壇弾断	暖檀段男	談
チ	925F	4340	3532				値知地
	926F	4350	3548	弛恥智池	痴稚置致	蜘遅馳築	畜竹筑蓄
	9280	4360	3564	逐秩窒茶	嫡着中仲	宙忠抽昼	柱注虫衷
	9290	4370	3580	註酎鋳駐	樗瀦猪苧	著貯丁兆	凋喋寵
	929E	4420	3600	帖帳庁	弔張彫徴	懲挑暢朝	潮牒町眺
	92AE	4430	3616	聴脹腸蝶	調諜超跳	銚長頂鳥	勅捗直朕
	92BE	4440	3632	沈珍賃鎮	陳		
ツ	92BE	4440	3632		津墜椎	槌追鎚痛	通塚栂摑
	92CE	4450	3648	槻佃漬柘	辻蔦綴鍔	椿潰坪壺	嬬紬爪吊
	92DE	4460	3664	釣鶴			
テ	92DE	4460	3664	亭低	停偵剃貞	呈堤定帝	底庭廷弟
	92EE	4470	3680	悌抵挺提	梯汀碇禎	程締艇訂	諦蹄逓
	933F	4520	3700	邸鄭釘	鼎泥摘擢	敵滴的笛	適鏑溺哲
	934F	4530	3716	徹撤轍迭	鉄典塡天	展店添纏	甜貼転顛
	935F	4540	3732	点伝殿澱	田電		
ト	935F	4540	3732		兎吐	堵塗妬屠	徒斗杜渡
	936F	4550	3748	登菟賭途	都鍍砥礪	努度土奴	怒倒党冬
	9380	4560	3764	凍刀唐塔	塘套宕島	嶋悼投搭	東桃檮棟
	9390	4570	3780	盗淘湯濤	灯燈当痘	禱等答筒	糖統到
	939E	4620	3800	董蕩藤	討謄豆踏	逃透鐙陶	頭騰闘働
	93AE	4630	3816	動同堂導	憧撞洞瞳	童胴萄道	銅峠鴇匿
	93BE	4640	3832	得徳瀆特	督禿篤毒	独読栃橡	凸突椴届
	93CE	4650	3848	鳶苫寅酉	瀞噸屯惇	敦沌豚遁	頓呑曇鈍
ナ	93DE	4660	3864	奈那内乍	凪薙謎灘	捺鍋楢馴	縄畷南楠
	93EE	4670	3880	軟難汝			
ニ	93EE	4670	3880	二	尼弐邇匂	賑肉虹廿	日乳入
	943F	4720	3900	如尿韮	任妊忍認		
ヌ	943F	4720	3900			濡	
ネ	943F	4720	3900			禰祢寧	葱猫熱年
	944F	4730	3916	念捻撚燃	粘		
ノ	944F	4730	3916		乃廼之	埜嚢悩濃	納能脳膿
	945F	4740	3932	農覗蚤			
ハ	945F	4740	3932	巴	把播覇杷	波派琶破	婆罵芭馬
	946F	4750	3948	俳廃拝排	敗杯盃牌	背肺輩配	倍培媒梅
	9480	4760	3964	楳煤狽買	売賠陪這	蠅秤矧萩	伯剝博拍
	シフトJIS	JIS	区点	0 1 2 3	4 5 6 7	8 9 A B	C D E F

付録F

	シフトJIS	JIS	区点	0 1 2 3	4 5 6 7	8 9 A B	C D E F
ハ	9490	4770	3980	柏泊白箔	粕舶薄迫	曝漠爆縛	莫駁麦
	949E	4820	4000	函箱硲	箸肇筈櫨	幡肌畑畠	八鉢溌発
	94AE	4830	4016	醗髪伐罰	抜筏閥鳩	噺塙蛤隼	伴判半反
	94BE	4840	4032	叛帆搬斑	板氾汎版	犯班畔繁	般藩販範
	94CE	4850	4048	釆煩頒飯	挽晩番盤	磐蕃蛮	
ヒ	94CE	4850	4048			匪	卑否妃庇
	94DE	4860	4064	彼悲扉批	披斐比泌	疲皮碑秘	緋罷肥被
	94EE	4870	4080	誹費避非	飛樋簸備	尾微枇毘	琵眉美
	953F	4920	4100	鼻柊稗	匹疋髭彦	膝菱肘弼	必畢筆逼
	954F	4930	4116	檜姫媛紐	百謬俵彪	標氷漂瓢	票表評豹
	955F	4940	4132	廟描病秒	苗錨鋲蒜	蛭鰭品彬	斌浜瀕貧
	956F	4950	4148	賓頻敏瓶			
フ	956F	4950	4148		不付埠夫	婦富冨布	府怖扶敷
	9580	4960	4164	斧普浮父	符腐膚芙	譜負賦赴	阜附侮撫
	9590	4970	4180	武舞葡蕪	部封楓風	葺蕗伏副	復幅服
	959E	4A20	4200	福腹複	覆淵弗払	沸仏物鮒	分吻噴墳
	95AE	4A30	4216	憤扮焚奮	粉糞紛雰	文聞	
ヘ	95AE	4A30	4216			丙併	兵塀幣平
	95BE	4A40	4232	弊柄並蔽	閉陛米頁	僻壁癖碧	別瞥蔑箆
	95CE	4A50	4248	偏変片篇	編辺返遍	便勉娩弁	鞭
ホ	95CE	4A50	4248				保舗鋪
	95DE	4A60	4264	圃捕歩甫	補輔穂募	墓慕戊暮	母簿菩倣
	95EE	4A70	4280	俸包呆報	奉宝峰峯	崩庖抱捧	放方朋
	963F	4B20	4300	法泡烹	砲縫胞芳	萌蓬蜂褒	訪豊邦鋒
	964F	4B30	4316	飽鳳鵬乏	亡傍剖坊	妨帽忘忙	房暴望某
	965F	4B40	4332	棒冒紡肪	膨謀貌貿	鉾防吠頬	北僕卜墨
	966F	4B50	4348	撲朴牧睦	穆釦勃没	殆堀幌奔	本翻凡盆
マ	9680	4B60	4364	摩磨魔麻	埋妹昧枚	毎哩槙幕	膜枕鮪柾
	9690	4B70	4380	鱒桝亦俣	又抹末沫	迄侭繭麿	万慢満
	969E	4C20	4400	漫蔓			
ミ	969E	4C20	4400	味	未魅巳箕	岬密蜜湊	蓑稔脈妙
	96AE	4C30	4416	粍民眠			
ム	96AE	4C30	4416	務	夢無牟矛	霧鵡椋婿	娘
メ	96AE	4C30	4416				冥名命
	96BE	4C40	4432	明盟迷銘	鳴姪牝滅	免棉綿緬	面麺
モ	96BE	4C40	4432				摸模
	96CE	4C50	4448	茂妄孟毛	猛盲網耗	蒙儲木黙	目杢勿餅
	96DE	4C60	4464	尤戻籾貰	問悶紋門	匁	
ヤ	96DE	4C60	4464			也冶夜	爺耶野弥
	96EE	4C70	4480	矢厄役約	薬訳躍靖	柳薮鑓	
ユ	96EE	4C70	4480			愉	愈油癒
	シフトJIS	JIS	区点	0 1 2 3	4 5 6 8	8 9 A B	C D E F

	シフトJIS	JIS	区点	0 1 2 3	4 5 6 7	8 9 A B	C D E F
ユ	973F	4D20	4500	諭輪唯	佑優勇友	宥幽悠憂	揖有柚湧
	974F	4D30	4516	涌猶猷由	祐裕誘遊	邑郵雄融	夕
ヨ	974F	4D30	4516				予余与
	975F	4D40	4532	誉輿預傭	幼妖容庸	揚揺擁曜	楊様洋溶
	976F	4D50	4548	熔用窯羊	耀葉蓉要	謡踊遙陽	養慾抑欲
	9780	4D60	4564	沃浴翌翼	淀		
ラ	9780	4D60	4564		羅螺裸	来莱頼雷	洛絡落酪
	9790	4D70	4580	乱卵嵐欄	濫藍蘭覧		
リ	9790	4D70	4580			利吏履李	梨理璃
	979E	4E20	4600	痢裏裡	里離陸律	率立葎掠	略劉流溜
	97AE	4E30	4616	琉留硫粒	隆竜龍侶	慮旅虜了	亮僚両凌
	97BE	4E40	4632	寮料梁涼	猟療瞭稜	糧良諒遼	量陵領力
	97CE	4E50	4648	緑倫厘林	淋燐琳臨	輪隣鱗麟	
ル	97CE	4E50	4648				瑠塁涙累
	97DE	4E60	4664	類			
レ	97DE	4E60	4664	令伶例	冷励嶺怜	玲礼苓鈴	隷零霊麗
	97EE	4E70	4680	齢暦歴列	劣烈裂廉	恋憐漣煉	簾練聯
	983F	4F20	4700	蓮連錬			
ロ	983F	4F20	4700		呂魯櫓炉	賂路露労	婁廊弄朗
	984F	4F30	4716	楼榔浪漏	牢狼篭老	聾蝋郎六	麓禄肋録
	985F	4F40	4732	論			
ワ	985F	4F40	4732	倭和話	歪賄脇惑	枠鷲亙亘	鰐詫藁蕨
	986F	4F50	4748	椀湾碗腕			
	シフトJIS	JIS	区点	0 1 2 3	4 5 6 7	8 9 A B	C D E F

付録F

●漢字コード表（JIS第2水準）

	シフトJIS	JIS	区点	0 1 2 3	4 5 6 7	8 9 A B	C D E F
一	989E	5020	4800	弌丐丕			
丨	989E	5020	4800		个丱		
丶	989E	5020	4800		丶丼		
丿	989E	5020	4800			丿乂乖乘	
乙	989E	5020	4800				亂
亅	989E	5020	4800				亅豫亊
	98AE	5030	4816	舒			
二	98AE	5030	4816	弍于亞	亟		
亠	98AE	5030	4816		亠亢京	亳亶	
人	98AE	5030	4816			从仍	仄仆仂仗
	98BE	5040	4832	仞仭仟价	伉佚估佛	佝佗佇佶	侈侏侘佻
	98CE	5050	4848	佩佰侑佯	來侖侭俔	俟俎俘俛	俑俚俐俤
	98DE	5060	4864	俥倚倨倔	倪倥倅伜	俶倡倩倬	俾俯們倆
	98EE	5070	4880	偃假會偕	偐偈做偖	偬偸傀傚	傅傴傲
	993F	5120	4900	僉僊傳	僂僖僞僥	僭僣僮價	僵儉儁儂
	994F	5130	4916	儖儕儔儚	儡儺儷儼	儻	
儿	994F	5130	4916			儿兀兒	兌兔兢竸
入	995F	5140	4932	兩兪			
八	995F	5140	4932	兮冀			
冂	995F	5140	4932		冂囘册冉	冏冑冓冕	
冖	995F	5140	4932				冖冤冠冢
	996F	5150	4948	冩冪			
冫	996F	5150	4948	冫决	冱冲冰况	冽凅凉凛	
几	996F	5150	4948				几處凩凭
	9980	5160	4964	凰			
凵	9980	5160	4964	凵凾			
刀	9980	5160	4964	刄	刋刔刎刧	刪刮刳刹	剏剄剋剌
	9980	5170	4980	剞剔剪剴	剩剳剿剽	劍劔劒剱	劈劑辨
	999E	5220	5000	辧			
力	999E	5220	5000	劬劭	劼劵勁勍	勗勞勣勦	飭勠勳勵
	99AE	5230	5016	勸			
勹	99AE	5230	5016	勹匆匈	甸匍匐匏		
匕	99AE	5230	5016			匕	
匚	99AE	5230	5016			匚匣匯	匱匳
匸	99AE	5230	5016				匸區
十	99BE	5240	5032	卆卅丗卉	卍凖		
卜	99BE	5240	5032		卞		
卩	99BE	5240	5032		卩	卮夘卻卷	
厂	99BE	5240	5032				厂厖厠厦
	シフトJIS	JIS	区点	0 1 2 3	4 5 6 7	8 9 A B	C D E F

	シフトJIS	JIS	区点	0 1 2 3	4 5 6 7	8 9 A B	C D E F
厂	99CE	5250	5048	厥厮厰			
ム	99CE	5250	5048	ム	參簒		
又	99CE	5250	5048		雙叟	曼燮	
口	99CE	5250	5048			叮叨	叭叺吁吽
	99DE	5260	5064	呀听吭吼	吮吶吩吝	呎咏呵咎	呟呱呷呰
	99EE	5270	5080	咒呻咀呶	咄咐咆哇	咢咸咥咬	哄哈咨
	9A3F	5320	5100	咫哂咤	咾咼哘哥	哦唏唔哽	哮哭哺哢
	9A4F	5330	5116	唹啀啣啌	售啜啅啖	啗唸唳啝	喙喀咯喊
	9A5F	5340	5132	喟啻啾喘	喞單啼喃	喩喇喨嗚	嗅嗟嗄嗜
	9A6F	5350	5148	嗤嗔嘔嗷	嘖嗾嗽嘛	嗹噎噐營	嘴嘶嘲嘸
	9A80	5360	5164	噫噤嘯噬	噪嚆嚀嚊	嚠嚔嚏嚥	嚮嚶嚴囂
	9A90	5370	5180	嚼囁囃囀	囈囎囑囓		
囗	9A90	5370	5180			囗囮囹圀	囿圄圉
	9A9E	5420	5200	圈國圍	圓團圖嗇	圜	
土	9A9E	5420	5200			圦圷圸	坎圻址坏
	9AAE	5430	5216	坩埀垈坡	坿垉垓垠	垳垤垪垰	埃埆埔埒
	9ABE	5440	5232	埓堊埖埣	堋堙堝塲	堡塢塋塰	毀塒堽塹
	9ACE	5450	5248	墅墹墟墫	墺壞墻墸	墮壅壓壑	壗壙壘壥
	9ADE	5460	5264	壜壤壟			
士	9ADE	5460	5264	壯	壺壹壻壼	壽	
夂	9ADE	5460	5264			夂	
夊	9ADE	5460	5264			夊夐	
夕	9ADE	5460	5264				夛梦夥
大	9ADE	5460	5264				夬
	9AEE	5470	5280	夭夲夸夾	竒奕奐奎	奚奘奢奠	奧奬奩
女	9B3F	5520	5300	奸妁妝	佞侫妣妲	姆姨姜妍	姙姚娥娟
	9B4F	5530	5316	娑娜娉娚	婀婬婉娵	娶婢婪媚	媼媾嫋嫂
	9B5F	5540	5332	媽嫣嫗嫦	嫩嫖嫺嫻	嬌嬋嬖嬲	嫐嬪嬶嬾
	9B6F	5550	5348	孃孅孀			
子	9B6F	5550	5348	孑	孕孚孛孥	孩孰孳孵	學斈孺
宀	9B6F	5550	5348				宀
	9B80	5560	5364	它宦宸寃	寇寉寔寐	寤實寢寞	寥寫寰寶
	9B90	5570	5380	寳			
寸	9B90	5570	5380	尅將專	對		
小	9B90	5570	5380		尓尠		
尢	9B90	5570	5380		尢	尨	
尸	9B90	5570	5380			尸尹屁	屆屎屓
	9B9E	5620	5400	屐屏孱	屬		
屮	9B9E	5620	5400		屮		
山	9B9E	5620	5400		乢屶	屹岌岑岔	妛岫岻岶
	9BAE	5630	5416	岼岷峅岾	峇峙峩峽	峺峭嶌峪	崋崕崗嵜
	シフトJIS	JIS	区点	0 1 2 3	4 5 6 7	8 9 A B	C D E F

付録F

	シフトJIS	JIS	区点	0 1 2 3	4 5 6 7	8 9 A B	C D E F
山	9BB3	5460	5432	崟崛崑崔	崢崚崙崘	嵌嵒嵎嵋	嵬嵳嵶嶇
	9BCE	5650	5448	嶄嶂嶢嶝	嶬嶮嶽嶐	嶷嶼巉巍	巓巒巖
巛	9BCE	5650	5448				巛
工	9BDE	5660	5464	巫			
己	9BDE	5660	5464	已巵			
巾	9BDE	5660	5464	帋	帚帙帑帛	帶帷幄幃	幀幎幗幔
	9BEE	5670	5480	幟幢幤幇			
干	9BEE	5670	5480		幵并		
幺	9BEE	5670	5480		幺麼		
广	9BEE	5670	5480			广庠廁廂	廈廐廏
	9C3F	5720	5500	廖廣廝	廚廛廢廡	廨廩廬廱	廳廰
廴	9C3F	5720	5500				廴廸
廾	9C4F	5730	5516	廾弃弉彝	彜		
弋	9C4F	5730	5516		弋弑		
弓	9C4F	5730	5516		弖	弩弭弸彁	彈彌彎弯
彑	9C5F	5740	5532	彑彖彗彙			
彡	9C5F	5740	5532		彡彭		
彳	9C5F	5740	5532		彳彷	徃徂彿徊	很徑徇從
	9C6F	5750	5548	徙徘徠徨	徭徼		
心	9C6F	5750	5548		忖忻	忤忸忱忝	悳忿怡恠
	9C80	5760	5564	怙怐怩怎	怱怛怕怫	怦怏怺恚	恁恪恷恟
	9C90	5770	5580	恊恆恍恣	恃恤恂恬	恫恙悁悍	惧悃悚
	9C9E	5820	5600	悄悛悖	悗悒悧悋	惡悸惠惓	悴忰悽惆
	9CAE	5830	5616	悵惘慍愕	愆惶惷愀	惴惺愃愡	惻惱愍愎
	9CBE	5840	5632	慇愾愨愧	慊愿愼愬	愴愽慂慄	慳慷慘慙
	9CCE	5850	5648	慚慫慴慯	慥慱慟慝	慓慵憙憖	憇憬憔憚
	9CDE	5860	5664	憊憑憫憮	懌懊應懷	懈懃懆憺	懋罹懍懦
	9CEE	5870	5680	懣懶懺懴	懿懽懼懾	戀	
戈	9CEE	5870	5680			戈戉戍	戌戔戛
	9D3F	5920	5700	戞戡截	戮戰戲戳		
戸	9D3F	5920	5700			扁	
手	9D3F	5920	5700			扎扞扣	扛扠扨扼
	9D4F	5930	5716	抂抉找抒	抓抖拔抃	抔拗拑抻	拏拿拆擔
	9D5F	5940	5732	拈拜拌拊	拂拇抛拉	挌拮拱挧	挂挈拯拵
	9D6F	5950	5748	捐挾捍搜	捏掖掎掀	掫捶掣掏	掉掟掵捫
	9D80	5960	5764	捩掾揩揀	揆揣揉插	揶揄搖搴	搆搓搦搶
	9D90	5970	5780	攝搗搨搏	摧摯摶摎	攪撕撓撥	撩撈撼
	9DAE	5A20	5800	據擒擅	擇撻擘擂	擱擧舉擠	擡抬擣擯
	9DAE	5A30	5816	攬擶擴擲	擺攀擽攘	攜攅攤攣	攫
攴	9DAE	5A30	5816				攴攵攷
	9DBE	5A40	5832	收攸畋效	敖敕敍敘	敞敝敲數	斂斃變
	シフトJIS	JIS	区点	0 1 2 3	4 5 6 7	8 9 A B	C D E F

	シフトJIS	JIS	区点	0 1 2 3	4 5 6 7	8 9 A B	C D E F
斗	9DBE	5A40	5832				斛
	9DCE	5A50	5848	斟			
斤	9DCE	5A50	5848	斫斷			
方	9DCE	5A50	5848	旃	旆旁旄旌	旒旛旙	
无	9DCE	5A50	5848			无	旡
日	9DCE	5A50	5848				旱杲昊
	9DDE	5A60	5864	昃旻杳昵	昶昴昜晏	晄晉晁晞	晝晤晧晨
	9DEE	5A70	5880	晟晢晰暃	暈暎暉暄	暘暝曁暹	曉暾暼
	9E3F	5B20	5900	曄暸曖	曚曠昿曦	曩	
曰	9E3F	5B20	5900			曰曵曷	
月	9E3F	5B20	5900				朏朖朞朦
	9E4F	5B30	5916	朧霸			
木	9E4F	5B30	5916	朮朿	朶杁朸朷	杆杞杠杙	杣杤枉杰
	9E5F	5B40	5932	枩杼杪枌	枋枦枡枅	枷柯枴柬	枳柩枸柤
	9E6F	5B50	5948	柞柝柢柮	枹柎柆柧	桧栞框栩	桀桍栲桎
	9E80	5B60	5964	梳栫桙档	桷桿梟梏	梭梔條梛	梃梼梹桴
	9E90	5B70	5980	梵梠梺椏	梍桾椁棊	椈棘椢椦	棡椌棍
	9E9E	5C20	6000	棔棧棕	椶椒椄棗	棣椥棹棠	棯椨椪椚
	9EAE	5C30	6016	椣椡棆楹	楷楜楸楫	楔楾楮椹	楴椽楙椰
	9EBE	5C40	6032	楡楞楝榁	楪榲榮槐	榿槁槓榾	槎寨槊槝
	9ECE	5C50	6048	榻槃榧樮	榑榠榜榕	榴槞槨樂	樛槿權槹
	9EDE	5C60	6064	槲槧樅榱	樞槭樔槫	樊樒櫁樣	樓橄樌橲
	9EEE	5C70	6080	樶橸橇橢	橙橦橈樸	樢檐檍檠	檄檢檣
	9F3F	5D20	6100	檗蘗檻	櫃櫂檸檳	檬櫞櫑櫟	檪櫚櫪櫻
	9F4F	5D30	6116	欅蘖櫺欒	欖鬱欟		
欠	9F4F	5D30	6116		欸	欷盜欹飮	歇歃歉歐
	9F5F	5D40	6132	歙歔歛歟	歡		
止	9F5F	5D40	6132		歸		
歹	9F5F	5D40	6132		歹歿	殀殄殃殍	殘殕殞殤
	9F6F	5D50	6148	殪殫殯殲	殱		
殳	9F6F	5D50	6148		殳殷殼	毆	
毋	9F6F	5D50	6148			毋毓	
毛	9F6F	5D50	6148			毟	毬毫毳毯
	9F80	5D60	6164	麾氈			
氏	9F80	5D60	6164	氓			
气	9F80	5D60	6164	气	氛氤氣		
水	9F80	5D60	6164		汞	汕汢汪沂	沍沚沁沛
	9F90	5D70	6180	汾汨汳沒	沐泄泱泓	沽泗泅泝	沮沱沾
	9F9E	5E20	6200	沺泛泯	泙泪洟衍	洶洫洽洸	洙洵洳洒
	9FAE	5E30	6216	洌浣涓浤	浚浹浙涎	涕涛涅淹	渕渊涵淇
	9FBE	5E40	6232	淦涸淆淬	淞淌淨淒	淅淺淙淤	淕淪淮渭
	シフトJIS	JIS	区点	0 1 2 3	4 5 6 7	8 9 A B	C D E F

付録F

	シフトJIS	JIS	区点	0 1 2 3	4 5 6 7	8 9 A B	C D E F
水	9FCE	5E50	6248	湮 渮 渙 湲	湟 渾 渣 湫	渫 湶 湍 渟	湃 渺 湎 渤
	9FDE	5E60	6264	滿 渝 游 溂	溪 溘 滉 溷	滓 溽 溯 滄	溲 滔 滕 溏
	9FEE	5E70	6280	溥 滂 溟 潁	漑 灌 滬 滸	滾 漿 滲 漱	滯 漲 滌
	E03F	5F20	6300	漾 漓 滷	澆 潺 潸 澁	澀 潯 潛 濳	潭 澂 潼 潘
	E04F	5F30	6316	澎 澑 濂 潦	澳 澣 澡 澤	澹 濆 澪 濟	濕 濬 濔 濘
	E05F	5F40	6332	濱 濮 濛 瀉	瀋 濺 瀑 瀁	瀏 濾 瀛 瀚	潴 瀝 瀘 瀟
	E06F	5F50	6348	瀰 瀾 瀲 灑	灣		
火	E06F	5F50	6348		炙 炒 炯	烱 炬 炸 炳	炮 烟 烋 烝
	E080	5F60	6364	烙 焉 烽 焜	焙 煥 煕 熈	煦 煢 煌 煖	煬 熏 燻 熄
	E090	5F70	6380	熕 熨 熬 燗	熹 熾 燒 燉	燔 燎 燠 燬	燧 燵 燼
	E09E	6020	6400	燹 燿 爍	爐 爛 爨		
爪	E09E	6020	6400		爭	爬 爰 爲	
爻	E09E	6020	6400			爻	爼
爿	E09E	6020	6400				爿 牀 牆
	E0AE	6030	6416	牋 牘			
牛	E0AE	6030	6416	牴 牾	犂 犁 犇 犒	犖 犢 犧	
犬	E0AE	6030	6416			犹	犲 狃 狆 狄
	E0BE	6040	6432	狎 狒 狢 狠	狡 狹 狷 倏	猗 猊 猜 猖	猝 猴 猯 猩
	E0CE	6050	6448	猥 猾 獎 獏	默 獗 獪 獨	獰 獸 獵 獻	獺
王	E0CE	6050	6448				珈 玳 珎
	E0DE	6060	6464	玻 珀 珥 珮	珞 璢 琅 瑯	琥 珸 琲 琺	瑕 琿 瑟 瑙
	E0EE	6070	6480	瑁 瑜 瑩 瑰	瑣 瑪 瑶 瑾	璋 璞 璧 瓊	瓏 瓔 珱
瓜	E13F	6120	6500	瓠 瓣			
瓦	E13F	6120	6500	瓧	瓩 瓮 瓲 瓰	瓱 瓸 瓷 甄	甃 甅 甌 甎
	E14F	6130	6516	甍 甕 甓			
甘	E14F	6130	6516	甞			
生	E14F	6130	6516		甦		
用	E14F	6130	6516		甬		
田	E14F	6130	6516		甼 畄	畍 畊 畉 畛	畆 畚 畩 畤
	E15F	6140	6532	畧 畫 畭 畸	當 疆 疇 畴	疊 疉 疂	
疒	E15F	6140	6532			疔	疚 疝 疥 疣
	E16F	6150	6548	痂 疳 痃 疵	疽 疸 疼 疱	痍 痊 痒 痙	痣 痞 痾 痿
	E180	6160	6564	痼 瘁 痰 痺	痲 痳 瘋 瘍	瘉 瘟 瘧 瘠	瘡 瘢 瘤 瘴
	E190	6170	6580	瘰 瘻 癇 癈	癆 癜 癘 癡	癢 癨 癩 癪	癧 癬 癰
	E19E	6220	6600	癲			
癶	E19E	6220	6600	癶 癸	發		
白	E19E	6220	6600		皀 皃 皈	皋 皎 皖 皓	皙 皚
皮	E19E	6220	6600				皰 皴
	E1AE	6230	6616	皸 皹 皺			
皿	E1AE	6230	6616	盂	盍 盖 盒 盞	盡 盥 盧 盪	蘯
目	E1AE	6230	6616				盻 眈 眇
	シフトJIS	JIS	区点	0 1 2 3	4 5 6 7	8 9 A B	C D E F

	シフトJIS	JIS	区点	0 1 2 3	4 5 6 7	8 9 A B	C D E F
目	E1BE	6240	6632	眄眩眤眞	眥眦眛眷	眸睇睚睨	睫睛睥睿
	E1CE	6250	6648	睾睹瞎瞋	瞑瞠瞞瞰	瞶瞹瞿瞼	瞽瞻矇矍
	E1DE	6260	6664	矗矚			
矛	E1DE	6260	6664	矜			
矢	E1DE	6260	6664	矣	矮		
石	E1DE	6260	6664		矼砌砒	砿砠砺硅	碎硴碆硼
	E1EE	6270	6680	碚碌碣碵	碪碯磑磆	磋磔碾碼	磅磊磬
	E23F	6320	6700	磧磚磽	磴礇礒礑	礙礬礫	
示	E23F	6320	6700			祀	祠祗祟祚
	E24F	6330	6716	祕祓祺祿	禊禝禧齋	禪禮禳	
禸	E24F	6330	6716			禹	禺
禾	E24F	6330	6716				秉秕秧
	E25F	6340	6732	秬秡秣稈	稍稘稙稠	稟禀稱稻	稾稷穃穗
	E26F	6350	6748	穉穡穢穩	龝穰		
穴	E26F	6350	6748		穹穽	窈窗窕窘	窖窩竈窰
	E280	6360	6764	窶竅竄窿	邃竇竊		
立	E280	6360	6764		竍	竏竕竓站	竚竝竡竢
	E290	6370	6780	竦竭竰			
竹	E290	6370	6780	笂	笏笊笆笳	笘笙笞笵	笨笶筐
	E29E	6420	6800	筺笄筍	笋筌筅筵	筥筴筧筰	筱筬筮箝
	E2AE	6430	6816	箘箟箍箜	箚箋箒箏	筝箙篋篁	篌篏箴篆
	E2BE	6440	6832	篝篩簑簔	篦篥篭簀	簇簓篳篷	簗簍篶簣
	E2CE	6450	6848	簧簪簟簷	簫簽籌籃	籔籏籀籐	籘籟籤籖
	E2DE	6460	6864	籥籬			
米	E2DE	6460	6864	粁粃	粐粤粭粢	粫粡粨粳	粲粱粮粹
	E2EE	6470	6880	粽糀糅糂	糘糒糜糢	鬻糯糲糴	糶
糸	E2EE	6470	6880				糺紆
	E33F	6520	6900	紂紜紕	紊絅絋紮	紲紿紵絆	絳絖絎絲
	E34F	6530	6916	絨絮絏絣	經綉絛綏	絽綛綺綮	綣綵緇綽
	E35F	6540	6932	綫總綢綯	緜綸綟綰	緘緝緤緞	緻緲緡縅
	E36F	6550	6948	縊縣縡縒	縱縟縉縋	縢繆繦縻	縵縹繃縷
	E380	6560	6964	縲縺繧繝	繖繞繙繚	繹繪繩繼	繻纃緕繽
	E390	6570	6980	辮繿纈纉	續纒纐纓	纔纖纎纛	纜
缶	E390	6570	6980				缸缺
	E39E	6620	7000	罅罌罍	罎罐		
网	E39E	6620	7000		网罕	罔罘罟罠	罨罩罧罸
	E3AE	6630	7016	羂羆羃羈	羇		
羊	E3AE	6630	7016		羌羔羞	羝羚羣羯	羲羹羮羶
	E3BE	6640	7032	羸譱			
羽	E3BE	6640	7032	翅翆	翊翕翔翡	翦翩翳翹	飜
老	E3BE	6640	7032				耆耄耋
	シフトJIS	JIS	区点	0 1 2 3	4 5 6 7	8 9 A B	C D E F

付録F

	シフトJIS	JIS	区点	0 1 2 3	4 5 6 7	8 9 A B	C D E F
耒	E3CE	6650	7048	耒耘耙耜	耡耨		
耳	E3CE	6650	7048		耿耻	聊聆聒聘	聚聟聢聨
	E3DE	6660	7064	聳聲聰聶	聹聽		
聿	E3DE	6660	7064		聿肄	肆肅	
肉	E3DE	6660	7064			肛肓	肚肭冐肬
	E3EE	6670	7080	胛胥胙胝	胄胚胖脉	胯胱脛脩	脣脯腋
	E43F	6720	7100	隋腆脾	腓腑胼腱	腮腥腦腴	膃膈膊膀
	E44F	6730	7116	膂膠膤膕	膣腟膓膩	膰膵膾膸	膽臀臂膺
	E45F	6740	7132	臉臍臑臙	臘臈臚臟	臠	
臣	E45F	6740	7132			臧	
至	E45F	6740	7132			臺臻	
臼	E45F	6740	7132				臾舁舂舅
	E46F	6750	7148	與舊			
舌	E46F	6750	7148	舍舐	舖		
舟	E46F	6750	7148		舩舫舸	舳艀艙艘	艝艚艟艤
	E480	6760	7164	艢艨艪艫	舮		
艮	E480	6760	7164		艱		
色	E480	6760	7164		艷		
艸	E480	6760	7164		艸	艾芍芒芫	芟芻芬苡
	E490	6770	7180	苣苟苒苴	苳苺莓范	苻苹苞茆	苜茉苙
	E49E	6820	7200	茵茴茖	茲茱荀茹	荐荅茯茫	茗茘莅莚
	E4AE	6830	7216	莪莟莢莖	茣莎莇莊	荼莵荳荵	莠莉莨菴
	E4BE	6840	7232	萓菫菎菽	萃菘萋菁	菷萇菠菲	萍萢萠莽
	E4CE	6850	7248	萸蔆菻葭	萪萼蕚蒄	葷葫蒭葮	蒂葩葆萬
	E4DE	6860	7264	葯葹萵蓊	葢蒹蒿蒟	蓙蓍蒻蓚	蓐蓁蓆蓖
	E4EE	6870	7280	蒡蔡蓿蓴	蔗蔘蔬蔟	蔕蔔蓼蕀	蕣蕘蕈
	E53F	6920	7300	蕁蕊蕋	蕕薀薤薈	薑薊薨蕭	薔薛藪薇
	E54F	6930	7316	薜蕷蕾薐	藉薺藏薹	藐藕藝藥	藜藹蘊蘓
	E55F	6940	7332	蘋藾藺蘆	蘢蘚蘰蘿		
虍	E55F	6940	7332			虍乕虔號	虧
虫	E55F	6940	7332				虱蚓蚣
	E56F	6950	7348	蚩蚪蚋蚌	蚶蚯蛄蛆	蚰蛉蛎蚫	蛔蛞蛩蛬
	E580	6960	7364	蛟蛛蛯蜒	蜆蜈蜀蜃	蛻蜑蜉蜍	蛹蜊蜴蜿
	E590	6970	7380	蜷蜻蜥蜩	蜚蝠蝟蝸	蝌蝎蝴蝗	蝨蝮蝙
	E59E	6A20	7400	蝓蝣蝪	蠅螢螟螂	螯蟋螽蟀	蟐雖螫蟄
	E5AE	6A30	7416	螳蟇蟆螻	蟯蟲蟠蠏	蠍蟾蟶蟷	蠎蟒蠑蠖
	E5BE	6A40	7432	蠕蠢蠡蠱	蠶蠹蠧蠻		
血	E5BE	6A40	7432			衄衂	
行	E5BE	6A40	7432			衒衙	衞衢
衣	E5BE	6A40	7432				衫袁
	E5CE	6A50	7448	衾袞衵衽	袵衲袂袗	袒袮袙袢	袍袤袰袿
	シフトJIS	JIS	区点	0 1 2 3	4 5 6 7	8 9 A B	C D E F

	シフトJIS	JIS	区点	0 1 2 3	4 5 6 7	8 9 A B	C D E F
衣	E5DE	6A60	7464	袱裃裄裔	裘裙裝裹	褂裼裴裨	裲褄褌褊
	E5EE	6A70	7480	褓襃褞褥	褪褫襁襄	褻褶褸襌	褝襠襞
	E63F	6B20	7500	襦襤襭	襪襯襴襷		
襾	E63F	6B20	7500			襾覃覈覊	
見	E63F	6B20	7500				覓覘覡覩
	E64F	6B30	7516	覦覬覯覲	覺覽覿觀		
角	E64F	6B30	7516			觚觜觝觧	觴觸
言	E64F	6B30	7516				訃訖
	E65F	6B40	7532	訐訌訛訝	訥訶詁詛	詒詆詈詼	詭詬詢誅
	E66F	6B50	7548	誂誄誨誡	誑誥誦誚	誣諄諍諂	諚諫諳諧
	E680	6B60	7564	諤諱謔諠	諢諷諞諛	謌謇謚諡	謖謐謗謠
	E690	6B70	7580	謳鞫謦謫	謾謨譁譌	譏譎證譖	譛譚譫
	E69E	6C20	7600	譟譬譯	譴譽讀讌	讎讒讓讖	讙讚
谷	E69E	6C20	7600				谺豁
	E6AE	6C30	7616	谿			
豆	E6AE	6C30	7616	豈豌豎	豐		
豕	E6AE	6C30	7616		豕豢豬		
豸	E6AE	6C30	7616			豸豺貂貉	貅貊貍貎
	E6BE	6C40	7632	貔豼貘			
貝	E6BE	6C40	7632	戝	貭貪貽貲	貳貮貶賈	賁賤賣賚
	E6CE	6C50	7648	賽賺賻贄	贅贊贇贏	贍贐齎贓	賍贔贖
赤	E6CE	6C50	7648				赧
	E6DE	6C60	7664	赭			
走	E6DE	6C60	7664	赱赳趁	趙		
足	E6DE	6C60	7664		跂趾趺	跏跚跖跌	跛跋跪跫
	E6EE	6C70	7680	跟跣跼踈	踉跿踝踞	踐踟蹂踵	踰踴蹊
	E73F	6D20	7700	蹇蹉蹌	蹐蹈蹙蹤	蹠踪蹣蹕	蹶蹲蹼躁
	E74F	6D30	7716	躇躅躄躋	躊躓躑躔	躙躪躡	
身	E74F	6D30	7716			躬	躰軆躱躾
	E75F	6D40	7732	軅軈			
車	E75F	6D40	7732	軋軛	軣軼軻軫	軾輊輅輕	輒輙輓輜
	E76F	6D50	7748	輟輛輌輦	輳輻輹轅	轂輾轌轉	轆轎轗轜
	E780	6D60	7764	轢轣轤			
辛	E780	6D60	7764	辜	辟辣辭辯		
辵	E780	6D60	7764			辷迚迥迢	迪迯迩迴
	E790	6D70	7780	逅迹迺逑	逕逡逍逞	逖逋逧逶	逵逹迸
	E79E	6E20	7800	遏遐遑	遒逎遉逾	遖遘遞遨	遯遶隨遲
	E7AE	6E30	7816	邂遽邁邀	邊邉邏		
邑	E7AE	6E30	7816		邨	邯邱邵郢	郤扈郛鄂
	E7BE	6E40	7832	鄒鄙鄲鄰			
酉	E7BE	6E40	7832		酊酖酘酣	酥酩酳酲	醋醉醂醢
	シフトJIS	JIS	区点	0 1 2 3	4 5 6 8	8 9 A B	C D E F

付録F

	シフトJIS	JIS	区点	0 1 2 3	4 5 6 7	8 9 A B	C D E F
酉	E7CE	6E50	7848	醫醯醪醵	醴醺釀釁		
釆	E7CE	6E50	7848			釉釋	
里	E7CE	6E50	7848			釐	
金	E7CE	6E50	7848			釖	釟釡釛釼
	E7DE	6E60	7864	釵釶鈞釿	鈔鈬鈕鈑	鉞鉗鉅鉉	鉤鉈銕鈿
	E7EE	6E70	7880	鉋鉐銜銖	銓銛鉚鋏	銹銷鋩錏	鋺鍄錮
	E83F	6F20	7900	錙錢錚	錣錺錵錻	鍜鍠鍼鍮	鍖鎰鎬鎭
	E84F	6F30	7916	鎔鎹鏖鏗	鏨鏥鏘鏃	鏝鏐鏈鏤	鐚鐔鐓鐃
	E85F	6F40	7932	鐇鐐鐶鐫	鐵鐡鐺鑁	鑒鑄鑛鑠	鑢鑞鑪鈩
	E86F	6F50	7948	鑰鑵鑷鑽	鑚鑼鑾钁	鑿	
門	E86F	6F50	7948			閂閇閊	閔閖閘閙
	E880	6F60	7964	閠閨閧閭	閼閻閹閾	闊濶闃闍	闌闕闔闖
	E890	6F70	7980	關闡闥闢			
阜	E890	6F70	7980		阡阨阮阯	陂陌陏陋	陷陜陞
	E89E	7020	8000	陝陟陦	陲陬隍隘	隕隗險隧	隱隲隰隴
隶	E8AE	7030	8016	隶隸			
隹	E8AE	7030	8016	隹雎	雋雉雍襍	雜霍雕	
雨	E8AE	7030	8016			雹	霄霆霈霓
	E8BE	7040	8032	霎霑霏霖	霙霤霪霰	霹霽霾靄	靆靈靂靉
青	E8CE	7050	8048	靜			
非	E8CE	7050	8048	靠			
面	E8CE	7050	8048	靤靦	靨		
革	E8CE	7050	8048		勒靫靱	靹鞅靼鞁	靺鞆鞋鞏
	E8DE	7060	8064	鞐鞜鞨鞦	鞣鞳鞴韃	韆韈	
韋	E8DE	7060	8064			韋韜	
韭	E8DE	7060	8064				韭齏韲
音	E8DE	7060	8064				竟
	E8EE	7070	8080	韶韻			
頁	E8EE	7070	8080	頏頌	頸頤頡頷	頽顆顏顋	顫顯顰
	E93F	7120	8100	顱顴顳			
風	E93F	7120	8100		颪颯颱颶	飄飃飆	
飠	E93F	7120	8100			飩	飫餃餉餒
	E94F	7130	8116	餔餘餡餝	餞餤餠餬	餮餽餾饂	饉饅饐饋
	E95F	7140	8132	饑饒饌饕			
首	E95F	7140	8132		馗馘		
香	E95F	7140	8132′		馥		
馬	E95F	7140	8132		馭	馮馼駟駛	駝駘駑駭
	E96F	7150	8148	駮駱駲駻	駸騁騏騅	騈騙騫騷	驅驂驀驃
	E980	7160	8164	騾驕驍驛	驗驟驢驥	驤驩驫驪	
骨	E980	7160	8164				骭骰骼髀
	E990	7170	8180	髏髑髓體			
	シフトJIS	JIS	区点	0 1 2 3	4 5 6 7	8 9 A B	C D E F

	シフトJIS	JIS	区点	0 1 2 3	4 5 6 7	8 9 A B	C D E F
高	E990	7170	8180		髞		
髟	E990	7170	8180		髟 髢 髣	髦 髯 髫 髮	髴 髱 髷
	E99E	7220	8200	髻 鬆 鬘	鬚 鬟 鬢 鬣		
鬥	E99E	7220	8200			鬥 鬧 鬨 鬩	鬪 鬮
鬯	E99E	7220	8200				鬯
鬲	E99E	7220	8200				鬲
鬼	E9AE	7230	8216	魄 魃 魏 魍	魎 魑 魘		
魚	E9AE	7230	8216		魴	鮓 鮃 鮑 鮖	鮗 鮟 鮠 鮨
	E9BE	7240	8232	鮴 鯀 鯊 鮹	鯆 鯏 鯑 鯒	鯣 鯢 鯤 鯔	鯡 鰺 鯲 鯱
	E9CE	7250	8248	鯰 鰕 鰔 鰉	鰓 鰌 鰆 鰈	鰒 鰊 鰄 鰮	鰛 鰥 鰤 鰡
	E9DE	7260	8264	鰰 鱇 鰲 鱆	鰾 鱚 鱠 鱧	鱶 鱸	
鳥	E9DE	7260	8264			鳧 鳬	鳰 鴉 鴈 鳫
	E9EE	7270	8280	鴃 鴆 鴪 鴦	鶯 鴣 鴟 鵄	鴕 鴒 鵁 鴿	鴾 鵆 鵈
	EA3F	7320	8300	鵝 鵞 鵤	鵑 鵐 鵙 鵲	鶉 鶇 鶫 鵯	鵺 鶚 鶤 鶩
	EA4F	7330	8316	鶲 鷄 鷁 鶻	鶸 鶺 鷆 鷏	鷂 鷙 鷓 鷸	鷦 鷭 鷯 鷽
	EA5F	7340	8332	鸚 鸛 鸞			
鹵	EA5F	7340	8332	鹵	鹹 鹽		
鹿	EA5F	7340	8332		麁 麈	麋 麌 麒 麕	麑 麝
麥	EA5F	7340	8332				麥 麩
	EA6F	7350	8348	麸 麪 麭			
麻	EA6F	7350	8348	靡			
黃	EA6F	7350	8348		黌		
黍	EA6F	7350	8348		黎 黏 黐		
黑	EA6F	7350	8348			黔 黜 點 黝	黠 黥 黨 黯
	EA80	7360	8364	黴 黶 黷			
黹	EA80	7360	8364	黹	黻 黼		
黽	EA80	7360	8364		黽 鼇	鼈	
鼓	EA80	7360	8364			皷 鼕	
鼠	EA80	7360	8364			鼡	鼬
鼻	EA80	7360	8364				鼾
齊	EA80	7360	8364				齊
齒	EA80	7360	8364				齒
	EA90	7370	8380	齔 齣 齟 齠	齡 齦 齧 齬	齪 齷 齲 齶	
龍	EA90	7370	8380				龕
龜	EA90	7370	8380				龜
龠	EA90	7370	8380				龠
	シフトJIS	JIS	区点	0 1 2 3	4 5 6 7	8 9 A B	C D E F

●拡張文字コード表

シフトJIS	JIS	区点	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
ED3F	7920	8900		纊	褜	鍈	銈	蓜	俉	炻	昱	棈	鋹	曻	彅	丨	仡	仼
ED4F	7930	8916	伀	伃	伹	佖	侒	侊	侚	侔	俍	偀	倢	俿	倞	偆	偰	偂
ED5F	7940	8932	傔	僴	僘	兊	兤	冝	冾	凬	刕	劜	劦	勀	勛	匀	匇	匤
ED6F	7950	8948	卲	厓	厲	叝	﨎	咜	咊	咩	哿	喆	坙	坥	垬	埈	埇	﨏
ED80	7960	8964	塚	增	墲	夋	奓	奛	奝	奣	妤	妺	孖	寀	甯	寘	寬	尞
ED90	7970	8980	岦	岺	峵	崧	嵓	﨑	嵂	嵭	嶸	嶹	巐	弡	弴	彧	德	
ED9E	7A20	9000		忞	恝	悅	悊	惞	惕	愠	惲	愑	愷	愰	憘	戓	抦	揵
EDAE	7A30	9016	摠	撝	擎	敎	昀	昕	昻	昉	昮	昞	昤	晥	晗	晙	晴	晳
EDBE	7A40	9032	暙	暠	暲	暿	曺	朎	朗	杦	枻	桒	柀	栁	桄	棏	﨓	楨
EDCE	7A50	9048	﨔	榘	槢	樰	橫	橆	橳	橾	櫢	櫤	毖	氿	汜	沆	汯	泚
EDDE	7A60	9064	洄	涇	浯	涖	涬	淏	淸	淲	淼	渹	湜	渧	渼	溿	澈	澵
EDEE	7A70	9080	濵	瀅	瀇	瀨	炅	炫	焏	焄	煜	煆	煇	凞	燁	燾	犱	
EE3F	7B20	9100		犾	猤	猪	獷	玽	珉	珖	珣	珒	琇	珵	琦	琪	琩	琮
EE4F	7B30	9116	瑢	璉	璟	甁	畯	皂	皜	皞	皛	皦	益	睆	劯	砡	硎	硤
EE5F	7B40	9132	硺	礰	礼	神	祥	禔	福	禛	竑	竧	靖	竫	箞	精	絈	絜
EE6F	7B50	9148	綷	綠	緖	繒	罇	羡	羽	茁	荢	荿	菇	菶	葈	蒴	蕓	蕙
EE80	7B60	9164	蕫	﨟	薰	蘒	﨡	蠇	裵	訒	訷	詹	誧	誾	諟	諸	諶	譓
EE90	7B70	9180	譿	賰	賴	贒	赶	﨣	軏	﨤	逸	遧	郞	都	鄕	鄧	釚	
EE9E	7C20	9200		釗	釞	釭	釮	釤	釥	鈆	鈐	鈊	鈺	鉀	鈼	鉎	鉙	鉑
EEAE	7C30	9216	鈹	鉧	銧	鉷	鉸	鋧	鋗	鋙	鋐	﨧	鋕	鋠	鋓	錥	錡	鋻
EEBE	7C40	9232	﨨	錞	鋿	錝	錂	鍰	鍗	鎤	鏆	鏞	鏸	鐱	鑅	鑈	閒	隆
EECE	7C50	9248	﨩	隝	隯	霳	霻	靃	靍	靏	靑	靕	顗	顥	飯	飼	餧	館
EEDE	7C60	9264	馞	驎	髙	髜	魵	魲	鮏	鮱	鮻	鰀	鵰	鵫	鶴	鸙	黑	
EEEE	7C70	9280		i	ii	iii	iv	v	vi	vii	viii	ix	x	¬	¦	'	"	
シフトJIS	JIS	区点	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F

注意：拡張文字は，PC-9800シリーズで，JIS第1水準，JIS第2水準以外の画面に表示できる文字です．ただし，機種によっては，サポートされていません．

索 引

英数字

ア

カ

サ

タ

ナ

ハ

マ

ヤ

ラ